

講義概要

SYLLABUS 2023



学校法人 有坂中央学園

中央医療歯科専門学校太田校

中央医療歯科専門学校高崎校

マークデザインコンセプト(表紙)

●狙った魚を素早い動きで確実に捕るエネルギッシュで若々しいイメージを持った、カワセミをモチーフに、この“カワセミ(若者)が殻を破って誕生するのを手助けする”というストーリーをデザイン化しました。ビジネス社会という大空へはばたく若者を「教育」という大きな愛でサポートする、といったスクールイメージを表したマークです。

●親鳥は雛鳥の卵が孵化寸前になると、その事を本能で知覚し、くちばしで卵の表面に小さな穴を開け、雛鳥の誕生を手伝います。これを『そったく』といい、禅道において弟子が悟りを開く寸前に、師匠が悟りに導くため手助けをすること、師と弟子の機運が熟することを意味しており、これがマークの基本コンセプトになっています。

●カワセミの家系図は、“ブッポウソウ目カワセミ科”。宝石のような美しさから“翡翠(ひすい)の鳥”と呼ばれたこともあり、貴族の国イギリスでは、狙った獲物は決して逃さない、百発百中“百鳥の王”の一族として“Kingfisher”と呼ばれています。

「講義概要(シラバス)発行にあたり」

学校法人有坂中央学園
中央医療歯科専門学校太田校
校長 星野 寛一

中央医療歯科専門学校高崎校
校長 原 和 則

—未来に大きな夢を持つ学生のみなさんへ—

学生の皆さんは、これから、この講義概要(シラバス)の内容に沿って、3年間の学生生活を送ります。その3年間には、必要な知識習得のために深く研究することや、高度な技術を身につけるための努力が必要です。そのためにも、途中で挫折することが無いように、自分の心の中に燃やし続けている「歯科衛生士になるのだ」という情熱をいつまでも持ち続けて、勉学に励んでほしいと思います。

また日常生活にあっても、「思いやりのある心、感謝の心、奉仕の心」をもって何事にも積極的に取り組んでください。失敗を恐れることなく、かえって失敗から大切なことを学ぼうとする強い心を持ってすべてのことに立ち向かってほしいと思います。

本校での行事は、いろいろ多方面にわたっていますが、それらの行事を通じて、学生の皆さんは多くの真の友人を作っていくことが出来ると信じています。

素敵な仲間と助け合いながら、時には気持ちが崩れそうになる仲間をみんなで励ましあって、3年後には是非全員で卒業式を迎え、見事歯科衛生士国家試験にそろって合格してくれることを祈っています。

自分の行く道を信じ、果敢なチャレンジ精神をもって、頑張ってください。

目次

講義概要(シラバス)発行にあたり	1
1 学園の沿革	3
2 行事予定	
中央医療歯科専門学校太田校	4
中央医療歯科専門学校高崎校	5
3 教育の基本方針	6
4 各種検定一覧	7
5 年間就職指導	8
6 大学3年次編入について	9
7 履修科目一覧(学年別の各科目の索引)	10
8 講義概要	
8-1 歯科衛生士学科(1年)	12
8-2 歯科衛生士学科(2年)	45
8-3 歯科衛生士学科(3年)	69
9 実務経験のある教員による授業科目一覧	
中央医療歯科専門学校太田校	85
中央医療歯科専門学校高崎校	86
10 教科書・参考書一覧と関連する科目	87
国試受験生としての勉強	88
国試110問(午前・午後)の科目配分とおおよその問題番号	89
学習の段階と学びの姿勢について	89
再試験について	89
授業の受け方	89
主要3教科の勉強について	89
(付)体験学習	90
(付)コアカリキュラム 2022年改訂版	93

1 学園の沿革

1942年	9月	有坂学園『前橋服装女学院』創立。初代校長に有坂作太郎が就任する。
1952年	7月	北関東初の簿記会計の専門校として『有坂学園・前橋商業学校』に改称する。
1965年	4月	『有坂学園・前橋高等経理学校』に校名を改称する。
1974年	9月	第2代校長に有坂作太郎の長女である中島芳子が就任する。
1976年	4月	創立35周年を迎え、総合経理の専門学校として歩み出す。
1983年	10月	第3代校長に山中庄太郎(元県出納長)が就任する。
1985年	3月	新校舎完成。群馬の中央・頭脳都市前橋に移転する。
1986年	4月	産能短大と提携。県下初のダブル・スクール制度を採用する。
1988年	4月	『中央情報経理専門学校』に校名を変更する。
	10月	全国経理学校協会女子ソフトボール関東大会初出場初優勝。(以降2011年まで22回出場、優勝17回、準優勝3回)
1990年	4月	経理と情報教育を充実させるため本館・2号館・3号館に近代的な設備を完備する。 アメリカ・デブライ大学と提携し、留学生2名を派遣する。
1991年	7月	産学一体の教育を目的に人事交流連絡会『人材育成フォーラム』を発足する。
1992年	4月	オーストラリア・キャンベラ大学と提携し、留学生2名を派遣する。
	7月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、電卓の部優勝。簿記の部、珠算の部も上位入賞。
	9月	創立50周年を迎える。
1994年	4月	PINE-NET(衛星通信ネットワーク教育システム)協会に加盟する。
1997年	4月	情報処理検定にて全国1位の成績に贈られる『広中平祐賞』を受賞する。
1998年	4月	中央情報経理専門学校太田校(太田市)創立。 中央工学院専門学校(前橋市)創立。
	7月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、3部門すべて上位入賞し、全国大会出場を果たす。
1999年	4月	中央高等専門学院(前橋市)創立。
	5月	全国経理学校協会関東地方会の会長校となり、関東で中核をなす総合ビジネススクールに成長する。
2000年	1月	早稲田コンピュータ専門学校(高崎市)がグループ校に加わる。
2001年	4月	高崎ビューティモード専門学校(高崎市)創立。
2001年	11月	ISO9001を高等教育機関において全国初で認証を受ける。
2002年	9月	創立60周年を迎える。
2003年	4月	中央医療歯科専門学校太田校(太田市)創立。
2004年	4月	中央医療歯科専門学校に校名変更。
2004年	7月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、簿記の部優勝。電卓の部、珠算の部準優勝。
	9月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会全国大会において、簿記の部準優勝。電卓の部6位。
2005年	4月	群馬法科ビジネス専門学校(前橋市)、高崎ペットワールド専門学校(高崎市)創立。
	12月	全国専門学校ロボット競技会において全国優勝。ハードウェア部門優勝・3位。
2006年	4月	中央工学院専門学校と中央情報経理専門学校のデジタルデザイン科が統合、中央工科デザイン専門学校と校名変更。
2006年	7月	全国経理教育協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、簿記の部、電卓の部準優勝。
	9月	全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部優勝。電卓の部準優勝。 簿記個人の部においても、1位から3位まで入賞。
2007年	9月	全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部2年連続優勝。
	12月	全国専門学校ロボット競技会においてハードウェア部門準優勝。
	3月	中央工科デザイン専門学校(前橋市古市町)移転。
2011年	4月	中央農業グリーン専門学校(前橋市南町)創立。 群馬法科ビジネス専門学校桐生校(桐生市)創立。
2011年	12月	国内認証スキームに基づくISO29990を学校法人として初めて認証を受ける。
2012年	9月	学園創立70周年を迎える。
2014年		中央高等専門学院を中央高等専修学校前橋校と中央高等専修学校桐生校に改編し、開校文科省職業実践課程認定。
2015年		中央農業グリーン専門学校食農調理学6次産業化スキルを身につける調理師養成指定施設として指定を受ける。
2016年	4月	高崎ペットワールド専門学校を中央動物看護専門学校に校名変更。
2017年	4月	中央医療歯科専門学校高崎校(高崎市)創立。 前橋市が公募した「旧嶺小学校活用事業」に提案し認められる。 グローバル人材育成を目指す英語体験施設「イングリッシュビレッジ MAEBASHI」が開校。
2018年	4月	中央情報経理専門学校高崎校を中央情報大学校に校名変更。 中央農業グリーン専門学校を中央農業大学校に校名変更。
2019年	12月	中央動物看護専門学校が群馬サファリワールドと職業教育連携。
2020年	6月	前橋東洋医学専門学校(新校名:中央スポーツ医療専門学校)の運営を当学園グループが継承。
2021年	7月	中央情報経理専門学校とクスリのマルエと職業教育連携。
2022年	9月	学園創立80周年を迎える。

2 行事予定表(太田校)

<1年次>

	行 事
4月	入学式 避難訓練 献血 健康診断 歩行ラリー
5月	
6月	国内研修 保護者会(総会・各学年)
7月	戴帽式参加
8月	終業式 夏季休暇 始業式 スポーツフェスティバル
9月	保護者(各学年) 卒業研究発表会参加
10月	学園祭
11月	
12月	総合訓練 学術講演会 終業式 冬期休暇
1月	始業式
2月	
3月	卒業式参加 終業式 春季休暇

<3年次>

	行 事
4月	始業式 避難訓練 健康診断 献血
5月	臨床実習(第3クール) 就職総決起大会
6月	臨床実習(第3クール) 保護者会(総会・各学年)
7月	臨床実習(第3クール)終了
8月	終業式 夏季休暇 始業式 スポーツフェスティバル
9月	保護者(各学年) 模擬試験 卒業研究発表会
10月	模擬試験 学園祭
11月	受験判定試験①
12月	国試補講開始 総合訓練 学術講演会 受験判定試験② 終業式 冬期休暇
1月	始業式 だるま目入れ 受験判定試験③
2月	
3月	国試受験 卒業式

<2年次>

	行 事
4月	始業式 献血 健康診断 避難訓練
5月	
6月	保護者会(総会・各学年)
7月	戴帽式
8月	患者実習 終業式 夏季休暇 始業式 スポーツフェスティバル
9月	患者実習 卒業研究発表会参加 保護者(各学年)
10月	臨床実習(第1クール) 学園祭
11月	臨床実習(第1クール)終了
12月	総合訓練 学術講演会 模擬試験 終業式 冬期休暇
1月	始業式 成人の祝 臨床実習(第2クール)
2月	臨床実習(第2クール)
3月	臨床実習(第2クール)終了 卒業式参加 終業式 春季休暇

戴帽式



歯科衛生士学科において基礎実習から臨床実習が開始される際に、臨床の現場に向かう者としての心構えを表す意味でナースキャップ等授与の儀式を行う。

行事予定表(高崎校)

<1年次>

	行 事
4月	入学式 献血 健康診断 歩行ラリー
5月	
6月	国内研修 保護者会(総会・各学年) 戴帽式参加
7月	
8月	終業式 夏季休暇 始業式 スポーツフェスティバル 学園祭
9月	
10月	卒業研究発表会参加
11月	保護者(各学年)
12月	総合訓練 学術講演会 終業式 冬季休暇
1月	始業式
2月	
3月	卒業式参加 終業式 春季休暇

<3年次>

	行 事
4月	始業式 健康診断 献血
5月	臨床実習(第3クール)
6月	臨床実習(第3クール) 保護者会(総会・各学年)
7月	臨床実習(第3クール)終了
8月	終業式 夏季休暇 始業式 スポーツフェスティバル 学園祭
9月	模擬試験 就職総決起大会
10月	模擬試験 卒業研究発表会
11月	保護者(各学年) 受験判定試験①
12月	国試補講開始 学術講演会 総合訓練 受験判定試験② 終業式 冬期休暇
1月	始業式 だるま目入れ 受験判定試験③
2月	
3月	国試受験 卒業式

<2年次>

	行 事
4月	始業式 献血 健康診断
5月	
6月	保護者会(総会・各学年)
7月	戴帽式
8月	患者実習 終業式 夏季休暇 始業式 スポーツフェスティバル
9月	患者実習 学園祭
10月	臨床実習(第1クール) 卒業研究発表会参加
11月	臨床実習(第1クール)終了 保護者(各学年)
12月	総合訓練 学術講演会 終業式 冬期休暇
1月	始業式 成人の祝 臨床実習(第2クール)
2月	臨床実習(第2クール)
3月	臨床実習(第2クール)終了 卒業式参加 終業式 春季休暇

卒業研究発表会



今まで学んだことを統合し、問題発見・問題解決能力を高め
を高め、歯科衛生士
としての自分のビジョンを考える。
自分でテーマを考え、実験や研究を行い、論文を作成し、
プレゼンテーションを行う。自分で問題を発見・設定し、取

3 教育の基本方針

○校訓

清楚・勤勉・奉仕

○教育目標

現代の地域社会に貢献できる医療と衛生に関する高度の知識・技能を修得させ、国家資格・各種検定資格を取得し、高い倫理性と豊かな人間性を持つスペシャリストを養成する。

○学園標語

『思いやりの心、感謝の心、奉仕の心』

○基本方針

清新澆刺・進取創造の校風を確立し、本学は学生のため、地域社会のためにあるとの基本姿勢で、地域社会の信頼を獲得する。

- (1) 学生指導に当たっては、一致協力・責任自覚・創意工夫をモットーに、新鮮な目で英知を出し合い、職務・授業の改善・充実に努め、きめ細やかな配慮と教育的愛情を持って学生指導、薫育に当たる。特に、社会人として必要な「挨拶」「服装・態度」「言葉遣い」「マナー」「遅刻・欠席・早退」の管理等の指導に重点を置く。
- (2) 人生観・職業観の確立と、積極的な就職(進学)研究・見学・臨床臨地実習、就職先の開拓など学生自らの実践をさせるとともに、学校・教職員も適切な進路・就職指導に全力を傾注する。
- (3) 地域社会に開かれた学校を目指し、企業・病院・歯科診療所・行政機関・教育機関など地元との連携を一層深め、社会人教育講座等への開講を積極的に行う。
- (4) 事務処理においては、正確・的確にまた電話・来客への対応は親切・丁寧・笑顔をモットーとする。

○具体的方針

『やって・見て・考える』

1.発想法

我々は日常起きている諸問題を適切に且つ有効に解決することが求められている。発想法はこれらの課題を達成するための問題解決の手法である。与えられたテーマで一人一人が小さなカードに事実を簡潔明瞭に書き、それを分類・整理・ディスカッションをして「事実の本質」を掘み取り参加した者全員が認識する手法である。

2.歩行ラリー

予め設定されたコースを二人一組でルールにのっとり、コマ地図にある自然物や造形物を目標に指示された経路を指示された時間でスタートからゴールまで歩く。この体験の中から問題解決の実践により「事実の本質」を身をもって体得することとなる。

○本学学生がめざすもの

『失敗から学ぶ心と方法を知る』

『一生の間を通じて、
仕事を学ぶ「心」と「方法」が分かる人間』

『歯科衛生士として
不可欠な知識を身につける』

『21世紀を担う歯科衛生士として
必要な専門的な知識と技術を備え、
それを専門分野で証明できる人間』

『豊かな人間性を兼ね備える』

『生き生きと職場で活躍し育っていくために
必要な人間性を兼ね備えた人間』

4 各種検定一覧

太田校

種目	主催	試験日
歯科衛生士国家試験	厚生労働省 歯科医療振興財団	3月第一日曜日予定
社会人常識マナー検定	全国経理教育協会	9月または1月予定
経済記事の読み方検定	日本実務能力教育協会	8月予定

高崎校

種目	主催	試験日
歯科衛生士国家試験	厚生労働省 歯科医療振興財団	3月第一日曜日予定
社会人常識マナー検定	全国経理教育協会	9月または1月予定
経済記事の読み方検定	日本実務能力教育協会	8月予定

※種目・主催・試験日等は諸事情により変更になることがあります。

5 年間就職指導計画

就職指導部活動計画表 1 (1~3年次) 太田校・高崎校

	行事	就職研究
2 年生	第 1 期 歯科衛生士の仕事とは何か、求められるものについて研究する	
4 月	各種セミナー参加 講習会・学会 歯科保健大会参加	服装と化粧 言葉遣い 電話の掛け方／アポイントのとり方 医院訪問の仕方 歯科医院の実情を学ぶ 求められる歯科衛生士像の探求
6 月		
3 年生		
4 月		就職相談開始 (就職相談メモ)相談と資料提供
6 月	保護者会	保護者への就職状況の説明
7 月	マナー指導 患者実習	臨床実習前マナー指導 予防処置技術 コミュニケーション能力 説明技術
8 月	第 2 期 現場を知る	
9 月	臨床実習 (2 年次 9 月～3 年次 9 月まで)	医療機関における歯科衛生士業務を学び実践する 歯科衛生士における職域への可能性を追求する
3 年生	求職カードの記入	
7 月	業界研究	業態(自治体・総合病院・歯科医院) 地域(自宅通勤・遠隔地・路線沿線) 科目(診療科目) 将来設計(65 歳までの人生設計) 労働環境・労働時間(立ち仕事・拘束時間が長い) 収入(初任給・2～3 年後) 保険(組合加入・保険制度) 求める人材(容姿・性格・技術・知識・その他) 試験内容・準備内容(面接・筆記・専門・適性) 評判(地元の評判) 求人者の時期(時期の違い) 保護者の理解・同意 調査の仕方(事前調査を行なってみよう)
	自分史の作成と PI 履歴	先輩たちの PI 履歴書の書き方と活用法(体験談も可) 自分の良さの発見(自分史の作成) 履歴書で最も難しいところはどこか 志望動機の書きかた

就職指導部活動計画表2(3年次)太田校・高崎校

	行事	就職研究
3年生 8月	第3期 本番に備えて仕上げに入る	
	求人票公開	就職希望先の絞込み 身だしなみの確認 模擬面接試験 訪問のストーリーと質問の受け答え そこで自分は何をしたいか明確にする 何を質問するか 質問にどう答えるか
9月	第4期 積極果敢 失敗を恐れずに誠意をもった行動に導く	
	就職活動開始	
	第5期 学生、担任、就職指導部一体となり全員就職達成を目指す	
1月	就職指導強化開始	積極的な訪問の指導 重複内定者の指導
	第6期 クラス全員の就職が決定し、就職前の準備期間	
	国家試験に向けて	

6 四年制大学三年次編入について

近年、四年制大学卒業後、新たに専門学校に入学し直し、専門的知識・技術を習得する学生が増大している。逆に、専門学校で学習した後、さらに大学へ進学し、より広範囲に学問的研鑽を積もうという者も多くみられる。

四年制大学三年次編入は、後者に該当する。この制度を利用することによって実践的知識・技能を専門学校で身につけた上で、さらに学問的裏付けをする事が出来る。将来的に、即戦力となり得るとともに、基礎から応用力をも身につけた永久戦力となりうるのである。

学歴よりも実際に何が出来るのかということが求められている今日、専門学校からの三年次編入制度を採用する大学も急速に増大しつつある。このような状況に呼応すべく本学においては、職業的選択肢の一環として三年次編入を推進し、希望者を大いに支援する体制を採っている。

7 履修科目一覧

太田校

1 年生				2 年生				3 年生			
科目	前 期	後 期	頁	科目	前 期	後 期	頁	科目	前 期	後 期	頁
生物学	●		13	化学	●		46	歯科医療倫理学		●	70
心理学	●	●	14	外国語Ⅱ		●	47	歯科矯正学Ⅱ	●		71
外国語Ⅰ	●		15	口腔衛生学Ⅱ	●	●	48	歯科補綴学Ⅱ	●		72
解剖学	●	●	16	歯科統計学		●	49	口腔外科学Ⅱ		●	73
生理学	●		19	衛生・公衆衛生学	●	●	50	歯科予防処置論Ⅲ	●	●	74
歯牙解剖学		●	20	衛生行政・社会福祉		●	52	歯科保健指導論Ⅲ	●	●	75
病理学		●	21	保存修復学	●		53	栄養指導学Ⅲ(生化学)		●	77
微生物学	●	●	23	歯内療法学	●		54	歯科診療補助論Ⅲ	●	●	78
一般薬理学		●	24	歯周治療学Ⅱ	●		55	基礎介護技術	●	●	81
歯科薬理学		●	25	歯科補綴学Ⅰ	●		56	臨床・臨地実習Ⅲ	●		82
口腔衛生学Ⅰ	●	●	26	口腔外科学Ⅰ	●		57	高齢者歯科学	●		83
歯科衛生士概論	●		27	小児歯科学	●		58	卒業研究	●	●	84
歯科臨床概論	●		28	歯科矯正学Ⅰ	●		59				
歯周治療学Ⅰ		●	29	歯科予防処置論Ⅱ	●	●	60				
歯科放射線学	●	●	30	歯科保健指導論Ⅱ	●	●	62				
歯科予防処置論Ⅰ	●	●	31	栄養指導学Ⅱ	●		64				
歯科保健指導論Ⅰ	●	●	32	歯科診療補助論Ⅱ	●	●	65				
栄養指導学Ⅰ		●	34	障害者歯科学	●		67				
歯科診療補助論Ⅰ	●	●	35	臨床・臨地実習Ⅱ	●	●	68				
歯科材料学		●	38								
看護学		●	39								
臨床検査学		●	40								
秘書概論	●	●	41								
コミュニケーション論	●	●	42								
ビジネス実務	●	●	43								
臨床・臨地実習Ⅰ	●	●	44								

高崎校

1 年生				2 年生				3 年生			
科目	前 期	後 期	頁	科目	前 期	後 期	頁	科目	前 期	後 期	頁
生物学	●		13	化学	●		46	歯科医療倫理学		●	70
心理学	●	●	14	外国語Ⅱ		●	47	歯科矯正学Ⅱ	●		71
外国語Ⅰ	●		15	口腔衛生学Ⅱ	●	●	48	歯科補綴学Ⅱ	●		72
解剖学	●	●	16	歯科統計学		●	49	口腔外科学Ⅱ		●	73
生理学	●		19	衛生・公衆衛生学	●	●	50	歯科予防処置論Ⅲ	●	●	74
歯牙解剖学		●	20	衛生行政・社会福祉		●	52	歯科保健指導論Ⅲ	●	●	75
病理学		●	21	保存修復学	●		53	栄養指導学Ⅲ(生化学)		●	77
微生物学	●	●	23	歯内療法学	●		54	歯科診療補助論Ⅲ	●	●	78
一般薬理学		●	24	歯周治療学Ⅱ	●		55	基礎介護技術	●	●	81
歯科薬理学		●	25	歯科補綴学Ⅰ	●		56	臨床・臨地実習Ⅲ	●		82
口腔衛生学Ⅰ	●	●	26	口腔外科学Ⅰ	●		57	高齢者歯科学	●		83
歯科衛生士概論	●		27	小児歯科学	●		58	卒業研究	●	●	84
歯科臨床概論	●		28	歯科矯正学Ⅰ	●		59				
歯周治療学Ⅰ		●	29	歯科予防処置論Ⅱ	●	●	60				
歯科放射線学	●	●	30	歯科保健指導論Ⅱ	●	●	62				
歯科予防処置論Ⅰ	●	●	31	栄養指導学Ⅱ		●	64				
歯科保健指導論Ⅰ	●	●	32	歯科診療補助論Ⅱ	●	●	65				
栄養指導学Ⅰ	●		34	障害者歯科学	●		67				
歯科診療補助論Ⅰ	●	●	35	臨床・臨地実習Ⅱ	●	●	68				
歯科材料学		●	38								
看護学		●	39								
臨床検査学		●	40								
秘書概論	●	●	41								
コミュニケーション論	●	●	42								
ビジネス実務	●	●	43								
臨床・臨地実習Ⅰ	●	●	44								

歯科衛生士学科 1年

歯科衛生士になるために学ぶ。

基礎・臨床・主要3教科・社会歯科。

専門学校では1週目から専門が始まる。

つまり国家試験科目の授業が4月から始まる。

1年生では国家試験出題範囲の50%を勉強する。

初めて耳にする言葉・専門用語が出てきて戸惑うばかり。

勉強習慣がある人もない人も毎日を勉強ルーティンにしましょう。

勉強とは「解かる」に気づき、それをひとつひとつつなげていくこと。

最初は気づかないが勉強を続けていくうちにつながってくる。

たくさん科目があるけど、あちがう科目もどこかでつながる。

1年の基礎が解かると2年の臨床の学びにつながる。 r p 8 d

医療は直接・間接の違いはあるが命に係る仕事。

勉強不足で知らなかったでは済まされない。

だから、ひとつでも多く学んでおきたい。

「これわかる」「それ知ってる」が

増えてくるともっとつながる。

解らないとき勇気だして

恥ずかしがらずに

さあ、聞こう。

科目名	生物学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	30 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	2 単位	
担当教員	太田校	三輪明	企業等との連携		該当
	高崎校	三輪明	実務経験のある教員科目		
一般目標	生体の構造を知るために、細胞の構造、働き及び生命現象に関する基本的知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「生物学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

ヒトのからだの仕組み、解剖・生理・生化学・薬理・病理・微生物を学ぶ基礎となる勉強。

細胞って？ 遺伝子って？ ホルモンって？ ATP って？ エネルギーって？

私たちのカラダのタンパク質はどうやってできるの？

高校で生物を勉強した人はさらに深めよう。

わからないことはどんどん先生に聞こう。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回～第 2 回	①②	① 真核細胞の基本的構造と機能を概説できる。
第 3 回～第 4 回	③	② 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。
第 5 回～第 6 回	④	③ 細胞分裂と細胞周期を概説できる。
第 7 回～第 8 回	⑤	④ 細胞代謝における酵素の構造・機能・調節を説明できる。
第 9 回～第 10 回	⑥⑦	⑤ 細胞呼吸とエネルギー産生を説明できる。
第 11 回～第 12 回	⑧⑨	⑥ 遺伝子及び染色体の構造を説明できる。
第 13 回～第 14 回	⑩⑪⑫	⑦ 減数分裂における染色体の挙動を説明できる。
第 15 回～第 16 回	⑬	⑧ デオキシリボ核酸(DNA)の複製と修復の機序を説明できる。
第 17 回～第 18 回	⑬	⑨ 転写と翻訳の過程、セントラルドグマを説明できる。
第 19 回～第 20 回	⑭	⑩ 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。
第 21 回～第 22 回	⑭	⑪ 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。
第 23 回～第 24 回	⑮	⑫ 発生して体をつくること(胚葉)を説明できる。
第 25 回～第 26 回	⑮	⑬ 組織と器官を説明できる。
第 27 回～第 28 回	⑯	組織(上皮組織・結合組織・筋組織・神経組織) 器官(消化器系・循環器系・呼吸器系・泌尿器系)
第 29 回～第 30 回	まとめ	⑭ 刺激の受容と反応(感覚器・神経)について説明できる。 ⑮ 自律神経とホルモンの協調作用について説明できる。 ⑯ 生体防御の仕組み(免疫系・アレルギー)について説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	心理学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	60 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	4 単位	
担当教員	太田校	塚越祐子	企業等との連携		該当
	高崎校	塚越祐子	実務経験のある教員科目		
一般目標	良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「心理学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。授業内容によりグループワークやロールプレイを行う。				

医療は人と人のかかわりが大切。

心理学は人と行動を科学する。

ヒトは見て・聞いて・感じて・心ときめいて・ドキドキして・楽しいこともあれば・イヤなこともあり・ストレス感じて・・・
私たちが何気なく経験することや行動することを科学するのが心理学。

歯科衛生士は患者さんや対象者さんのお話を伺いながら個人の健康課題の行動変容に向き合うことが仕事。

歯科保健指導の成功のカギは、健康になってもらいたい気持ちと対象者さんの行動との向き合い方。

また高齢者・障害児・障害者のスペシャルなニーズに対応するために行動を科学するスキルの基礎も学んでほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回～第 4 回	①	① 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考及びパーソナリティとの関係を概説できる。 ② 動機づけを概説できる。 ③ 欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。 ④ 人生や日常生活におけるストレスを概説できる。 ⑤ こころの健康に対する支援を概説できる。 ⑥ ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴を概説できる。 ⑦ こころの発達にかかわる要因を概説できる。 ⑧ パーソナリティの特徴を概説できる。 ⑨ 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる。 ⑩ 文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを列挙できる。 ⑪ 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切にコミュニケーションできる。 ⑫ 対人関係にかかわる心理的要因と行動を概説できる。 ⑬ 知能の発達の経年的変化を概説できる。 ⑭ 集団の中の人間関係を概説できる。 ⑮ 心理学の概念と方法を生かし人間を全体として捉えることができる。
第 5 回～第 8 回	①	
第 9 回～第 12 回	①	
第 13 回～第 16 回	①②	
第 17 回～第 20 回	③④	
第 21 回～第 24 回	⑤	
第 25 回～第 28 回	⑥	
第 29 回～第 32 回	⑦	
第 33 回～第 36 回	⑧	
第 37 回～第 40 回	⑨⑩	
第 41 回～第 44 回	⑪⑫	
第 45 回～第 48 回	⑬	
第 49 回～第 52 回	⑭	
第 53 回～第 56 回	⑮	
第 57 回～第 60 回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	外国語 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	15 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	1 単位	
担当教員	太田校	中央外語学院講師	企業等との連携		
	高崎校	中央外語学院講師	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	「デンタルクリニック英会話」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

グローバルな社会であるとともに、デジタル化を通して国際交流はますます身近なものとなっている。

英語が分かったり話せたりするとわかりあえることも増えるし喜びも友達も仕事の輪も広がる。

苦手な人もいるかもしれないと思うけど、

「メイアイヘルピユ？」

「アイグラットウシユ(^)/」

「トアンキユウ(^♪)」など

気楽に学びながらとコミュニケーションの輪を広げていこう。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回	はじめに	※ テキストからセレクトしてレクチャーする。
第 2 回	①	① 予約を入れる会話ができる。
第 3 回	②	② 問題のある歯について説明することができる。
第 4 回	③	③ 緊急の治療を受けるための予約ができる。
第 5 回	④	④ 受付での対応ができる。
第 6 回	⑤	⑤ 痛みについての説明ができる。
第 7 回	⑥	⑥ 歯の洗浄について説明できる。
第 8 回	⑦	⑦ 歯科クリニックでの支払いのやり取りができる。
第 9 回	⑧	⑧ 薬の処方箋について説明できる。
第 10 回	⑨	⑨ エックス線について説明できる。
第 11 回	⑩	⑩ 歯みがきの指導について説明できる。
第 12 回	⑪⑫⑬	⑪ 易しい外国語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。
第 13 回	⑭	⑫ 短い日本語を文法にかなった外国語に直すことができる。
第 14 回	⑮	⑬ 自己紹介文、手紙文などを外国語で書くことができる。
第 15 回	まとめ	⑭ 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。
		⑮ 外国語による日常会話での質疑応答ができる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	解剖学(口腔解剖を含む)		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	90時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	6単位	
担当教員	太田校	大河原重雄	企業等との連携		該当
	高崎校	大河原重雄	実務経験のある教員科目		
一般目標	<p>【人体の解剖学・組織学・発生学】 人体の成り立ちを理解するために、体の構造、組織・発生に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>【口腔解剖学・口腔組織・発生学】 顔面、口腔及びその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p>				
使用教材	授業配布プリント・「ぜんぶわかる人体解剖図」・「イラストで分かる歯科医学の基礎」・「書き込み式学習ノート」				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。中間試験・期末試験を行う。				

人のカラダには細かく名前が付いている。カイボウ学は、例えば、カラダという世界地図を勉強する感じ。右腹にあるのが「肝臓」、背中側にあるのが「腎臓」、腎臓の上にあるのが「副腎」のように場所と名前を覚える勉強。ヒトのからだはとても複雑にできている。その細かな場所まで細かく名前が付いている。名称を覚えるのは大変だけど、いろいろな医学知識はその名称を用いて説明されるのでとても大切。解剖を知っていることが後々の勉強の理解にとっても役に立つ。

たくさんあるけど頭に入ると楽しくなってくる。

【解剖学】肉眼で見えるマクロの世界。身体の見えたままの形や各パーツに分けた形態、かたちとなまえを学ぶ。

【組織学】ルーペで拡大したミクロの世界。身体の一つ一つの細胞の形態、サイボウのかたちとなまえを学ぶ。

【発生学】卵子と精子が出会い受精卵が曲がったり溶けたり引っ付いたりしながら、唇や鼻などができる流れを学ぶ。

【人体の解剖学・組織・発生学】

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③	① 身体の部位を解剖学的な名称で表現できる。 ② 身体の方角用語を正確に用いることができる。 ③ 体位を含む姿勢を列挙できる。 ④ 呼吸器系の構造を概説できる。 ⑤ 循環器系について動脈、静脈及び毛細血管の構造を説明できる。 ⑥ リンパの循環系とリンパ節を説明できる。 ⑦ 心臓の構造を概説できる(心筋の特徴を含む)。 ⑧ 造血臓器を概説できる。 ⑨ 神経系の概略を説明できる(ニューロンを含む)。 ⑩ 脳と脊髄の基本構造を概説できる。 ⑪ 末梢神経系の分類を概説できる。 ⑫ 運動器官である骨の基本構造と連結様式を概説できる。 ⑬ 筋の種類と特徴を説明できる。 ⑭ 感覚器を概説できる。 ⑮ 消化器の基本構造を概説できる(食道・肝臓・胆嚢・膵臓を含む)。 ⑯ 内分泌器の基本構造を概説できる。 ⑰ 泌尿器系を概説できる。 ⑱ 生殖器系を概説できる。 ⑲ 皮膚と粘膜、及びその付属器を概説できる。 ⑳ 細胞における細胞膜、核、細胞小器官の構造を説明できる。 ㉑ 組織の定義を説明し、分類できる。 ㉒ 上皮組織の特徴を説明し、形態的と機能的に分類できる。 ㉓ 外分泌腺と内分泌腺の相違を説明できる。
第3回～第4回	④	
第5回～第6回	⑤⑥	
第7回～第8回	⑦⑧	
第9回～第10回	⑨⑩	
第11回～第12回	⑪	
第13回～第14回	⑫	
第15回～第16回	⑬	
第17回～第18回	⑭	
第19回～第20回	⑮	
第21回～第22回	⑯	
第23回～第24回	⑰⑱	
第25回～第26回	⑲	
第27回～第28回	⑳	
第29回～第30回	㉑㉒	
第31回～第32回	㉓	
第33回～第34回	㉔㉕	
第35回～第36回	㉖	
第37回～第38回	㉗	
第39回～第40回	㉘	
第41回～第42回	㉙㉚	
第43回～第44回	㉛㉜	

第 45 回	まとめ	㉔ 皮膚と粘膜の構造の相違を説明できる。 ㉕ 支持組織(結合組織)の特徴を説明し、分類できる。 ㉖ 結合組織の所在と構成を説明できる。 軟骨を分類し、組織構造を説明できる。 ㉗ 筋組織の構造を説明できる。 ㉘ 神経組織の構造を説明できる。 ㉙ 人体の発生における遺伝子と遺伝情報を概説できる。 ㉚ 受精と着床の時期と場所を説明できる。 ㉛ 胚葉の形成を概説できる。 ㉜ 胎児の成長と発育を概説できる。
--------	-----	---

【口腔解剖学・口腔組織・発生学】

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回～第 2 回	①	① 顔面ならびに口腔の範囲を説明できる。
第 3 回～第 4 回	②	② 顔面ならびに口腔の各部位の名称を正確に表現できる。
第 5 回～第 6 回	③	③ 顔面ならびに口腔の発生を概説できる。
第 7 回～第 8 回	④	④ 顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる。
第 9 回～第 10 回	⑤	⑤ 頭頸部の筋の構成を概説できる。
第 11 回～第 12 回	⑥	⑥ 頭頸部の脈管(動脈・静脈・リンパ)を概説できる。
第 13 回～第 14 回	⑦	⑦ 頭頸部の神経を概説できる。
第 15 回～第 16 回	⑧	⑧ 三叉神経と顔面神経の走行と線維構成を概説できる。
第 17 回～第 18 回	⑨	⑨ 咽頭の構造を説明できる。
第 19 回～第 20 回	⑩	⑩ 喉頭の構造を説明できる。
第 21 回～第 22 回	⑪	⑪ 顎関節の構造を概説できる。
第 23 回～第 24 回	⑫	⑫ 鼻腔と副鼻腔の構造を概説できる。
第 25 回～第 26 回	⑬	⑬ 口腔粘膜の分類と特徴を部位ごとに説明できる。
第 27 回～第 28 回	⑭	⑭ 舌の構造を説明できる。
第 29 回～第 30 回	⑮	⑮ 味覚器の構造を説明できる。
第 31 回～第 32 回	⑯	⑯ 唾液腺の位置と構造を説明できる。
第 33 回～第 34 回	⑰⑱	⑰ 歯と歯周組織を概説できる。
第 35 回～第 36 回	⑲	⑲ 歯と歯周組織の発生を概説できる。
第 37 回～第 38 回	⑲	⑲ 歯の萌出と交換を概説できる。
第 39 回～第 40 回	⑳	⑳ 永久歯と比較した乳歯の特徴が説明できる。
第 41 回～第 42 回	㉑	㉑ 歯の硬組織の組織学的構造を説明できる。
第 43 回～第 44 回	㉒	㉒ 歯髄の組織学的構造を説明できる。
第 45 回	㉓	㉓ 歯周組織の組織学的構造を説明できる。
	㉔㉕	㉔ 顔面ならびに口腔の加齢変化を概説できる。
	まとめ	㉕ 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	生理学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	30時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
	太田校	清水信雄	企業等との連携		
担当教員	高崎校	渡邊英明	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	<p>【人体の生理学】人体のメカニズムの学習 人体の成り立ちを理解するために、体の機能に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>【口腔生理学】歯・口・アゴのメカニズムの学習 顔面、口腔及びその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の機能に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p>				
使用教材	授業配布プリント・「イラストで分かる歯科医学の基礎」				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。中間試験・期末試験を行う。				

どうやって痛みを感じるのか？

唾液はどうでてるのか？

息をして食べて飲んでウンチが出る仕組みは？

血がどうして止まるのか？など

たくさんあるカラダの仕組みを学習する。

社会科の勉強に例えると地理。地図の中にある市役所・工場・マーケット・銀行・病院、そして道路・電車・バス路線・電気・ガス・水道・インターネットなどが複雑に連携して街として機能していく仕組みを学習するイメージである。

【生理学】全身のからだのメカニズム

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③④⑤	① 細胞における細胞膜、核、細胞小器官の機能を説明できる。
第3回～第4回	⑤⑦⑧⑨	② 細胞の基本的生理機能を概説できる
第5回～第6回	⑩⑪⑫	③ 細胞死の種類と機序を概説できる。
第7回～第8回	⑬⑭⑮⑯⑰	④ 上皮組織の特徴を説明し、形態的と機能的に分類できる。
第9回～第10回	⑱⑲⑲⑲⑲⑲	⑤ 外分泌腺と内分泌腺の相違を説明できる。
第11回～第12回	⑳㉑㉒㉓㉔	⑥ 腺の構造と分泌機構を説明できる。
第13回～第14回	㉕㉖㉗㉘	⑦ 皮膚と粘膜の機能の相違を説明できる。
第15回～第16回	㉙㉚㉛	⑧ 支持組織の特徴を説明し、分類できる。
第17回～第18回	㉜㉝㉞㉟	⑨ 軟骨を分類し、組織構造を説明できる。
第19回～第20回	㊱㊲㊳㊴	⑩ 筋組織の機能を説明できる。
		⑪ 神経組織の機能を説明できる。
		⑫ 人体の発生における受精と着床の時期と場所を説明できる。
		⑬ 呼吸器系の機能を概説できる。
		⑭ 換気とガス交換を概説できる。
		⑮ 呼吸の調節を概説できる。
		⑯ 動脈、静脈及び毛細血管の役割を説明できる。
		⑰ 肺循環と体循環を説明できる。《
		⑱ リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる。
		⑲ 心臓の機能を概説できる(心筋の特徴、刺激伝導系を含む)。
		⑳ 血圧と心電図を概説できる。
		㉑ 血液の機能を説明できる。
		㉒ 血液型と輸血を概説できる。
		㉓ 止血、血液凝固、線溶現象及び出血傾向を概説できる。
		㉔ 造血臓器を概説できる。
		㉕ 神経系の概略を説明できる(ニューロンを含む)。
		㉖ 脳と脊髄の機能を概説できる。
		㉗ 末梢神経系の機能を概説できる。
		㉘ 興奮の伝導を概説できる(シナプスでの伝達を含む)。

	<ul style="list-style-type: none"> ②9 反射と随意運動を概説できる。 ③0 骨の形成・吸収・改造現象(リモデリング)を概説できる。 ③1 筋の種類と特徴を説明できる。 ③2 骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる。 ③3 感覚器を概説できる。 ③4 体性感覚、内臓感覚及び特殊感覚を説明できる。 ③5 消化器の機能を概説できる(食道・肝臓・胆嚢・膵臓を含む)。 ③6 胃における消化を概説できる。 ③7 腸における消化と吸収を概説できる。 ③8 排便の仕組みを概説できる。 ③9 内分泌器とホルモンを概説できる。 ④0 ホルモンの働きを概説できる。 ④1 泌尿器系を概説できる。 ④2 尿の生成と体液の調節を概説できる ④3 排尿の仕組みを概説できる。 ④4 生殖器系を概説できる。 ④5 皮膚と粘膜、及びその付属器を概説できる。 ④6 体熱の発生と体温の調節を概説できる。 ④7 加齢と老化を説明できる。 ④8 人体の老化の特性と機序を説明できる。 ④9 老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。
--	--

【口腔生理学】歯・口腔・顎・顔面のメカニズム

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 21 回	①②	① 頭頸部の筋の機能を概説できる。
第 22 回	③④	② 頭頸部の脈管の機能を概説できる。
第 23 回	⑤⑥	③ 頭頸部の神経の機能を概説できる。
第 24 回	⑦⑧⑨	④ 三叉神経と顔面神経の機能を概説できる。
第 25 回	⑩⑪⑫	⑤ 咽頭の機能を説明できる。
第 26 回	⑬⑭⑮	⑥ 喉頭の機能を説明できる。
第 27 回	⑯⑰⑱	⑦ 顎関節の機能を概説できる。
第 28 回	⑲⑳㉑	⑧ 鼻腔と副鼻腔の機能を概説できる。
第 29 回	㉒㉓㉔	⑨ 下顎の運動を概説できる。
第 30 回	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 咀嚼の意義を説明できる。 ⑪ 摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。 ⑫ 舌の機能を説明できる。 ⑬ 味覚器と味覚を説明できる。 ⑮ 唾液の性状と役割を説明できる。 ⑯ 吸啜と嘔吐を概説できる。 ⑰ 発声と構音器官としての口腔を概説できる。 ⑱ 歯と歯周組織の機能 ⑲ 歯の硬組織の機能を説明できる。 ⑳ 歯髓の機能を説明できる。 ㉑ 歯周組織の機能を説明できる。 ㉒ 歯列と咬合を概説できる。 ㉓ 歯と口腔粘膜の感覚を概説できる。 ㉔ 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯牙解剖学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	30時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	宗村裕之	企業等との連携		該当
	高崎校	萩原輝雄	実務経験のある教員科目		
一般目標	ヒトの歯の形態・機能・咬合関係に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業プリント・歯科衛生学シリーズ「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。歯型彫刻実習を行う。				

歯は一本一本かたちが異なる。歯の生えている場所により違う役割を持っている。

例えば、前歯は噛み切るのが仕事である。鏡で眺めても上と下では大きさも違う。

下の真ん中の2本は左右対称だけど、上の真ん中の2本はそうじゃない。

一本一本の歯にも特徴がある。からだの真ん中に近い方がやや「角ばって」いて、遠い方がやや「丸み」がある。しかしこの特徴にも例外(上顎第一小白歯)があったり、歯に特別なふくらみや、とんがりがあったり変化に富む。歯の形や生えている場所の違いによっても、歯の病気のなりやすさや、治りやすさも変わってきたりする。歯の根っここの形は、ぱっと見、大根のような形であるが、実は片側がふくらんでいた、へこんでいたりする。ということは、歯の根っこにくっついている歯石を取るときにも器具の入れ方や当て方にも工夫が必要となる。歯の病気を理解したり、歯石を除去したり、歯科衛生士の仕事には歯のかたちの特徴を知ることが欠かせない。見て触って彫って歯の形に親しもう。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③	① 歯冠と歯根について説明できる。
第3回～第4回	④⑤⑥	② 歯の種類を説明できる。
第5回～第6回	⑤⑥⑦	③ 歯の記号を説明できる。
第7回～第8回	⑧	④ 歯の方向を表す用語を説明できる。
第9回～第10回	⑨⑩	⑤ 歯の形態と名称を説明できる。
第11回～第12回	⑪⑫	⑥ 歯の硬組織の組織構造と機能を説明できる。
第13回～第14回	⑬⑭⑮	⑦ 歯髄の組織学的構造と機能を説明できる。
第15回～第16回	⑯⑰	⑧ 歯列と咬合を概説できる。
第17回～第18回	⑱	⑨ 歯種ごとの特徴を説明できる。
第19回～第20回	⑱	⑩ 歯を鑑別する方法を概説できる。
第21回～第22回	⑱	⑪ 歯種を見分けることができる。
第23回～第24回	⑱	⑫ 上下の歯を見分けることができる。 (実習模型の上下の歯をよく見てみよう)
第25回～第26回	⑱	⑬ 歯の順番を見分けることができる。
第27回～第28回	⑱	(形とサイズに注目してみよう)
第29回～第30回	⑱	⑭ 歯の左右を見分けることができる。 (ミュールライターの三表徴に注目して見てみよう) ⑮ 歯並びと咬合について説明できる。 ⑯ 歯種別の形態と特徴を説明できる(歯式を含む)。 ⑰ 永久歯と比較した乳歯の特徴が説明できる。 ⑱ 歯型の彫刻<上顎中切歯・上顎第一大臼歯・下顎第一大臼歯>

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	病理学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	30 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	2 単位	
担当教員	太田校	勝部憲一	企業等との連携		該当
	高崎校	勝部憲一	実務経験のある教員科目		
一般目標	【病理学】 疾病の発生機序及び病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。 【口腔病理学】 口腔領域に発生する疾病の発生機序及び病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・「イラストで分かる歯科医学の基礎」				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。試験は総論・各論でそれぞれ行う。				

病理学は、どうやって病気になるのか、病気になったとき身体にどんな変化が起きているかを学ぶ。例えば、ハチに刺されると、赤くなり、腫れて、熱をもって、ズキズキ痛む。身体が反応するのはどうしてなのか？血管から血が染み出たり、細胞が膨らんだり、体温が上がったり、神経が痛みを感じたり、いろいろと変化する。病理学は、病気の仕組みや成り立ちの道理を理解する学問である。

【病理学】(病理学総論)

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回～第 2 回	①②③	① 細胞・組織の傷害として細胞・組織の変性、萎縮、壊死を概説できる。
第 3 回～第 4 回	④⑤⑥	② ネクローシス(壊死)とアポトーシスの違いを説明できる。
第 5 回～第 6 回	⑦⑧⑨	③ 代謝障害を概説できる。
第 7 回～第 8 回	⑩⑪⑫	④ 増殖・修復として肥大、増生、化生、再生を概説できる。
第 9 回～第 10 回	⑬⑭⑮	⑤ 肉芽組織とその構成成分を説明できる。
第 11 回～第 12 回	⑯⑰⑱	⑥ 肉芽組織が関与する病変を列挙できる。
第 13 回～第 14 回	⑲⑳㉑	⑦ 異物の処理を説明できる(器質化を含む)。
第 15 回～第 16 回	㉒㉓㉔	⑧ 創傷の治癒過程を説明できる。
第 17 回～第 18 回	㉕㉖㉗	⑨ 循環障害である 虚血、充血、うっ血の違いを説明できる。
		⑩ 出血の原因、種類、転帰を説明できる。
		⑪ 血栓、塞栓の成因、転帰を概説できる。
		⑫ 梗塞の成因、転帰を概説できる。
		⑬ 浮腫の原因、症状、転帰を説明できる。
		⑭ 一次性ショックと二次性ショックの相違を説明できる。
		⑮ 炎症の定義を説明できる。
		⑯ 炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。
		⑰ 炎症を分類できる。
		⑱ 滲出性炎とその経時的变化を概説できる。
		⑲ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の相違を説明できる。
		⑳ 肉芽腫性炎の定義が言え、代表的な肉芽腫性炎を列挙できる。
		㉑ 免疫異常を概説できる。
		㉒ 移植免疫を概説できる。
		㉓ 腫瘍の定義を説明できる。
		㉔ 腫瘍の病因と進展を概説できる。
		㉕ 腫瘍の局所での発育、浸潤、転移を概説できる。
		㉖ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる。
		㉗ 腫瘍を分類できる。
		㉗ 前癌病変を概説できる。

口腔病理学は、歯科の二大疾患であるう蝕と歯周炎をはじめ、歯科に特有な各種疾患について学ぶ。歯の根の先に膿がたまる病気や、歯の周囲の歯ぐきや歯を支えている骨が炎症を起こす病気、口の中の柔らかい組織である口腔粘膜は全身の病気の症状が現れやすい場所であるし、唾液をつくる唾液腺の病気、口を開けたり閉めたりする顎の関節の病気、咽頭、上顎洞などの口腔の隣接する臓器を含めた、さまざまな病気について学び、口腔のプロフェッショナルとして患者に対応できる幅広い知識を身につけたい。

【口腔病理学】(病理学各論)

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 19 回～第 20 回	⑳㉑㉒㉓	㉑ 歯の発育障害の種類と病態を概説できる。 ㉒ 歯の損傷を概説できる。 ㉓ デンタルプラーク、歯石の形成とその為害性を説明できる。 ㉔ う蝕の病因と病態を説明できる。 ㉕ う蝕を組織学的に分類し、その特徴を説明できる。 ㉖ 酸蝕症の病因や病態を説明できる。 ㉗ 歯頸部知覚過敏症の病因や病態を説明できる。 ㉘ 歯髄疾患の病因と病態を説明できる。 ㉙ 歯髄炎を分類し、その特徴を説明できる。 ㉚ 根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。 ㉛ 根尖性歯周炎を分類し、その特徴を説明できる。 ㉜ 歯周疾患の病因と病態を説明できる。 ㉝ 歯周疾患を分類し、その特徴を説明できる。 ㉞ 拔牙創の治癒過程を説明できる。 ㉟ 口腔粘膜疾患の種類と特徴を概説できる。 ㊱ 口腔領域の嚢胞を概説できる(歯源性嚢胞を含む)。 ㊲ 口腔領域の腫瘍を概説できる(歯源性腫瘍を含む)。 ㊳ 唾液腺疾患を概説できる。 ㊴ 口腔領域の奇形を概説できる。 ㊵ 口腔領域の顎骨の病変について概説できる。 ㊶ 顎関節の病変について概説できる。 ㊷ 口腔組織の加齢変化について概説できる。
第 21 回～第 22 回	㉔㉕㉖㉗	
第 23 回～第 24 回	㉘㉙㉚㉛	
第 25 回～第 26 回	㉜㉝㉞㉟	
第 27 回～第 28 回	㊱㊲㊳㊴	
第 29 回～第 30 回	㊵㊶㊷	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	微生物学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	30 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	2 単位	
担当教員	太田校	渡邊英明	企業等との連携		該当
	高崎校	渡邊英明	実務経験のある教員科目		
一般目標	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	「イラストでわかる歯科医学の基礎」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。				

肉眼で見えないほど小っちゃいけど病気を起こしたりする怖いやつ。とはいえ私たちと共に生きている微生物たち。正しく知って付き合っていきたい。種類により違いがあるが、微生物は大きさ順に原虫>真菌>細菌>ウイルス。髪の毛の太さは0.1ミリ。場所で違いはあるがヒトの細胞の大きさは0.01ミリで、原虫や真菌も0.01ミリと同じくらい。細菌はその10分の1で0.001ミリ。ウイルスはさらに10分の1で0.0001ミリ、空気に乗って漂うものもある。微生物たちにはどんなものがあるか？むし菌はどのようにして歯を溶かすのか？歯周病菌はどう歯ぐきを腫れさせて、どう歯を支える骨を溶かすのか？微生物から身体はどう戦い守っているのか、退治する薬はなにかなどを学ぶ。

【微生物学】(微生物学総論)

授業回数	授業予定	到達目標
第1回～第2回	①②③	<ul style="list-style-type: none"> ○ 到達目標 ① 感染と発症を説明できる。 ② 微生物の感染機構と病原性を概説できる。 ③ 宿主の抵抗性を概説できる。 ④ 感染の種類と経路をあげ、概説できる。 ⑤ 細菌・ウイルス・その他微生物の形態学特徴と基本的性状を概説できる(プリオンを含む)。 ⑥ 滅菌・消毒の意義と原理を説明できる。 ⑦ 院内感染の原因と予防法を説明できる。 ⑧ 化学療法の目的と原理を説明できる。 ⑨ 微生物の培養と観察法を概説できる。 ⑩ 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 ⑪ 液性免疫と細胞性免疫を説明できる。 ⑫ 免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 ⑬ 抗原、抗体及びサイトカインを説明できる。 ⑭ 免疫反応を利用した検査法を概説できる。 ⑮ ワクチンとは何か説明できる。 ⑯ アレルギーを概説できる。
第3回～第4回	④⑤	
第5回～第6回	⑥⑦	
第7回～第8回	⑧⑨	
第9回～第10回	⑩⑪	
第11回～第12回	⑫⑬	
第13回～第14回	⑭⑮	
第15回～第16回	⑯	

【口腔微生物学】(微生物学各論)

授業回数	授業予定	到達目標
第17回～第18回	⑰	<ul style="list-style-type: none"> ○ 到達目標 ⑰ 口腔内の微生物と口腔環境の関わりを説明できる。 ⑱ 口腔常在微生物を概説できる。 ⑲ バイオフィームとしてデンタルプラークの形成機序を概説できる。 ⑳ バイオフィーム感染症を概説できる。 ㉑ う蝕原因菌を概説できる。 ㉒ 歯周病原菌を概説できる。 ㉓ 微生物が原因で口腔に症状を現す疾患を概説できる。 ㉔ 口腔内検査としての唾液検査、微生物学的検査の意義を説明できる。 ㉕ 口臭検査の意義を説明できる。
第19回～第20回	⑱	
第21回～第22回	⑲	
第23回～第24回	⑳⑳	
第25回～第26回	㉑	
第27回～第28回	㉒㉓㉔	
第29回～第30回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	一般薬理学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	15時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	三輪明	企業等との連携		該当
	高崎校	三輪明	実務経験のある教員科目		
一般目標	薬物の性質、薬理作用、作用機序及び副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「薬理学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

生き物が生きていくために起こる身体の現象、つまり呼吸・消化・排泄・血液循環・体温調節などを生理作用という。薬理作用とは、身体に投与された化学物質が、からだの生理作用に変化を起こすことをいう。

このような化学物質として薬物や毒物がある。ふつう、病気の診断、治療、予防のほか、健康の維持、増進のために用いられる物質を薬とよんでいる。

薬には、病気や症状などに合わせてたくさんの種類がある。

薬が身体にどうやって取り込まれるのか？

どうやって薬は効くのか？

薬の効き方、薬を飲んだとき出てほしくない副作用、薬の保存法、取り扱い方法などを学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①②	① 薬物療法(原因療法、対症療法)を説明できる。
第2回	③④	② 薬理作用の基本形式と分類を説明できる。
第3回	⑤⑥	③ 身体における薬物の作用機序を説明できる。
第4回	⑦⑧	④ 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。
第5回	⑨⑩	⑤ 薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)を説明できる。
第6回	⑪⑫	⑥ 薬理作用を規定する要因(用量、作用、感受性)を説明できる。
第7回	⑬⑭	⑦ 薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。
第8回	⑮⑯⑰	⑧ 薬物の連用の影響(薬物耐性、蓄積、薬物依存)を説明できる。
第9回	⑱	⑨ 妊産婦・小児・高齢者への薬物投与の特徴を説明できる。
第10回	⑲	⑩ 薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
第11回	⑳	⑪ 医薬品(和漢薬を含む)・医薬部外品・化粧品の分類を説明できる。
第12回	㉑㉒	⑫ 毒薬、劇薬及び麻薬などの表示と保管を説明できる。
第13回	㉓	⑬ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(医薬品医療機器法)を説明できる。
第14回	㉔㉕	⑭ 日本薬局方を説明できる。
第15回	まとめ	⑮ 処方せん(箋)の記載事項を概説できる。
		⑯ 薬物の保存方法を説明できる。
		⑰ 薬物の剤形を説明できる。
		⑱ 主な中枢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
		⑲ 主な末梢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
		⑳ 循環器系・消化器系・呼吸器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
		㉑ 主な免疫抑制薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
		㉒ 糖尿病治療薬・骨粗鬆症治療薬・脂質異常症治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
		㉓ 主な抗悪性腫瘍薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
		㉔ 血液凝固の過程を概説できる。
㉕ 主な止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。		

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科薬理学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	15時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	三輪明	企業等との連携		該当
	高崎校	三輪明	実務経験のある教員科目		
一般目標	歯科領域の薬物の性質、薬理作用、作用機序及び副作用を理解するために、歯科疾患の回復を促進する薬に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「薬理学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

お医者さんで使うのと同じ薬もあるが、歯科治療で使われる特別な薬もある。

- ▶ 消毒に使われる消毒薬
- ▶ 痛み止めや腫れを抑えるのに使われる非ステロイド性抗炎症薬
- ▶ 細菌・微生物などの感染症に対してつかわれる抗生物質などの抗感染症薬
- ▶ 治療時の痛みを制御する局所麻酔薬
- ▶ う蝕を予防するう蝕予防薬
- ▶ むし歯の治療や歯の神経を保護する薬剤、
- ▶ 歯の根の治療に使用される根管治療薬
- ▶ 歯ぐきの病気の治療に使用される歯周病の治療薬、
- ▶ お口の中の粘膜の病気に使用される薬
- ▶ がんの治療に使われる薬

など、歯科で使用される薬もたくさんの種類がある。

これら薬の働きや、取り扱い上で注意すること、薬を飲む患者さんに伝えることなどを学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	① う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
第2回	②	② 歯・歯髄疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
第3回	③	③ 歯周治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
第4回	④	④ 洗口薬を説明できる。
第5回	⑤	⑤ 炎症のメカニズムを概説できる。
第6回	⑥	⑥ 主な抗炎症薬、鎮痛薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
第7回	⑥	⑦ 局所麻酔薬の作用機序を概説できる。
第8回	⑦⑧	⑧ 局所麻酔薬の代謝について概説できる。
第9回	⑨	⑨ 局所麻酔薬の効果に影響する因子について概説できる。
第10回	⑩	⑩ 局所麻酔薬の副作用と中毒について概説できる。
第11回	⑪	⑪ 感染症を概説できる。
第12回	⑫	⑫ 主な抗感染症薬と消毒薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
第13回	⑬⑭	⑬ 口腔粘膜疾患に用いる薬を概説できる。
第14回	⑮⑯	⑭ その他、口腔領域の疾患の薬を概説できる。
第15回	まとめ	⑮ 服薬に関する一般的事項を説明できる。
		⑯ 対象者別の服薬指導を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	口腔衛生学 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	45 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	3 単位	
担当教員	太田校	渡邊英明	企業等との連携		該当
	高崎校	小保方恵	実務経験のある教員科目		
一般目標	歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「保健生態学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。				

口腔衛生学は、口の健康を通して「いのちをまもる」学問である。

口の中を健康にすることは身体の健康につながる。

歯や口を病気にしないようにするにはどうすればいいのか？

歯科衛生士の関わる歯と口の健康づくりを科学する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回～第 2 回	①	① 口腔の健康の定義を説明できる。
第 3 回～第 4 回	②	② 口腔と全身の健康の関係を説明できる。
第 5 回～第 6 回	③	③ 歯・口腔の健康を保持・増進する手段を概説できる。
第 7 回～第 8 回	④	④ 歯・口腔の形成及び発育・発達とその異常を説明できる。
第 9 回～第 10 回	⑤	⑤ 歯・口腔の形成異常を説明できる。
第 11 回～第 12 回	⑥	⑥ 歯・口腔の機能を説明できる。
第 13 回～第 14 回	⑦	⑦ 唾液の作用を説明できる。
第 15 回～第 16 回	⑧	⑧ 歯・口腔の付着物と沈着物を説明できる。
第 17 回～第 18 回	⑨	⑨ 口腔清掃の意義を説明できる。
第 19 回～第 20 回	⑩	⑩ 口腔清掃法の種類を列挙できる。
第 21 回～第 22 回	⑪	⑪ 口腔清掃用具の種類と特徴を説明できる。
第 23 回～第 24 回	⑫	⑫ 不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を列挙できる。
第 25 回～第 26 回	⑬	⑬ 歯磨剤の種類と組成及びその配合目的を説明できる。
第 27 回～第 28 回	⑭	⑭ 洗口剤の種類と組成、その配合目的を説明できる。
第 29 回～第 30 回	⑮	⑮ う蝕の疫学的特性を概説できる。
第 31 回～第 32 回	⑯	⑯ 歯周疾患の疫学的特性を概説できる。
第 33 回～第 34 回	⑰	⑰ その他の歯科疾患の疫学的特性を概説できる。
第 35 回～第 36 回	⑱⑲⑳	⑱ う蝕発病のメカニズムを説明できる。
第 37 回～第 38 回	㉑	㉑ う蝕の発病要因(宿主、口腔細菌叢、食事性基質)を説明できる。
第 39 回～第 40 回	㉒	㉒ う蝕の社会経済的要因について概説できる。
第 41 回～第 42 回	㉓	㉓ う蝕の社会経済的要因について概説できる。
第 43 回～第 45 回	まとめ	㉔ リスクに応じたう蝕予防方法を列挙できる。
		㉕ う蝕の第一次・第二次・第三次予防を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科衛生士概論		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	15 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	1 単位	
担当教員	太田校	村田隆子	企業等との連携		
	高崎校	村田隆子	実務経験のある教員科目		該当
一般目標	歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援するために、歯科保健医療人としての基本的態度を理解し、歯科衛生業務・歯科衛生過程・多職種連携・医療安全対策の実践のために、多様な分野における知識・技術を習得する態度、論理的思考法の基礎を習得する。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

<歯科衛生士の倫理綱領によれば> 歯科衛生士は、免許によって歯科衛生の専門職として認められた者であり、あらゆる人々に対して、生涯を通じた歯科疾患の予防とともに、口腔衛生管理、口腔機能管理による口腔健康管理を提供し、人生の最期まで、その人らしく生きることを支援する。そして、歯科衛生業務は、人の生きる権利、尊厳を保つ権利及び平等に口腔健康管理の支援を受ける権利などの人権を尊重し、信頼関係に基づいて遂行されなければならない。

さて、歯科衛生士は、人々の歯科疾患を予防し、口腔衛生の向上を図ることにより、口腔の健康の保持増進に貢献することを使命としている。そして、口腔の健康は、健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしている。

- ・「口腔健康管理」の基本は「口腔衛生と口腔機能の維持・向上」で、生活の質(QOL)の維持・向上につながる。「口腔健康管理」とは生涯を通して口腔の問題に苦しむことなく人生を楽しめるようにしてゆくこと。
- ・「医療安全管理」は医療事故(アクシデント)・ヒヤリハット(インシデント)対策から医療の質の維持向上に重要。常勤歯科衛生士は、医療安全管理者・医薬品安全管理者・医療機器安全管理者として携わることができる。
- ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉の「チームアプローチ」で歯科衛生士の役割が増大している。
- ・歯科衛生士は「クリティカルシンキング」を通して専門的に判断することが必要である。クリティカルシンキングとは、前提となる与えられた情報を検証し、それ以外にも見落とししている情報はないか、自分自身の考え方は偏っていないかを検証していく批判的思考法である。あらゆる物事や情報を無批判に受け入れるのではなく、多様な角度から検討し、客観的に理解することが歯科衛生士には求められる。

歯科衛生士総論では「科学的思考」という見方で歯科衛生士業務の全般について学習する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回	①	(歯科衛生学総論)
第 2 回	②	① 歯科衛生学を概説できる。
第 3 回	③	② 口腔健康管理の意義を説明できる。
第 4 回	④	③ 歯科衛生士法を説明できる。
第 5 回	⑤	④ クリティカルシンキングの意義を説明できる。
第 6 回	⑥⑦	⑤ 健康づくりを支援する歯科衛生士の役割を説明できる。
第 7 回	⑧⑨	⑥ 患者の権利と医療の責務を説明できる。
第 8 回	⑩	⑦ インフォームド・コンセントを説明できる。
第 9 回	⑪	⑧ 歯科衛生士の倫理綱領を概説できる。
第 10 回	⑫	⑨ 歯科衛生士の専門性(プロフェッショナリズム)を概説できる。
第 11 回	⑬	⑩ コミュニケーションスキルの必要性を説明できる。
第 12 回	⑭	(医療安全管理)
第 13 回	⑮	⑪ 医療事故の発生要因と防止策を説明できる。
第 14 回	⑯	⑫ 感染予防対策の必要性と方略を説明できる。
第 15 回	まとめ	⑬ 医療安全管理における歯科衛生士の役割を説明できる。 (保健・医療・福祉におけるチームアプローチ) ⑭ チーム医療の定義と必要性を説明できる。 ⑮ 保健・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる。 ⑯ 地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科臨床概論		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	30時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	備前島俊行	企業等との連携		該当
	高崎校	黒田真右・渡邊英明	実務経験のある教員科目		
一般目標	歯科臨床各科の保存・補綴・矯正歯科・小児歯科・口腔外科・高齢者歯科・障害者歯科の基本的な流れを中心に治療対象・治療目的・治療における歯科衛生士の役割について歯科臨床の概要に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	「歯科衛生士のための歯科臨床概論」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。				

歯の掃除や定期健診で歯科医院を訪ねた学生もあるだろう。

ムシ歯が少ない時代なので一度も訪れたことのない学生もあるだろう。

歯科の仕事といっても知らない色々な分野がある。

歯科の広い分野や仕事について学習する。

授業回数	授業予定	到達目標
第1回～第2回	はじめに	① 応急処置、救急処置、訪問診療の概要について理解する。
第3回～第4回	①②⑩⑮	② 医療人としての心構えと歯科医療に携わる人々について理解する。
第5回～第6回	③④⑫	③ 歯科診療所の概要と診療室の設備について理解する。
第7回～第8回	⑤⑥⑪	④ 歯科診療室での準備、受付、診察の概要について理解する。
第9回～第10回	⑦⑧⑬	⑤ 口腔内検査・顎口腔機能検査・臨床検査の意義を説明できる。
第11回～第12回	⑨⑭	⑥ 患者の心理と歯科医院の来院目的について理解する。
第13回～第14回	⑩⑯	⑦ 歯科保存診療の概要について理解する。
第15回～第16回	⑪	⑧ 保存修復治療の概要について理解する。
第17回～第18回	⑫	⑨ 歯周治療の概要について理解する。
第19回～第20回	⑬	⑩ 歯内治療の概要について理解する。
第21回～第22回	⑭	⑪ 歯科補綴診療の概要について理解する。
第23回～第24回	⑮	⑫ 口腔外科診療の概要について理解する。
第25回～第26回	⑯⑰	⑬ 矯正歯科診療の概要について理解する。
第27回～第28回	⑱	⑭ 小児歯科診療の概要について理解する。
第29回～第30回	まとめ	⑮ 予防歯科の概要について理解する。
		⑯ 障害者歯科診療の概要について理解する。
		⑰ 高齢者歯科診療の概要について理解する。
		⑱ 周術期口腔管理の概要について理解する。
		⑲ 摂食嚥下障害ケアの概要について理解する。
		⑳ 歯の漂白法の概要について理解する。
		㉑ 医療情報の収集、医療面接の方法、照会状の目的を説明できる。
		㉒ 留意すべき主な全身疾患と偶発症の予防について説明
		㉓ バイタルサインのモニタリングを説明できる。
		㉔ う蝕・歯周病・顎骨病変(嚢胞・腫瘍・炎症)の画像所見を概説できる。
		㉕ 嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査の所見を概説できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯周治療学 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	15 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	1 単位	
	太田校	竹内康雄	企業等との連携		
担当教員	高崎校	高井貞浩	実務経験のある教員科目		該当
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法、治療法、歯周治療の補助に必要な検査や治療手順及び器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「歯周病学」				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

抜かないで歯を残すことを「歯を保存する」という。

歯科保存学は①むし歯で欠けた歯を修復して歯を残す治療分野

②歯の神経が病気になったときに歯髓の処置をして歯を残す治療分野

③歯を支える周囲が病気になったときに歯周組織の処置をして歯を残す治療分野がある。

歯を抜けないよう支える歯肉から血が出たり、歯を支える骨が溶けて歯がグラグラするのが歯周病。

歯科保存治療の分野で、歯が抜けないように歯の周りの炎症をコントロールするのが歯周治療である。

歯周治療を成功させていくには歯科衛生士のサポートが欠かせない。

歯周治療学の基礎をしっかりと学んでほしい。

授業回数	授業予定	到達目標
第 1 回	①	① 歯周組織の成り立ちについて説明できる。
第 2 回	②	② 歯周病の病理について説明できる。
第 3 回	③	③ 歯周病の病因・リスクファクターを説明できる。
第 4 回	④	④ 歯周病の種類と症状を説明できる。
第 5 回	④	⑤ 歯周組織検査に必要な器具・検査の意義を説明できる。
第 6 回	⑤	⑥ 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。
第 7 回	⑥	⑦ 歯周治療の流れを説明できる。
第 8 回	⑦	⑧ 歯周治療の術式と適応症を説明できる。
第 9 回	⑧	⑨ スケーラーの種類と使用目的を説明できる。
第 10 回	⑨	⑩ スケーリング・ルートプレーニングについて説明できる。
第 11 回	⑩	⑪ 歯面清掃・歯面研磨の意義が説明できる。
第 12 回	⑫	⑫ 歯周治療における薬物治療について説明できる。
第 13 回	⑬⑭	⑬ 歯周治療後の再評価ができる。
第 14 回	⑮⑯⑰⑱	⑭ 口腔機能回復治療の概要を説明できる。
第 15 回	まとめ	⑮ SPT(歯周病安定期治療)の目的を説明できる。
		⑯ 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。
		⑰ 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。
		⑱ SPT(歯周病安定期治療)の処置内容を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科放射線学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	30 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	2 単位	
担当教員	太田校	亀山正	企業等との連携		該当
	高崎校	小野徹	実務経験のある教員科目		
一般目標	歯科疾患の診断、歯科衛生業務の実施に必要な画像検査、エックス線写真撮影時の補助に必要な撮影手順、放射線防護の方法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	亀山先生：歯科衛生士テキスト「よくわかる歯科放射線学」・授業配布プリント 小野先生：授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。				

歯やアゴの病気は皮膚の下の普段見えないところで起こっている。

見えない身体の中身を見えるようにするのがエックス線写真をはじめ、あらゆる画像診断の分野である。

エックス線は1895年11月8日(金)にドイツ生まれの物理学者レントゲン先生により発見された。

その数日後、レントゲン先生はその未知の光線で薬指に金の指輪をはめたアンナ夫人の手を世界初の撮影をした。

その光線に「未知」を意味する「X」と名付けた。第1回ノーベル物理学賞を受賞している。

さて、エックス線とはなにか？

どうやってエックス線写真が写るのか？

撮影のサポートの方法はどうするのか？

エックス線写真をどう読み解くのか？

その他にもある画像診断の方法やいろいろな画像の見方を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	① 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。
第3回～第4回	③	② 放射線の人体への影響を説明できる。
第5回～第6回	④⑤	③ エックス線画像の形成原理を概説できる。
第7回～第8回	⑥⑦	④ 口内法の手技を説明できる。
第9回～第10回	⑧	⑤ エックス線撮影装置の準備ができる。
第11回～第12回	⑨⑩	⑥ 口内法撮影において頭部の固定ができる。
第13回～第14回	⑪	⑦ 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。
第15回～第16回	⑫	⑧ 写真の処理と画像管理ができる。
第17回～第18回	⑬	⑨ パノラマエックス線撮影の手技を説明できる。
第19回～第20回	⑭⑮	⑩ パノラマエックス線撮影の準備ができる。
第21回～第22回	⑯	⑪ 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる。
第23回～第24回	⑰	⑫ 歯科用パノラマ撮影装置・デジタル画像の取り扱いを説明できる。
第25回～第26回	⑱	⑬ 超音波検査、CT(CBCT:コーンビームCT)、MRIの原理と特徴を概説できる。
第27回～第28回	⑲⑳	⑭ 口内法エックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる。
第29回～第30回	まとめ	⑮ パノラマエックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる。 ⑯ う蝕・歯周病・顎骨に生じる病変(嚢胞、腫瘍、炎症等)のエックス線所見を概説できる。 ⑰ 嚙下造影検査、嚙下内視鏡検査の所見を概説できる。 ⑱ 放射線防護の準備ができる。 ⑲ 患者や術者の放射線防護ができる。 ⑳ 被爆量の測定準備ができる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科予防処置論 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	75 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義・実習		単位数	3 単位	
担当教員	太田校	米岡葉月	企業等との連携		
	高崎校	竹越由佳		実務経験のある教員科目	該当
一般目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術及び態度を習得する。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実技試験を行う。				

歯や口の病気を予防することは歯科衛生士としてやりがいが見えやすい仕事である。

歯科の二大疾患である歯周病・う蝕をどうやって予防するのか？予防するための方法と技術を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標(*は実習予定項目)
第 1 回～第 2 回	はじめに	1. 総論
第 3 回～第 6 回	1.1)①	1) 概 要
第 7 回～第 10 回	1.1)④	① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。①
第 11 回～第 12 回	1.1)⑤	④ 歯周病予防を概説できる。①
第 13 回～第 16 回	1.2)①	⑤ う蝕予防を概説できる。①
第 17 回～第 20 回	1.2)②	2) 対象者の把握
第 21 回～第 24 回	1.2)④	3) 歯・口腔の健康状態の把握
第 24 回～第 28 回	1.2)⑥	① 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる。①
第 29 回～第 30 回	2.1)①	② 歯・口腔の健康状態を把握するための項目を列挙できる。①
第 31 回～第 36 回	2.2)①	④ 歯石の形成過程と成分を説明できる。①
第 37 回～第 38 回	2.2)④	⑥ 歯周病の原因と分類、進行及び予防方法を説明できる。①
第 39 回～第 42 回	2.2)⑤	4) プラークコントロール
第 43 回～第 44 回	2.2)⑥	2. 歯周病予防処置
第 45 回～第 46 回	2.3)①	1) 歯周病の基礎知識
第 47 回～第 52 回	2.3)②	① 歯周病と生活習慣の関連を説明できる。①
第 53 回～第 56 回	3.1)①	2) 歯周病リスクの情報収集と評価・計画①
第 33 回～第 34 回	3.1)②	① 口腔内写真・エックス線画像から歯周組織の状態を説明できる。①
第 35 回～第 36 回	3.1)③	④ 歯・歯肉・口腔の検査ができる。①
第 57 回～第 58 回	3.1)④	⑤ 診査の結果を説明できる。①
第 59 回～第 60 回		⑥ 対象者の情報を分析し、歯周病予防計画を立案できる。①
第 61 回～第 62 回		3) スケーリング・ルートプレーニング
第 63 回～第 64 回		① スケーラーの種類と使用目的を説明できる。①
第 65 回～第 66 回		*② シックルタイプスケーラーを操作できる。①
第 67 回～第 68 回		3. う蝕予防処置
第 69 回～第 70 回		1) 基礎知識
第 71 回～第 72 回		① う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法・項目を説明できる。①
第 73 回～第 74 回		② う蝕と全身疾患の関連を説明できる。①
第 75 回	まとめ	③ う蝕予防処置の臨床的効果・作用機序・安全性・便宜性を説明できる。①
		④ う蝕活動性試験の種類と方法及び判定基準を説明できる。①
		2) う蝕リスクの情報収集と評価・計画
		3) フッ化物応用によるう蝕予防
		(1) フッ化物歯面塗布法
		(2) フッ化物洗口法
		(3) フッ化物配合歯磨剤
		(4) ライフステージに応じたフッ化物応用

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科保健指導論 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	75 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義・実習		単位数	3 単位	
	太田校	戸田恵理	企業等との連携		
担当教員	高崎校	渡木里佳	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	<p>健康と病気の概念を理解し、望ましい歯科保健行動に導き、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために必要なプロフェッショナルケア(専門家の行う世話)・セルフケア(自分でする世話)・コミュニティケア(地域で行う世話)の基本となる知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>1. 総論: 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、対象者(個人、集団)の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を学ぶ。</p> <p>2. 情報収集: 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者(個人、集団)の情報について収集方法を習得する。</p> <p>3. 口腔衛生管理: 口腔衛生管理を行うために対象者の問題点を把握し必要な知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>4. 生活習慣指導: 生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために対象者の問題点を把握し、専門的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>5. 食生活指導: ライスステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、対象者の問題点を把握し専門的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>6. 健康教育活動: 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術及び態度を習得する。</p>				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 授業配布プリント・「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

保健とは健康を守ること、あるいは健康を育てていくことである。

保健指導では生涯通して、歯や口の健康を守っていくにはどう導くか？健康志向にする方法と技術について学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標(*は実習予定項目)
第1回～第2回	はじめに	1. 総論
第3回～第4回	1.1)①	1)概要
第5回～第6回	3.1)①	① 歯科保健指導の定義と特性を説明できる。①
第7回～第8回	3.1)②	2)基礎知識
第9回～第10回	3.1)③	3)歯科衛生過程
第11回～第12回	3.2)①	2. 情報収集
第13回～第14回	3.2)②	1)医療面接
第15回～第16回	3.2)③	2)全身の健康状態の把握
第17回～第18回	3.3)①	2)生活環境と生活背景の把握
第19回～第20回	3.3)②	3)歯・口腔状態の把握
第21回～第22回	3.3)③	3. 口腔衛生管理
第23回～第24回	3.3)④	1)基礎知識
第24回～第26回	3.4)①	① 口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。①
第25回～第28回	3.4)②	② 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。①
第29回～第30回	4.3)④	③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。①
第31回～第32回	5.1)①	2)指導の要点
第33回～第34回	5.1)②	3)リスクに応じた指導法
第35回～第36回	5.1)③	*① う蝕のリスクに応じた口腔衛生指導ができる。①
第37回～第38回	5.1)④	*② 歯周病のリスクに応じた口腔衛生指導ができる。①
第39回～第40回	5.1)⑤	*③ 不正咬合に応じた口腔衛生指導ができる。①
第41回～第42回	5.3)①	*④ 義歯装着に応じた口腔衛生指導ができる。①
第43回～第44回	5.3)②	4)対象別の指導法

第 45 回～第 46 回	5.3)③	① 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健行動を説明できる。①
第 47 回～第 48 回	5.3)④	
第 49 回～第 50 回	6.1)①	*② 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。①
第 51 回～第 52 回	6.1)②	4. 生活習慣指導
第 53 回～第 54 回	6.1)③	1) 基礎知識
第 55 回～第 56 回	6.1)④	2) 指導の要点
第 57 回～第 58 回	6.1)⑤	3) 対象別の指導法
第 59 回～第 60 回	6.1)⑥	④ 禁煙支援ができる。①
第 61 回～第 62 回	6.1)⑦	5. 食生活指導
第 63 回～第 64 回	6.2)①	1) 基礎知識
第 65 回～第 66 回	6.2)②	① 食品とう蝕の関連性を説明できる。①
第 67 回～第 68 回	まとめ	② 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。①
第 69 回～第 70 回	まとめ	③ う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。①
第 71 回～第 72 回	まとめ	④ 咀嚼の働きを説明できる。①
第 73 回～第 74 回	まとめ	⑤ 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連を説明できる。①
第 75 回	まとめ	2) 指導の要点p;
		3) 対象別の食生活指導
		*① 各ライフステージ別の食生活指導ができる。①
		*② 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。①
		*③ 全身疾患患者・障害児者、要介護者、周術期患者等の食事介助の指導ができる。①
		④ 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。①
		6. 健康教育活動
		1) 基礎知識
		① 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。①
		② 健康教育に必要な情報を収集できる。①
		③ 健康教育の計画立案ができる。①
		④ 健康教育の内容を説明できる。①
		⑤ 健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。①
		⑥ 健康教育活動の方法を説明できる。①
		⑦ 健康教育の評価を説明できる。①
		2) 対象別健康教育
		① 集団・組織・地域の実態が把握できる。①
		② 対象者の特性と口腔保健ニーズの把握ができる。①

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	栄養指導学 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	30 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	2 単位	
担当教員	太田校	井野文枝	企業等との連携		
	高崎校	小保方恵	実務経験のある教員科目		該当
一般目標	人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本的知識を習得する。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「栄養と代謝」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が 70% を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて調理実習を実施する。				

外界から食べ物を得て、成長し、生きていく力を保ち続ける身体の営みを栄養という。
 栄養によって、ヒトはからだの血や肉を作り、からだを動かすエネルギーのもととなる。
 食物から得られる水と栄養は、人間にとって不可欠なものである。
 栄養不足・栄養の取過ぎ・偏った食事は、健康を損ね、病気の原因にもつながる。
 肥満や生活習慣病を予防するには食事に気を配ることが大切である。
 栄養指導は、歯科衛生士による口腔を健康に導く歯科保健指導の中で欠くことのできない分野である。
 栄養指導学では食事摂取・消化や吸収のしくみは？
 食品に含まれる栄養素については何があるのか？
 健康な身体をつくるための栄養のとり方は？
 食生活改善の取り組みには何があるのか？
 歯や口の健康づくりを食事面・栄養面からサポートする知識と方法を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回～第 2 回	①②	① 健康の維持と増進に必要な栄養を概説できる。
第 3 回～第 4 回	③	② 現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を列挙できる。
第 5 回～第 6 回	④⑤	③ 栄養素の種類とその消化と吸収の基本を説明できる。
第 7 回～第 8 回	⑥	④ 栄養素の役割を説明できる。
第 9 回～第 10 回	⑦	⑤ 食事摂取基準を説明できる。
第 11 回～第 12 回	⑧⑨	⑥ エネルギー必要量を説明できる。
第 13 回～第 14 回	⑩	⑦ 脂肪エネルギー比率を説明できる。
第 15 回～第 16 回	⑪	⑧ 基礎代謝を説明できる
第 17 回～第 18 回	⑫	⑨ 糖質、タンパク質、脂質の代謝・生体での役割を概説できる。
第 19 回～第 20 回	⑬	⑩ ビタミンの種類と働きを概説できる。
第 21 回～第 22 回	⑭	⑪ ミネラル(無機質)の種類と働きを概説できる。
第 23 回～第 24 回	⑮	⑫ 水の生体での役割を概説できる。
第 25 回～第 26 回	⑯	⑬ 食物繊維の生体での役割を概説できる。
第 27 回～第 28 回	⑰⑱	⑭ 食品の成分と分類及び食品成分表を説明できる。
第 29 回～第 30 回	まとめ	⑮ 食品群の種類と分類を説明できる。 ⑯ 保健機能食品を説明できる。 ⑰ 食品添加物(保存料、甘味料、着色料、香料など)を説明できる。 ⑱ 食品の物性とその働きを説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科診療補助論 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1 年次
授業時数	45 時間			高崎校	1 年次
授業方法	講義		単位数	2 単位	
担当教員	太田校	堤梢江	企業等との連携		該当
	高崎校	中川絵梨佳	実務経験のある教員科目		
一般目標	<p>さまざまなライフステージ(人の一生における各年齢の段階)における歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>1. 歯科診療補助: 歯科診療補助全般の専門的な基礎的知識、技術及び態度を習得する。 2. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理: 基本的性質及び標準的な使用法を習得する。 3. 保存/4. 補綴/5. 口腔外科・歯科麻酔/6. 矯正歯科/7. 小児歯科/8. 高齢者歯科/ 診療時に必要な患者対応、治療手順、薬剤・器材の使用に関する基礎的知識、技術、態度を習得する。 9. 障害児者歯科: 治療時に必要な患者対応、摂食嚥下の検査及び訓練法を習得する。 10. エックス線写真撮影時の診療補助: 必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。 11. 救命救急処置: 必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。 12. 口腔機能管理: 口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術及び態度を習得する。</p>				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」「歯科機器」「おしごとハンドブック」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

歯科診療の補助とは医療行為である。歯科医師の指示のもとに直接に患者への対面で行われる。歯科診療の際に、歯や口など口腔領域に直接触れる医療行為は歯科衛生士の資格が必要となる行為である。歯科診療の補助は、歯科衛生士の業務独占であり、歯科衛生士法の第二条第二項に定められている。医療技術は進歩を重ね、幅広く難しい治療分野、かなり細かな内容も多いがひとつひとつ学んでほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標(*は実習予定項目)
第1回	はじめに	1. 歯科診療補助
第2回	1.1)	1) 概要
第3回	1.2)	① 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを説明できる。①
第4回	1.2)	② 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を説明できる。①
第5回	1.3)	③ チーム歯科医療の必要性を説明できる。①
第6回	1.3)	④ 歯科訪問診療のための保健・医療・福祉のシステムを概説できる。①
第7回	1.3)	2) 情報収集
第8回	1.4)①	① 医療面接で全身及び口腔の自覚症状を(主観的情報)を読み取ることができる。①
第9回	1.4)①	② 全身疾患の症状を読み取ることができる。①
第10回	1.4)②	③ 生体検査の方法と結果を読み取ることができる。①
第11回	1.4)②	④ 血液検査の結果を読み取ることができる。①
第12回	1.4)③	*⑤ モニター検査の結果を読みとることができる。①
第13回	1.4)③	⑥ 心身の成長・発達の状態を把握できる。①
第14回	1.5)①	⑦ 服薬の状態を把握できる。①
第15回	1.5)②	⑧ 歯科治療に必要な検査で他覚症状(客観的情報)を読み取ることができる。①
第16回	1.5)③	3) 患者への対応
第17回	1.5)④	*① 全身疾患を考慮した対応ができる(身体機能含む)。①
第18回	1.5)⑤	*② 高齢者に配慮した対応ができる。①
第19回	1.5)⑥	*③ 妊産婦に配慮した対応ができる。①
第20回	1.5)⑦	*④ 通院困難者に配慮した対応ができる。①
第21回	1.5)⑧	*⑤ 障害に配慮した対応ができる。①
第22回	1.6)①	*⑥ 感染症に配慮した対応ができる。①
第23回	1.6)②	4) 診療時の共同動作
第24回	1.6)③	*① フォーハンドシステムの基本動作ができる。① *② 診療に応じた共同動作ができる。①

第 25 回	1. 6)④	*③ 診療に応じたバキューム操作ができる。①
第 26 回	1. 7)①	5)診療設備の管理
第 27 回	1. 7)②	① 診療設備が整えられる。①
第 28 回	1. 7)③	② エアーコンプレッサーの管理ができる。①
第 29 回	2. 1)②	*③ 歯科用ユニットの管理ができる。①
第 30 回	2. 1)②	*④ 口腔外バキュームの管理ができる。①
第 31 回	2)2)②	*⑤ エックス線撮影装置の管理ができる。①
第 32 回	2. 2)②	*⑥ 酸素吸入器の管理ができる。①
第 33 回	2. 3)②	*⑦ レーザー装置の管理ができる①
第 34 回	2. 3)②	*⑧ 薬品、歯科材料の管理ができる。①
第 35 回	2. 3)③	6)医療安全管理
第 36 回	2. 3)③	*① 感染に応じた対応ができる。①
第 37 回	2. 4)②	*② スタンダードプレコーションができる。①
第 38 回	2. 5)②	*③ 医療廃棄物の取扱いができる。①
第 39 回	4. 1)	*④ 偶発事故に適切な対応ができる。①
第 40 回	4. 2)	7)消毒・滅菌
第 41 回	4. 2)	① 消毒・滅菌・洗浄を説明できる。①
第 42 回	10. 1)2)	② 消毒薬、各種滅菌器械・器具を説明できる。①
第 43 回	10. 3)4)	*③ 消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作・取扱いができる。①
第 44 回	12. 1)	*④ 消毒薬、各種滅菌器械・器具の管理ができる。①
第 45 回	まとめ	2.主要歯科材料の種類、取扱いと管理 1)模型用材料 *② 模型用材料の取扱いができる。① 2)合着・接着・仮着用材料 *② 各種合着・接着・仮着用材料の取扱いができる。① 3)印象用材料 *② 各種印象材を練和できる。① *③ 概形印象の採得ができる。① 4)歯冠修復用材料 *② 歯冠修復材の取扱いができる。① 5)仮封用材料 *② 仮封材の取扱いができる。① 6)その他の材料 3.保存治療時の診療補助 4.補綴治療時の診療補助 1)検査 ① 補綴治療に必要な各種検査を説明できる。① ② 補綴治療に用いる各種検査器材の準備ができる。① 2)印象採得 ① 印象採得の手順を説明できる。① ② 印象採得で用いる器材の準備と取扱いができる。① 5.口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助 6.矯正歯科治療の診療補助 7.小児歯科治療時の診療補助 8.高齢者歯科治療時の診療補助 9.障害児者歯科治療時の診療補助 10.エックス線写真撮影時の診療補助 1)撮影装置と取扱い *① エックス線撮影装置の準備ができる。① ② 歯科用・パノラマ用撮影装置・デジタル画像システムの取扱いを説明できる。① 2)口内法撮影 *① 頭部の固定ができる。① *② 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。① *③ パノラマエックス線撮影の準備ができる。①

	<p>3)写真の処理と管理</p> <ul style="list-style-type: none"> *① 写真の処理ができる。① *② 写真の画像管理ができる。① <p>4)放射線の人体への影響と防護</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 放射線の人体への影響を説明できる。① *② 放射線防護の準備ができる。① *③ 患者や術者の放射線防護ができる。① *④ 被爆量の測定準備ができる。① <p>11.救命救急処置</p> <p>12.口腔機能管理</p> <p>1)基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 人体の加齢と老化の特性と機序及び寿命を概説できる。①
--	---

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科材料学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	15時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	堤梢江	企業等との連携		該当
	高崎校	中川絵梨佳	実務経験のある教員科目		
一般目標	主要歯科材料の種類、取り扱いと管理：歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質及び標準的な使用法を習得する。				
使用教材	授業配布プリント・「イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて実習を行う。				

歯型をとったり、欠けた歯を修復したり、入れ歯を作ったり、とにかく各種の材料を使う。

樹脂など有機材料はなにか？

セラミックなど無機材料ってなにか？

セラミックと樹脂をミックスした複合材料？

金属材料などいろいろな材料について学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	① 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる。 ② 模型用材料の取り扱いが説明できる。 ③ 合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる。 粉末／液タイプ・ペーストタイプ・筆積法・混和法 リン酸亜鉛セメントセメントの練和 ④ 合着・接着材・仮着用材料を操作方法が説明できる。 ⑤ 印象材の種類と基本的性質を説明できる。 アルジネート印象・寒天印象・シリコンゴム印象・個人トレー／個歯トレー トレーコンパウンド・モデリングコンパウンド印象・酸化亜鉛ユージノール印象 ⑥ 各種印象材の練和方法を説明できる。 ⑦ 概形印象の採得方法が説明できる。 ⑧ 各種印象法が説明できる。 ⑨ 歯冠修復材(歯冠修復用材料)の種類と基本的性質を説明できる。 ⑩ 歯冠修復材の取り扱い方法が説明できる。 ⑪ 仮封材(仮封用材料)の種類と基本的性質を説明できる。 ⑫ 仮封材の取り扱い方法が説明できる。 ⑬ ワックスの基本的性質を述べることができる。 ⑭ 義歯用材料・義歯関連材料の基本的性質を説明できる。 ⑮ インプラント用材料の使用目的を説明できる。(補綴アシストの本参照) ⑯ ホワイトニングについて説明できる。 ⑰ ファイバーポストについて概説できる。 ⑱ CAD/CAM 冠について概説できる。
第2回	①②	
第3回	③④	
第4回	⑤	
第5回	⑥⑦	
第6回	⑧	
第7回	⑨	
第8回	⑩	
第9回	⑪⑫	
第10回	⑬⑭	
第11回	⑮	
第12回	⑯	
第13回	⑰	
第14回	⑱	
第15回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	看護学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	15 時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	1 単位	
担当教員	太田校	木村友美子	企業等との連携		実務経験のある教員科目
	高崎校	茂原加代子	該当		
一般目標	歯科衛生業務に必要なあらゆる発達段階における主な全身疾患とその対応、モニタリング、救急救命処置のために必要な知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	「歯科衛生士のための看護学大意」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて実習を実施する。				

看護とは、あらゆる発達段階において、その人が持っている生命力を引き出して自分らしく生きるサポートをする。看護師の仕事は、採血したり、注射したりする「診療の補助」と、快適の療養できるように食事や入浴の援助などを行う「療養上の世話」がある(保健師助産師看護師法)。

患者さんの多くは、血圧が高い・糖尿病・コレステロールが高いなど全身疾患を有する。

歯科治療にあたっては全身の病気の理解が重要となる。

医科医療現場の看護師の先生から全身疾患の概要、患者管理の実際、看護師との連携について学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	① 病院で就業する場合の様々な職種の役割を概説できる。
第2回	②	② 栄養サポートチーム(NST)について概説できる。
第3回	③	③ 看護の歴史・対象・目標・役割・業務について概説できる。
第4回	④⑤	④ バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧)について説明できる。
第5回	⑥	⑤ バイタルサインの測定方法について説明できる。
第6回	⑦	⑥ 患者とのコミュニケーション・接し方・安全について概説できる。
第7回	⑧	⑦ 体位変換・栄養補給・摂食支援・与薬・嚥法・吸引・吸入について概説できる。
第8回	⑨	⑧ 患者の観察・治療経過の記録の作成について概説できる。
第9回	⑩	⑨ 外来患者の特徴・全身疾患を有する患者の診療補助について説明できる。
第10回	⑪⑫	⑩ 入院患者の看護について概説できる。
第11回	⑬	⑪ 周術期の口腔健康管理における病院・診療所の連携について概説できる。
第12回	⑭	⑫ 口腔ケアにおける患者の状態別の注意点の注意点について概説できる。
第13回	⑮⑯	⑬ 救急時の看護(救急蘇生・神経性ショック・過換気症候群)について概説できる。
第14回	⑰⑱	⑭ 洗浄・洗淨・消毒・滅菌について説明できる。
第15回	まとめ	⑮ 標準予防策・手指衛生・個人防護用具・環境の衛生について説明できる。
		⑯ 医療安全対策・アクシデントレポート・ヒアリハットについて説明できる。
		⑰ 地域連携における看護・在宅医療・訪問看護・チームアプローチを概説できる。
		⑱ 保健・医療・福祉チームとの連携について概説できる。
		⑲ 訪問時のマナー・対象者の把握・情報収集について概説できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	臨床検査学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	15時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	健康づくり財団講師	企業等との連携		実務経験のある教員科目
	高崎校	健康づくり財団講師	該当		
一般目標	検査データの表す意味や正常値を理解し患者の全身状態をよく把握するために臨床検査に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「臨床検査」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて実習を行う。				

多くの患者さんはいろいろな持病を抱えている。

血圧が高い・糖尿で血糖が高い・肝臓の機能低下など見えない身体の中身を数値で示すのが検査である。

臨床検査技師の先生より検査と病気の間連や概要を学ぶ。

※臨床検査技師とは、診療の補助行為として検体採取を行い、検体検査や生理学的検査を行う国家資格。

医師の指示により採血・尿・便・喀痰などの検体検査、心電図・超音波・心肺機能など生理検査を実施する。

総合病院・保健所・衛生検査所・臨床検査センター・医療機器メーカー等で勤務している。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	① 臨床検査の必要性を理解して、検査方法による種類を説明できる。
第2回	②	② 生体機能検査の概要・体温・脈拍・血圧・呼吸を理解し測定できる。
第3回	③	③ 心機能検査・心電図の基本波形について説明できる。
第4回	④	④ 肺機能検査・肺活量検査について説明できる。
第5回	⑤⑥	⑤ 検体検査(血液・凝固・生化学・免疫血清・血液型・赤血球・白血球・血小板)について説明できる。
第6回	⑦	⑥ 血液成分、血球の種類や役割について説明できる。
第7回	⑧	⑦ 貧血の分類と検査方法を説明できる。
第8回	⑨	⑧ 出血性素因の分類・スクリーニング検査を説明できる。
第9回	⑩	⑨ 血液生化学検査(肝機能・腎機能・糖代謝)について説明できる。
第10回	⑪⑫	⑩ 肝機能検査方法、項目について説明できる。
第11回	⑬	⑪ 糖尿病の種類と検査方法、項目について説明する。
第12回	⑭	⑫ 免疫血清学的検査(炎症・アレルギー)について説明できる。
第13回	⑮⑯⑰	⑬ 血液型(抗原抗体反応)について説明できる。
第14回	⑱⑲⑳	⑭ 細菌検査・感染症検査について説明できる。
第15回	まとめ	⑮ 歯科領域で関わりの深い肝炎等の感染症の種類、検査方法、検査項目について説明できる。 ⑯ 尿検査の意義、検査法・項目について説明できる。 ⑰ 病理組織学的検査について説明できる。 ⑱ 口腔領域の臨床検査(味覚・金属アレルギー・唾液)を説明できる。 ⑲ 画像検査(超音波検査など)について概説できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	秘書概論		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	30 時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	2 単位	
担当教員	太田校	吉田洋子・荻野美恵子・岩田和人		企業等との連携	
	高崎校	高橋範久・中村高広		実務経験のある教員科目	該当
一般目標	和裁の基本的な技能を通して歯科衛生士として必要な細かな作業に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。 社会人として必要な経済の仕組みに関する知識・技術・態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・経済記事の読み方検定テキスト「OIKOS-NOMOS」				
成績評価の方法・基準	提出物・試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて、グループワークや演習を実施する。				

社会人として活躍して世の中をより良く生きるには幅広い教養が必要である。

教養とは自分の幅を広げることである。

専門分野だけでなく専門外の分野、現代の経済社会の仕組みを学び幅広い人間になることも大切である。

自分の手を使って針と糸で縫うことが少なくなった。裁縫は手先の器用さと集中力を養うのにとっても役立つ。

歯科衛生士として医療人として働くにしても社会の中で活躍するには経済感覚も欠かせない。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	【和裁】 ① 運針ができる。 ② 三角巾が作成できる。 ③ 白衣の裾上げができる。 【経済記事】 ④ 経済記事を読むことができる。 ⑤ 経済記事のキーワードを説明できる。 ⑥ 経済記事を読んで実践的に活用できる。 ※「経済記事の読み方検定 3 級」
第3回～第4回	②	
第5回～第6回	③	
第7回～第8回	③	
第9回～第10回	③	
第11回～第12回	④	
第13回～第14回	④	
第15回～第16回	④	
第17回～第18回	⑤	
第19回～第20回	⑤	
第21回～第22回	⑤	
第23回～第24回	⑥	
第25回～第26回	⑥	
第27回～第28回	⑥	
第29回～第30回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	コミュニケーション論		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	30時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	岩田和人・専任教員	企業等との連携		
	高崎校	中村高広・専任教員	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	支援が必要な医療現場での「話す」「聞く」「伝える」の基本的なコミュニケーションに関する知識・技術・態度を修得する。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「心理学」				
成績評価の方法・基準	学期末レポートの結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて、グループワークや演習を実施する。				

歯科衛生士は、専門的で難しいことを患者や対象者に伝えて、理解しあうことも大切な仕事である。

相手の思いをうまく引き出すにはどうしたらよいか？

わかりやすく伝えるにはどんな言葉を選んだらよいか？

学生生活を通して色々な人々と関わり合う中でコミュニケーションとは何かを考えながら過ごしてほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	「言葉」は互いに情報・意思・感情を伝達、想像・思考を巡らすもの ① 心と心でつながるコミュニケーションを理解できる。 ② 苦手な人とうまく接する方法を理解できる。 ③ 言いにくいことをうまく伝える方法を理解できる。 ④ クレームや不満が出ないようにする方法を理解できる。 ⑤ 話がすれ違うことが多い解決法を理解できる。 ⑥ 話が脱線する人や話が長い人への対応を理解できる。 ⑦ うまく説明する方法を理解できる。 ⑧ モチベーションを上げるヒントを理解できる。 ⑨ 話が聞いてもらえないときの解決法を理解できる。 ⑩ 言い訳が多い人に困ったときの対応法を理解できる。
第3回～第4回	①	
第5回～第6回	②	
第7回～第8回	②	
第9回～第10回	③	
第11回～第12回	③	
第13回～第14回	③	
第15回～第16回	④	
第17回～第18回	④	
第19回～第20回	⑤	
第21回～第22回	⑥	
第23回～第24回	⑦	
第25回～第26回	⑧	
第27回～第28回	⑨	
第29回～第30回	⑩	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	ビジネス実務		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	1年次
授業時数	30時間			高崎校	1年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
	太田校	岩田和人	企業等との連携		
担当教員	高崎校	中村高広	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	ビジネス社会で活躍するために必要な人柄や心構え・状況把握能力・情報分析能力に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	「社会人常識マナー検定テキスト2・3級」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。適時、演習や実習を実施する。				

3年後には歯科衛生士という国家資格を持った社会人として新たな旅立ちに出発する。

現代社会でやってゆくために必要な名刺交換はじめビジネス文書などビジネスマナーの基本について学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	【ビジネスマナー】 ① 仕事の基本となる8つの意識を概説できる。 ② 指示の受け方と報告、連絡、相談について概説できる。 ③ コミュニケーションとビジネスマナーの基本について説明できる。 ④ 来客対応と訪問の基本マナーについて説明できる。 ⑤ ビジネス文書の基本について概説できる。 ⑥ 情報リテラシーについて説明できる。 ・コンピュータを構成する基本的装置を列挙できる。 ・ワープロソフト・表計算ソフトを用いることができる。 ・ソフトウェアの使用上のルールとマナーを説明できる。 ・電子メール及び添付ファイルの送信・受信・転送ができる。 ・インターネットのブラウザ検索ソフトでホームページ閲覧ができる。 ・インターネットを利用した授業に参加できる。 ・ネットワークセキュリティと使用上のマナーを概説できる。 ⑦ 電話応対について概説できる。 ⑧ 統計・データの読み方、まとめ方について概説できる。 ⑨ 情報収集とメディアの活用について概説できる。 ⑩ まとめ演習 ※「社会人常識マナー検定3級」
第3回～第4回	②	
第5回～第6回	③	
第7回～第8回	④	
第9回～第10回	⑤	
第11回～第12回	⑥	
第13回～第14回	⑦	
第15回～第16回	⑧	
第17回～第18回	⑨	
第19回～第20回	⑩	
第21回～第22回	⑩	
第23回～第24回	⑩	
第25回～第26回	⑩	
第27回～第28回	⑩	
第29回～第30回	⑩	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	臨床・臨地実習 I	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1 年次
授業時数	45 時間	単位数	1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	各実習施設の指導教官	実務経験のある教員科目	該当
一般目標	歯科衛生士の役割を理解するために、病院や診療所などの歯科診療の場、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な実践力を身につける。		
使用教材	臨地・臨床実習ノート		
成績評価の方法・基準	各実習施設の指導教官の評価をもとに出欠状況・遅刻早退状況・実習態度・実習業務に関する理解力・実践力について総合的に評価する。 歯科衛生士国家試験受験資格に必修の所定時間に満たない場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	実習は原則として指定された臨床・臨地実習施設にて校外実習とする。 実習にあたっては、施設長、指導教官、歯科医師、歯科衛生士の指示の下に行う。 貴重な実習時間であることを自覚し、責任をもって臨むこと。 実習先は校外であり、髪型・清潔感・服装・ハキハキした挨拶・遅刻しない・健康管理・分からないことは尋ねる・敬語など社会人としてビジネスマナーも求められる。		

授業回数	授業予定	○ 到達目標
全 45 時間共通	校外実習	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設等のルール・診療室のルールを理解した行動ができる。 ② 医療安全管理・安全管理に配慮した行動ができる。 ③ 感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策に応じた行動ができる。 ③ 歯科医師・歯科衛生士・施設職員等からの指導・指示に対応ができる。 ④ 多職種スタッフと協働し、連携のとれた対象者へのサービスができる。 ⑤ プライバシーを配慮した態度で応接できる。 ⑦ 対象者の守秘義務を遵守できる。

歯科衛生士学科

2年

歯科衛生士学科で学ぶこと。

基礎・臨床・主要3教科・社会歯科。

2年生ではクリニックで行われる業務である

臨床現場に直結する科目がどんどん増えてくる。

2年生では国家試験出題範囲の80%を勉強する。

初めて耳にする病名や用語も盛り盛りで戸惑うばかり。

分からない、知らないはクラスの皆も同じ。心配はご無用。

勉強とは「解かる」に気づきそれがつながっていくことであるのだ。

勉強を続けてくると気づかないうちに不思議につながりだす。

たくさんあるけれど科目と科目はどこかでつながっている。

実習で知らない・聞いてないが減るように勉強しよう。

医療は直接・間接の違いはあれど命に係る仕事。

勉強不足で知らなかったでは済まされない。

だから、ひとつでも多く学んでおきたい。

実習中も国試アプリ5分やろう。

昨日知らなかった一問が

今日わかる一問になり

やって良かったと

後でわかる。

科目名	化学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	30時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	三輪明	企業等との連携		実務経験のある教員科目
	高崎校	三輪明	該当		
一般目標	生命現象、生体の構造・機能を知るために化学に関する知識を習得する。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「化学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

歯科に化学記号の知識は欠かせない。

歯科保健指導における栄養指導に必要な生化学の基礎となる勉強でもある。

化学反応で固まる歯科材料の取扱いを理解するにも役立つ。

濃い消毒液を水で薄めて使いたいとき、必要な水の量は？

ムシ予防洗口液を薄めて作るのはどうしたらよいか？の計算も学ぶ。

化学は歯科保健指導、歯科診療補助、歯科予防処置など歯科衛生士の業務に広く関連する。

化学式や計算があって苦手意識を持つ学生もあると思う。

しかしながら、分かりだすとなかなか楽しい。

お互いに教えて教えられ勉強を深めていってほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	① 物質の構成要素(原子・分子・イオン)について概説できる
第3回～第4回	③	② 原子の構造(原子の構成・周期表・分子量)について説明できる。
第5回～第6回	④	③ 化学結合(原子間結合・分子間結合)について概説できる。
第7回～第8回	⑤	④ 物質の三態(気体・液体・固体)について説明できる。
第9回～第10回	⑥	⑤ モル・物質を数える単位について説明できる。
第11回～第12回	⑦	⑥ 水溶液(浸透圧・コロイド・酸とアルカリ)について概説できる。
第13回～第14回	⑧	⑦ 化学反応について説明できる。
第15回～第16回	⑨	⑧ 酸・塩基・中和について説明できる。
第17回～第18回	⑩	⑨ 酸化還元反応について説明できる。
第19回～第20回	⑪	⑩ 有機化合物の特徴を説明できる。
第21回～第22回	⑫	アルカン・アルケン・アルキン・ハロゲン化物・アルコール・フェノール・
第23回～第24回	⑬	エーテル・アルデヒド・ケトン・カルボン酸・エステル・アミン・ニトロ化合物・スルホン酸
第25回～第26回	⑭	⑪ 無機化合物の特徴を説明できる。
第27回～第28回	⑮	⑫ アミノ酸とタンパク質の基本的な構造、機能を説明できる。
第29回～第30回	まとめ	⑬ 糖質の基本的な構造、機能を説明できる。
		⑭ 脂質の基本的な構造、機能を説明できる。
		⑮ 核酸の構造と機能を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	外国語Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	15時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	中央外語学院講師	企業等との連携		該当
	高崎校	中央外語学院講師	実務経験のある教員科目		
一般目標	歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。				
使用教材	授業配布プリント・「デンタルクリニック英会話」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。 テキストから必要なところをセレクトしてレクチャーする。				

日本で暮らす外国人はおおよそ300万人。たくさんの外国人が暮らしている。

外国人との歯科クリニックでの基本的なおしゃべりを楽しもう。

英語でおしゃべりしながら英語に慣れ親しみながら、

「ハロー」

「メイ アイ ヘオプ ユー」

…から広げてゆこう。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	① デンタルチャートについて概説できる。 ② 治療について説明できる。 ③ 歯科用語のボキャブラリーをあげることができる。 ④ よくある歯科疾患について説明できる。 ⑤ 易しい外国語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 ⑥ 歯科衛生学に関連する外国語の専門用語のうち代表的なものを列挙できる。 ⑦ 短い日本語を文法にかなった外国語に訳すことができる。 ⑧ 自己紹介文、手紙文などを外国語で書くことができる。 ⑨ 自然科学各分野における基本的単位、数値、現象の外国語表現を列記できる。 ⑩ 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。 ⑪ 外国語による基本的な日常会話ができる。
第2回	①	
第3回	②	
第4回	③⑥	
第5回	③⑥	
第6回	③⑥	
第7回	③⑥	
第8回	④	
第9回	④	
第10回	⑤	
第11回	⑤	
第12回	⑦⑧	
第13回	⑨	
第14回	⑩⑪	
第15回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	口腔衛生学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	45時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	3単位	
担当教員	太田校	戸田英樹・渡邊英明	企業等との連携		
	高崎校	小保方恵・渡邊英明	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	<p>【口腔衛生学】 歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【歯科統計学】保健情報と衛生統計 個人及び集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。</p>				
使用教材	歯科衛生士テキスト「口腔衛生学」・歯科衛生学シリーズ「保健生態学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。				

【口腔衛生学】

口腔衛生学は、口の中を健康にすることで、生命をまもる学問である。

口の中を健康にすることは身体の健康につながる。

歯や口を病気にしないようにするにはどうすればいいのか？

歯科衛生士による予防のメカニズムはどうなっていて何ができるのか？

などを科学する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	① ②	① 人間生態系におけるフッ化物の意義を説明できる。
第3回～第4回	③	② 生体におけるフッ化物の代謝を説明できる。
第5回～第6回	④	③ フッ化物の毒性を認識し、正しい対処法を説明できる。
第7回～第8回	⑤⑥	④ フッ化物応用によるう蝕予防法を列挙できる。
第9回～第10回	⑦	⑤ フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明できる。
第11回～第12回	⑧	⑥ ライフステージに応じたフッ化物の応用方法を説明できる。
第13回～第14回	⑨	⑦ 歯周病の種類と発病のメカニズムを説明できる。
第15回～第16回	⑩	⑧ 歯周病の炎症の広がりと症状を説明できる。
第17回～第18回	⑪	⑨ 歯周病のリスクファクターを列挙できる。
第19回～第20回	⑫⑬	⑩ 歯周病の全身に与える影響を説明できる。
第21回～第22回	⑭	⑪ 歯周病予防の第一次・第二次・第三次予防を説明できる
第23回～第24回	⑮⑯	⑫ 口内炎の分類、要因及び予防を説明できる。
第25回～第26回	⑰⑱	⑬ 口腔癌の実態と予防を説明できる。
第27回～第28回	⑲⑳㉑	⑭ 不正咬合の要因とその予防を説明できる。
第29回～第30回	まとめ	⑮ 顎関節症の分類と症状を説明できる。
		⑯ 歯の着色・変色の要因を列挙できる。
		⑰ 口臭の要因と予防を説明できる。
		⑱ 口腔乾燥症の要因と予防4を説明できる。
		⑲ 歯の損耗(Tooth wear)の要因と予防を説明できる。
		⑳ 歯・口腔の外傷の要因と予防を説明できる。
		㉑ 口腔機能低下症の要因と予防を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

【歯科統計学】

病気の指標には何があるか？

健康の目標の割合などを数字で表すとどうなるのか？

多いのか少ないのか調べたり、図表にしたり、分析したり、見えない実態を見えるようにするのが歯科統計学である。

健康づくりや保健指導をするといっても、指標がなければ、漠然としていて、形になって見えてこない。

そこで、一人平均ムシ歯は何本？どんな調査でそれは知ることができるのか？

う蝕予防のフッ化物によるう蝕抑制率って？

歯周病の実態は？歯肉から出血する人はどのくらいの割合なのか？

計算もあるので苦手意識を持つ学生もあると思うが、数値で目標や経過を知ることで見えないものが見えてくる。

歯科衛生士の仕事をサイエンスしよう。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	① データと情報の違いを説明できる。
第2回	①②③	② EBM(evidence-based medicine)根拠に基づいたを説明できる。
第3回	④⑤⑥	③ 国家保健統計(歯科疾患実態調査等)を説明できる。
第4回	⑦⑧	④ 疫学の目的を説明できる。
第5回	⑨	⑤ 因果関係を説明できる。
第6回	⑩⑪⑫	⑥ 調査方法・研究方法を分類し、説明できる。
第7回	⑬⑭⑮⑯	⑦ 有病率・罹患率・累積罹患率(発病率)を計算できる。
第8回	⑰⑱⑲	⑧ スクリーニング検査を説明できる。
第9回	⑳㉑㉒	⑨ 敏感度・特異度を計算できる。
第10回	㉓㉔	⑩ 歯科疾患の指標を列挙できる。
第11回	㉕㉖	⑪ う蝕の指標を説明できる。
第12回	㉗㉘	⑫ 歯周疾患の指標を説明できる。
第13回	㉙㉚㉛	⑬ 口腔清掃状態の指標を説明できる。
第14回	㉜㉝㉞㉟	⑭ 口腔機能の指標を説明できる。
第15回	まとめ	⑮ 歯のフッ素症の指標を説明できる。
		⑯ 不正咬合の指標を説明できる。
		⑰ 保健情報の収集方法を説明できる。
		⑱ 保健調査の基本を説明できる。
		⑲ 質問紙作成法の基本を説明できる。
		⑳ 母集団と標本を説明できる。
		㉑ 標本抽出法を説明できる。
		㉒ データの数値のもつ特徴を説明できる。
		㉓ 数値に応じた代表値や散布度を選択できる。
		㉔ 数値の特徴や分布に応じたデータの分析法を選択できる。
		㉕ 交絡因子(こうらくいんし)を説明できる。
		㉖ 検定の流れを説明できる。
		㉗ 標本平均値の差の検定(t検定)を説明できる。
		㉘ カイ二乗検定(χ^2 検定)を説明できる。
		㉙ 図表の種類と特徴を列挙できる。
		㉚ 図表作成の基本事項を列挙できる。
		㉛ 図表を作成できる。
		㉜ 情報の特性・情報リテラシーを概説できる。
		㉝ 情報を得る手順を列挙できる。
		㉞ 個人情報の扱い(個人情報保護)を説明できる。
		㉟ インターネットと情報モラル・倫理的課題について概説できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	衛生学・公衆衛生学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2 年次
授業時数	30 時間			高崎校	2 年次
授業方法	講義		単位数	2 単位	
担当教員	太田校	渡邊英明・戸田恵理	企業等との連携		実務経験のある教員科目
	高崎校	武藤政美・小保方恵	該当		
一般目標	<p>衛生学・公衆衛生学は、健康と予防に関わる人間と社会の仕組みについて学ぶ。 <環境保健> 健康と密接な環境衛生を理解し、健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する。 <地域保健> 地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、集団に対する疾病の予防能力を高める態度を養うために、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を習得する。</p>				
使用教材	「公衆衛生がみえる」・「保健生態学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

生きること(いのち)を衛(まもる)勉強が衛生学。地域集団の健康な暮らしを構築し衛る勉強が公衆衛生学。

【公衆衛生学 I】(環境保健)

授業回数	授業予定	○ 到達目標	ページ
第 1 回	①②	※参考「公衆衛生がみえる」のページ数→→→	↓
第 2 回	③④	① 健康の定義と国民の権利を説明できる。<公衆衛生と健康の概念>	2
第 3 回	⑤⑥	② 第一次予防、第二次予防及び第三次予防を説明できる。	4
第 4 回	⑦⑧	③ 社会環境(QOL・ノーマライゼーション・ICF 国際生活機能分類・ソーシャルキャピタル)の理念を説明できる。 ④ 健康づくりの理念、健康とライフスタイルの関係を説明できる。	6 254
第 5 回	⑨⑩	⑤ 疫学の定義について説明できる<疫学>	10
第 6 回	⑪⑫	⑥ 疾病・異常の発生要因(因子)について列挙できる。	12
第 7 回	⑬⑭	⑦ 疾病・死亡・異常・流行を表す指標を列挙できる。	
第 8 回	⑮	⑧ 症例対照研究、コホート研究など疫学研究の方法について説明できる。 ⑨ 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる。 ⑩ スクリーニング検査における概念と指標を説明できる。	19
第 9 回	⑯⑰	⑪ わが国と世界の人口の現状と推移を概説できる。<人口統計>	38
第 10 回	⑱⑲	⑫ 人口静態統計について説明できる。	40
第 11 回	⑳㉑	⑬ 人口構造を人口ピラミッドや各種指標を用いて説明できる。	41
第 12 回	㉒㉓	⑭ 人口動態統計について説明できる。	44
第 13 回	㉔㉕	⑮ 死亡・出生・結婚・離婚に関する指標について概説できる。	48
第 14 回	㉖㉗㉘	⑯ 生命表の理解、日本人の平均余命・平均寿命の動向を説明できる。	52
第 15 回	㉙㉚	⑰ 死因統計について概説できる。	54
		⑮ 感染症の概念と感染成立の三要因を説明できる。<感染症対策>	276
		⑯ 感染予防・流行防止の基本的考え方と対策を説明できる。	276
		⑰ 感染症の分類とその内容の理解と感染症法について概説できる。	281
		⑱ 予防接種の種類について概説できる。	290
		⑲ 主な感染症とその動向を説明できる。	294
		㉑ 院内感染対策について説明できる。	311
		㉒ 食品の安全性確保のための方策を列挙できる。<食品と健康>	314
		㉓ わが国の食中毒の発生状況を説明できる。	
		㉔ 食中毒の分類と特徴を説明できる。	320
		㉕ 食に関するわが国の政策を概説できる。	
		㉖ 地球環境の変化とその対応を説明できる。<環境保健>	408
		㉗ 公害問題とその原因物質を列挙できる。	412
		㉘ 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。	426
		㉙ 人間と環境の関係・健康と環境の関係を説明できる。	
		㉚ 持続可能な開発目標(SDGs)と健康の関係を概説できる。	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

【公衆衛生学Ⅱ】(地域保健)

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第16回	①②	※参考「公衆衛生がみえる」のページ数 <公衆衛生と健康の概念>※2ページ ① 健康の概念・ヘルスプロモーションを概説できる ② 国民健康・栄養調査を説明できる。 ③ ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチを概説できる。 ④ わが国の保健医療計画、健康づくり対策の変遷と現状を説明できる。 <地域保健>※172ページ ⑤ 地域保健を担う組織と地域保健活動の進め方を概説できる。 ⑥ 国民健康づくり運動(健康日本21)と健康増進法を概説できる。 <歯科保健>※272ページ ⑦ 地域歯科保健の保健福祉施策の変革を概説できる。 ⑧ 口腔保健の地域特性と口腔保健活動の進め方を説明できる。 ⑨ ライフステージごとの口腔保健施策を概説できる。 <母子保健>※200ページ ⑩ 母子保健の意義、対象者、母子健康手帳の口腔保健記載を説明できる。 ⑪ 妊産婦・乳幼児の口腔保健管理・歯科保健指導を説明できる。 ⑫ 1歳6か月児・3歳児健康診査と保健指導の内容を説明できる。 ⑬ 妊産婦・乳児歯科健診、う蝕罹患型に応じた保健指導を説明できる。 <学校保健>※340ページ ⑭ 学校保健の領域構造、担当組織と役割、学校健康診断を概説できる。 ⑮ 学校保健の対象者・関係職員を列挙し役割を説明できる。 ⑯ 学校保健統計調査結果、被患率の高い疾病異常を説明できる。 ⑰ 学校歯科健康診断の検査項目を列挙、事後措置内容を説明できる。 ⑱ わが国の学校保健活動と対策について説明できる。 <産業保健>※350ページ ⑲ 産業保健の意義、産業保健活動、労働安全衛生法を概説できる。 ⑳ 職業性疾病を起こす要因を列挙して説明できる。 口腔領域に関連する職業性歯科疾病と特殊健康診断を説明できる。 ㉑ 安全衛生管理体制と作業環境管理、作業管理、健康管理を説明できる。 ㉒ 職域における健康診断の種類と事後処置を説明できる。 ㉓ トータルヘルスプロモーションプラン(THP)を説明できる。 <成人保健>※178ページ ㉔ 成人保健の意義、成人保健活動と対策を説明できる。 <高齢者保健>※230ページ ㉕ 高齢者の保健福祉、介護保険制度の概要、介護予防を説明できる。 ㉖ 要介護者の保健福祉対策(新オレンジプランを含む)を説明できる。 ㉗ 地域包括ケアシステム(保健・医療・福祉・介護の連携)を概説できる。 <精神保健>※262ページ ㉘ 精神保健活動の現状・精神障害者の歯科保健の問題を概説できる。 <障害者保健>※254ページ ㉙ 障害者・発達障害者における歯科保健について概説できる。 <災害保健>※146ページ ㉚ 大規模災害時の保健医療対策を概説できる。 ㉛ 被災地での歯科保健活動を概説できる。 <国際保健>※434ページ ㉜ 世界の健康水準・口腔保健の現状、歯科保健医療活動を概説できる。 ㉝ 国際協力と国際交流、WHO や JICA の活動を説明できる。 ㉞ 開発途上国への歯科保健医療協力を概説できる。 ㉟ 世界の歯科疾患の状況と口腔保健従事者を説明できる。
第17回	③④⑤	
第18回	⑥⑦	
第19回	⑧⑨	
第20回	⑩⑪	
第21回	⑫⑬⑭	
第22回	⑮⑯⑰	
第23回	⑱⑲⑳	
第24回	㉑㉒㉓	
第25回	㉔㉕	
第26回	㉖㉗	
第27回	㉘㉙	
第28回	㉚㉛	
第29回	㉜㉝	
第30回	㉞㉟	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	衛生行政・社会福祉		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	30時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	渡邊英明	企業等との連携		該当
	高崎校	設樂昌博	実務経験のある教員科目		
一般目標	保健・医療・介護・福祉制度と医事法制の法律やその目的を理解し、歯科衛生士の活躍を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。				
使用教材	「公衆衛生がみえる」・「保健・医療・福祉の制度」・「歯科衛生士総論」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

健康、医療、子ども、子育て、福祉、介護、雇用、労働、年金などの行政の仕組みや背景となる法律を勉強する。

- ①憲法[最高法規]・・・憲法 25 条は私たちの健康的な生活を保障するもの
 ②法律[国会で作る]・・・歯科衛生士法は業務を定める大切な法律。衛生行政・社会福祉の関連法規は多数ある。
 ③政令[内閣が出す法令・施行令]④省令 [各省大臣が出す法令・施行規則]⑤条例[地方公共団体の出す法令]。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	① 歯科衛生士法の成立と経過・目的・定義を説明できる。 ② 歯科衛生士の身分・試験・免許について説明できる。 ③ 歯科衛生士の業務とその法的根拠を説明できる。 【業務独占】予防処置・診療補助 【名称独占】：歯科保健指導 ④ 歯科衛生士法による義務・責務を説明できる。 ⑤ 医療制度・医療従事者に関わる法律について概説できる。 ⑥ 歯科医師法・歯科技工士法による義務・責務を説明できる。 ⑦ 歯科医師の指示で歯科診療補助を行う職種を列举できる。 ⑧ 保健師助産師看護師法の概要と診療の補助を概説できる。 ⑨ 診療放射線技師法・臨床検査技師法の概要と業務を概説できる。 ⑩ 言語聴覚士法の概要と言語聴覚士の業務を概説できる。 ⑪ 薬剤師法の概要と業務を概説できる。 ⑫ 医薬品医療機器法に関する薬事衛生を概説できる。 ⑬ 医療法・遵守事項・医療体制・医療計画を説明できる。 ⑭ 地域医療のチームワーク・病診連携について概説できる。 ⑮ 地域包括ケアシステムの定義・「植木鉢の図」について説明できる。 ⑯ 医療施設数・医療従事者数の推移を説明できる。 ⑰ チーム医療に携わるスタッフについて概説できる ⑱ 憲法第 25 条で示す社会保障制度について説明できる。 ⑲ 社会福祉とは何か、6 つの領域について説明できる。 ⑳ 社会保障制度・医療保険の仕組みについて説明できる。 ㉑ 国民医療費の推移・国民の受療状況について概説できる。 ㉒ 地域保健法に定める保健所等と業務について説明できる。 ㉓ 健康増進法に定める保健行政について概要を説明できる。 ㉔ 母子保健法に関する衛生行政について概説できる。 ㉕ 児童福祉・児童虐待防止に関する衛生行政を概説できる。 ㉖ 老人福祉・高齢者医療に関する衛生行政を概説できる。 ㉗ 介護保健法・介護保険制度の仕組みを概説できる。 ㉘ 障害者福祉・障害者総合支援法の概要を説明できる。 ㉙ 精神保健福祉法に関する衛生行政について概説できる。 ㉚ 歯科口腔保健に関する衛生行政を概説できる ㉛ 学校保健行政に関する概要を説明できる ㉜ 労働基準法・労働安全衛生法について概説できる。 ㉝ 医事、薬事、地域保健に関係する衛生法規を概説できる。
第3回～第4回	③④	
第5回～第6回	⑤⑥	
第7回～第8回	⑦⑧	
第9回～第10回	⑨⑩	
第11回～第12回	⑪⑫⑬⑭	
第13回～第14回	⑮⑯	
第15回～第16回	⑰⑱	
第17回～第18回	⑲⑳	
第19回～第20回	㉑㉒	
第21回～第22回	㉓㉔	
第23回～第24回	㉕㉖	
第25回～第26回	㉗㉘	
第27回～第28回	㉙㉚	
第29回～第30回	㉛㉜㉝	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	保存修復学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	30時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	濱野英也	企業等との連携		
	高崎校	笠野 素一郎	実務経験のある教員科目		該当
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法、治療法、保存治療の補助のために必要な治療手順、薬剤、器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 「歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

抜かないで歯を残すことを「歯を保存する」という。

歯科保存治療には①保存修復②歯内療法③歯周治療の3分野がある。

歯科保存治療の分野で、ムシ歯で歯が溶けて穴ができたムシバを取り除き、そのムシ歯の穴を補修してう蝕の進行を阻止して噛むことを困らないように歯を保存する治療分野を保存修復という。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	① 保存修復学について概説できる。
第3回～第4回	③④	② ミニマル・インターベンション・デンティストリー(MID)を説明できる。
第5回～第6回	⑤⑥	③ 歯の硬組織疾患の種類・成因・予防法・処置法を説明できる。
第7回～第8回	⑦⑧	④ 歯の硬組織疾患(う蝕)の概要・診断について説明できる。
第9回～第10回	⑧⑨⑩	⑤ 歯・歯髄に必要な器具・検査の意義を説明できる。
第11回～第12回	⑪⑫⑬⑭	⑥ う蝕治療の流れ、前準備の概要を説明できる。
第13回～第14回	⑮⑯	⑦ 歯の切削器械・器具の種類と特徴を説明できる。
第15回～第16回	⑰⑱⑲	⑧ 窩洞形成に必要な切削用器械、器具の準備ができる。
第17回～第18回	⑳㉑㉒㉓	⑨ 歯肉排除法に用いる器材の操作ができる。
第19回～第20回	㉔㉕	⑩ 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。
第21回～第22回	㉖	⑪ ラバーダム防湿ができる。
第23回～第24回	㉗㉘	⑫ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる。
第25回～第26回	㉙㉚	⑬ 隔壁法に用いる器具の操作ができる。
第27回～第28回	㉛㉜	⑭ 歯髄を保護する方法について概説できる。
第29回～第30回	まとめ	⑮ 直接覆髄、間接覆髄について説明できる。
		⑯ 暫間的間接覆髄(IPC法)について説明できる。
		⑰ 裏層法について説明できる。
		⑱ 仮封について説明できる。
		⑲ 窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。
		⑳ 修復法の種類(直接修復・間接修復)の特徴を説明できる。
		㉑ 象牙質知覚過敏症の原因、処置法を説明できる。
		㉒ 修復処置後の不快事項・メンテナンス・補修修復を説明できる。
		㉓ 歯の硬組織疾患のメンテナンスと予防法を概説できる。
		㉔ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。
		㉕ グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる。
		㉖ 直接修復であるコンポジットレジン修復の手順を説明できる。
		㉗ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。
		㉘ 歯面処理材料の準備ができる。
		㉙ 間接修復としてのインレー修復の手順を説明できる。
		㉚ インレー修復の準備ができる。
		㉛ 合着後の余剰セメントの除去ができる。
		㉜ 歯の変色の原因と処置法(歯の漂白)を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯内療法学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	30時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	白石友子	企業等との連携		
	高崎校	清水英之	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	歯科衛生業務に必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法、治療法、保存治療の補助のために必要な治療手順、薬剤、器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 「歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

抜かないで歯を残すことを「歯を保存する」という。

歯科保存治療には①保存修復②歯内療法③歯周治療の3分野がある。

歯科保存治療の分野で、ムシ歯などにより歯の病気が歯の神経(歯髄)まで進んだ場合に「歯髄を痛みの出ないように処置して歯を残す方法が歯内療法」である。

歯医者さんでむし歯が大きいので「歯の神経を取りますね」、歯の根の先が化膿してますので「根の治療をしていきますね」といって治療をする分野である。

歯の神経を取った後の空洞には、防腐的な薬を詰めて再び化膿したりすることのないように処置をする。

歯の中身の細かな部分なので、病名の違いについて意味の理解が難しかったり、とっても細い根管をきれいに仕上げる細かな器具がたくさん出てきたり、勉強の苦勞も多いと思うが、臨床で頻繁に出会う治療分野なのでじっくり理解して学んでほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	① 歯内療法学の意義と目的について概説できる。
第3回～第4回	②③	② 歯の硬組織疾患の概要について説明できる。
第5回～第6回	④⑤⑥	③ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の成因・分類・症状・検査法を説明できる。
第7回～第8回	⑦	④ 歯髄電気診断器の準備・歯髄疾患の検査法を説明できる。
第9回～第10回	⑧⑨	⑤ 歯髄処置の薬剤や機材の準備ができる。
第11回～第12回	⑩	⑥ 歯髄の保存療法(覆髄法)を説明できる。
第13回～第14回	⑪	⑦ 歯髄の除去療法を説明できる。
第15回～第16回	⑫	⑧ 根管長測定器の準備ができる。
第17回～第18回	⑬	⑨ 根尖性歯周組織疾患(感染根管)を説明できる。
第19回～第20回	⑭	⑩ 根尖性歯周組織疾患の検査法を説明できる。
第21回～第22回	⑮⑯	⑪ 根管治療に用いる器材の使用法について説明できる。
第23回～第24回	⑰	⑫ 根管充填法を説明できる。
第25回～第26回	⑱⑲	⑬ 根未完成歯の処置法を説明できる。
第27回～第28回	⑳㉑	⑭ 外科的歯内療法の種類・適応症及び処置法を説明できる。
第29回～第30回	まとめ	⑮ 外科的歯内療法の器材の準備ができる。 ⑯ 外傷歯の治療法を説明できる。 ⑰ 歯内療法における偶発的事故とその防止策を説明できる。 ⑱ 根管処置の薬剤や器材の準備ができる。 ⑲ 歯の漂白法の器材・薬剤の準備ができる。 ⑳ 歯の漂白法の種類・適応症・手順・術後指導を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯周治療学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	15時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	竹内康雄	企業等との連携		
	高崎校	高井貞浩	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	歯科衛生業務に必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法及び治療法、歯周治療の補助に必要な検査や治療手順及び器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「歯周病学」 「歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

抜かないで歯を残すことを「歯の保存」という。

歯科保存治療は①保存修復②歯内療法③歯周病治療の3分野がある。

①むし歯で欠けた歯を修復して歯を残す治療分野

②歯の神経が病気になったときに歯髓の処置をして歯を残す治療分野

③歯を支える周囲が病気になったときに歯周組織の処置をして歯を残す治療分野がある。

歯を抜けないよう支える歯肉や骨が溶けて歯がグラグラするのが歯周病。

歯科保存治療の分野で、歯が抜けないように歯の周りの炎症をコントロールするのが歯周治療である。

歯を抜きたくないのは誰もが願うこと。歯を抜けないようにするためには歯周病発症の理解がとても重要である。

歯周病の状況に合わせた歯周組織回復のための治療法が多数あり、各種手術器具の使用目的の理解も深めたい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	① 歯周外科治療の薬剤や器具の準備ができる。
第2回	②	② 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。
第3回	③	③ フラップ手術について概説できる。
第4回	④	④ 根分岐部病変の診察と治療法を説明できる。
第5回	⑤	⑤ 歯・歯肉・口腔の検査ができる。
第6回	⑥	⑥ 対象者の情報をもとに歯周病治療計画が説明できる。
第7回	⑦	⑦ SPT(歯周病安定期治療)の目的を説明できる。
第8回	⑧	⑧ 歯周治療後のメンテナンスの目的を説明できる。
第9回	⑨	⑨ 歯・歯周組織検査におけるプローブの種類と操作方法を説明できる。
第10回	⑩	⑩ 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。
第11回	⑪	⑪ 歯周病と全身疾患との関連を説明できる。
第12回	⑬⑭⑯	⑫ 歯周病と生活習慣の関連を説明できる。
第13回	⑪⑫⑬	⑬ スケーリング・ルートプレーニング(SRP)を説明できる。
第14回	⑮⑯⑰	⑭ 歯周外科手術の手順・介助の概要を説明できる。
第15回	まとめ	⑮ 歯周用パットの取り扱いができる。
		⑯ 歯周治療における補綴・歯科インプラント治療について概説できる。
		⑰ 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。
		⑱ SPT(歯周病安定期治療)の処置内容・実施時の注意点を説明できる。
		⑳ 歯周病に関連する指標を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科補綴学Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	15時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	仁木孝行	企業等との連携		
	高崎校	金井孝之	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	歯科衛生業務に必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」 「歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

身体の欠損した部位の形態と機能を人工物で補うことを補綴(はてつ)という。
 歯科補綴は、歯が欠けたり抜けたりした場合に入れ歯・かぶせの歯などの人工物で補うこと。
 見た目のかたちを補うだけでなく、食べる機能も回復する。
 たとえ歯を失っても綺麗な歯であったらいいなど誰でも思うもの。
 失った歯を回復する方法や材料はかなりたくさん種類がある。
 歯の被せものひとつとっても、材料や製作方法の違いでたくさんの種類がある。
 各種の補綴物の構造や製作方法は複雑でなかなか理解が難しいと思うが、教科書の写真や歯医者さんのホームページなどで、細かな違いなどを調べたり、先生に聞いたり、ひとつひとつ理解を深めていってほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	① 補綴歯科治療の目的を概説できる。
第2回	②	② 現在歯や欠損部位の歯列・咬合の位置、下顎運動とその機能及び加齢による変化を説明できる。
第3回	③	③ 補綴装置の種類と適応を説明できる。
第4回	④	・クラウン治療の概説できる。
第5回	⑤	・ブリッジ治療の概説できる。
第6回	⑥	・可撤式補綴装置・全部床義歯治療の概説できる。
第7回	⑦	・可撤式補綴装置・部分床義歯治療の概説できる。
第8回	⑧	・インプラント治療の概説できる。
第9回	⑧	・顎顔面補綴・鼻咽腔補綴・舌接触補助床補綴治療の概説できる。
第10回	⑨	・プロビジョナルレストレーション(テンポラリークラウン)の概説できる。
第11回	⑩	④ 歯科補綴治療における歯科衛生士の役割を概説できる。
第12回	⑩	⑤ 補綴歯科治療における咬合と歯列に関わる基本的な用語を概説できる。
第13回	⑩	・歯及び歯列の形態と位置関係・咬合・咬合様式・顎運動について概説できる。
第14回	⑩	⑥ 補綴歯科治療で重要な基準平面を説明できる。
第15回	まとめ	⑦ 口腔機能の特徴を説明できる。 ・咀嚼・嚥下・構音・発語・口腔感覚・唾液・嘔吐・歯ぎしりについて概説できる。
		⑧ 顎関節の構造と機能、顎関節症の特徴を説明できる。
		⑨ 口腔内の検査、画像検査の種類と特徴を説明できる。
		⑩ 咬合と顎機能検査の種類と特徴を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	口腔外科学 I		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次	太田校 2年次
授業時数	15 時間			高崎校 2年次
授業方法	講義		単位数	1 単位
担当教員	太田校	大木晴伸	企業等との連携	
	高崎校	井田順子	実務経験のある教員科目	該当
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法、治療法及び口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤、器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材	大木先生：歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」・授業配布プリント 井田先生：歯科衛生士テキスト「口腔外科学」・「書き込み式学習ノート」			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

外科とは「手で仕事をする」が語源。

ふつう外科というと手術をすること。

口の中・アゴ・顔面の病気をおもに手術によって治療するのが口腔外科である。

顎・口腔領域は構造が複雑で多彩な症状が現れるところなので取り扱う病気も治療法も多岐にわたる。

抜歯手術をはじめ、生まれつきの奇形、交通事故やケガ、がんの治療、粘膜にできる病気、アゴの関節の病気などの幅広い病気を取り扱う。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	① 顎・口腔領域に生じる各種疾患を分類できる。
第2回	②	② 先天異常(口唇・口蓋裂など)と発育異常(顎変形症など)の症状と治療法を概説できる。
第3回	③	③ 歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折、軟組織損傷の症状と治療法を概説できる。
第4回	④	④ 各種口腔粘膜疾患の種類と症状、治療法を概説できる。
第5回	④	⑤ 歯槽部、顎骨及び周囲組織の炎症(菌性感染)の原因、感染経路と症状及び治療法を概説できる。
第6回	⑤	⑥ 顎骨・口腔軟組織に発生する嚢胞の種類・症状・治療法を概説できる。
第7回	⑥	⑦ 顎・口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状及び治療法を概説できる。
第8回	⑦	⑧ 顎関節疾患(脱臼、顎関節症、顎関節強直症など)の症状と治療法を概説できる。
第9回	⑧	⑨ 唾液腺疾患(唾液腺炎、流行性耳下腺炎、唾石症、唾液腺腫瘍)の症状と治療法を概説できる。
第10回	⑨	⑩ 顎・口腔領域の神経疾患(三叉神経痛、三叉神経麻痺、顔面神経麻痺、舌痛症、オーラルディスキネジアなど)の症状を概説できる。
第11回	⑩	⑪ 口腔に症状を現す血液疾患(貧血、白血病、血友病、特発性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固亢進症候群[DIC]など)の特徴を概説できる。
第12回	⑪	⑫ 抜歯・口腔外科小手術(消炎手術、止血処置、歯槽骨整形術、根尖切除術、嚢胞摘出術・嚢胞开窗術、骨折手術、口腔インプラント手術)の手順を説明できる。
第13回	⑫⑬	⑬ 抜歯の適応と禁忌を概説できる。
第14回	⑬⑭	⑭ 抜歯・口腔外科小手術の術中・術後の局所的偶発症及び術後の注意を説明できる。
第15回	まとめ	⑮ 顎口腔領域の周術期(放射線治療、化学療法を含む)の口腔健康管理を説明できる。 ⑯ がん手術・心臓・循環器手術や臓器移植等の手術の前後の口腔健康管理による手術時のトラブル防止、誤嚥性肺炎や局所感染の予防方法を説明できる。 ⑰ 清潔と不潔について概説できる。 ⑱ 口腔外科診療において留意すべき全身疾患を概説できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	小児歯科学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	30時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	小山敦	企業等との連携		
	高崎校	相馬美恵・柳澤友子	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療に関する知識、小児歯科治療の補助のために必要な患者対応及び治療手順、薬剤及び器材の使用法を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生士講座「小児歯科学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。				

子どもの治療は大人とは異なる。それは成長という変化が伴うこと。

新しく歯が生えてくる。

背が伸びれば、アゴの骨も成長する。

上下の歯が伸びてきて噛み合わせができる。

大人になるまで顎や口の大きさが変化し続ける。

生まれてから中学生くらいまで成長に合わせた歯科治療をおこなうのが小児歯科である。

子どもの身体の成長・口腔機能の発達・歯が骨の中でできて生えてくる生え代わっていく関係がなかなか複雑で覚えてもつながりにくいが、写真や動画などで子どもの成長発達を調べながらじっくり身につけてほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	① 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。
第3回～第4回	②③	② 小児の身体発育と精神発達を説明できる。
第5回～第6回	④	③ 各年齢における小児の身体発達と精神発達の障害を説明できる。
第7回～第8回	⑤⑥	④ 乳歯と幼若永久歯の解剖学的特徴を説明できる。
第9回～第10回	⑦	⑤ 歯列及び咬合の発育と口腔機能の発達を説明できる。
第11回～第12回	⑧	⑥ 小児の行動の特徴や情動の変化と歯科的対応について説明できる。
第13回～第14回	⑨	⑦ 乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴について説明できる。
第15回～第16回	⑩⑪	⑧ 小児の歯周病について説明できる。
第17回～第18回	⑫	⑨ 小児の口腔外科的疾患と処置法を説明できる。
第19回～第20回	⑬	⑩ 診察・治療に必要な器材を準備できる。
第21回～第22回	⑭	⑪ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法を説明できる。
第23回～第24回	⑮	⑫ 乳歯と幼若永久歯の歯内療法を説明できる。
第25回～第26回	⑯	⑬ 小児の歯の外傷の種類と処置法を説明できる。
第27回～第28回	⑰⑱	⑭ 咬合誘導の概念、保険装置の種類、適応症、留意点を説明できる。
第29回～第30回	まとめ	⑮ う蝕予防及び進行抑制法を説明できる。
		⑯ 小児の先天性疾患を説明できる。
		⑰ 小児歯科治療に必要な器材・薬剤の準備ができる。
		⑱ ラバーダム防湿ができる。
		⑲ 構音機能検査の意義を説明できる。
		⑳ 口腔機能発達不全症の評価法と対応について説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科矯正学 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2 年次
授業時数	15 時間			高崎校	2 年次
授業方法	講義		単位数	1 単位	
担当教員	太田校	青山欣也	企業等との連携		
	高崎校	北山義隆	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状、治療法、矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤及び器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が 70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

歯並びが良くないといってもいろいろある。

- 出っ歯(上顎前突)・・・上の前歯が強く前に傾むいていたり、上の歯並び全体が前に出て噛んでいたりする。
- 受け口(下顎前突)・・・下の歯が上の歯より前に出ている噛み合わせ。
- 八重歯・・・上の糸切り歯が歯ならびから外側に飛び出している。
- 乱杭歯(叢生)・・・「らんぐいば」ともいわれる。歯ならびがデコボコになっている。
- 開咬・・・噛んでも、前歯が噛み合わないで開いている。
- 手術が必要な顎の変形症・・・食べ物が噛み切れない、噛み合わせが反対、下アゴが出て、曲がっている など「正しくない状態に対して、力を加えて正しい状態にすること」を矯正(きょうせい)という。

歯の大きさとあごの骨の大きさとのバランスが合わないことをディスクレパンシー(不調和)という。

生じている不調和をその人の歯のサイズとアゴの大きさに合わせて、うまく噛み合うようにするにはどうしたらよいかを診断して、きれいな歯並びにするとともに、食べる・話すなどの口腔機能を改善するのが歯科矯正治療の分野である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回	はじめに	① 顔面及び歯・歯列の成長発育とその評価法を説明できる。 ② 成長発育に伴う正常咬合(乳歯列から永久歯列)を説明できる。 ③ 正常咬合の成立条件と種類を説明できる ④ 不正咬合の種類を説明し、その原因を列挙できる。 ⑤ 不正咬合による障害を説明できる。 ⑥ 矯正歯科治療の検査と治療の流れを説明できる。 ⑦ 矯正検査記録における口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。 ⑧ 歯科矯正学的診断の概要が説明できる。 ⑨ 頭部エックス線規格写真を説明できる。 ⑩ 矯正力と歯の移動様式及び固定、保定について説明できる。 ⑪ 矯正歯科用器材の種類を説明できる。 ⑫ 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。 ⑬ 矯正装置の種類と使用目的を説明できる。 ⑭ 矯正治療前、治療中及び保定期間における口腔衛生管理法を説明できる。
第 2 回	①	
第 3 回	②③	
第 4 回	④	
第 5 回	⑤	
第 6 回	⑥	
第 7 回	⑦	
第 8 回	⑧	
第 9 回	⑨	
第 10 回	⑩	
第 11 回	⑪	
第 12 回	⑫	
第 13 回	⑬	
第 14 回	⑭	
第 15 回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科予防処置論Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	75時間			高崎校	2年次
授業方法	講義・実習		単位数	3単位	
担当教員	太田校	米岡葉月	企業等との連携		
	高崎校	竹越由佳	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術及び態度を習得する。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

歯や口の病気を予防することは歯科衛生士としてやりがいが見えやすい仕事である。
 歯科の2大疾患である歯周病・う蝕をどうやって予防するのか？予防するための方法と技術を学ぶ。
 歯根は複雑な曲線で構成されており、歯石を取るといっても各種器具と、それを使いこなす技術が必要である。
 歯の場所や歯面によって使用する器具も異なり、患者さんのポジションも変わってくる。
 授業以外の時間にも実習用模型で繰り返し練習して、歯面に応じた使用器具と患者ポジションに習熟してほしい。
 デンタルカリエスのコントロールも歯科衛生士の腕で左右される。
 個人の口腔状況に応じたう蝕管理プログラムが構築できるように一連の歯科衛生過程もマスターしてほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標(*は実習予定項目)
第1回～第2回	はじめに	1. 総論
第3回～第4回	1.1)①	1) 概要
第5回～第6回	1.1)②	② 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。②
第7回～第8回	1.2)①	③ 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。②
第9回～第10回	1.3)③	2) 対象者の把握
第11回～第14回	1,3)④	① 歯科予防処置を実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる。②
第15回～第16回	1.4)①	3) 歯・口腔の健康状態の把握
第17回～第18回	1.4)②	③ デンタルプラークの形成過程と成分を説明できる。②
第19回～第26回	2.2)②	⑤ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる。②
第27回～第32回	2.2)③	4) プラークコントロール
第33回～第36回	2.3)③	① 歯周病予防とプラークコントロールの関係について説明できる。②
第37回～第38回	2.3)③	② う蝕予防とプラークコントロールの関係について説明できる。②
第39回～第40回	2.3)③	2. 歯周病予防処置
第41回～第42回	2.3)③	2) 歯周病リスクの情報収集と評価・計画
第43回～第46回	2.3)④	② プローブの種類と操作方法を説明できる。②
第47回～第48回	2.3)④	③ 歯周病に関連する指標を説明できる。②
第49回～第50回	2.4)①	3) スケーリング・ルートプレーニング
第51回～第52回	2.4)②	*③ キュレットタイプスケーラーを操作できる。②
第53回～第54回	2.4)③	*④ 超音波スケーラーを操作できる。②
第55回～第56回	2.4)④	4) 歯面清掃・歯面研磨
第57回～第58回	2.4)④	① 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる。②
第59回～第60回	2.4)⑤	② 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる。②
第61回～第62回	2.4)⑤	③ 歯面研磨剤の種類と用途を説明できる。②
第63回～第64回	2.6)①	*④ 歯面清掃ができる。②
第65回～第66回	3.2)①	*⑤ 歯面研磨ができる。②
第67回～第68回	3.3)①	6) メンテナンス
第69回～第70回	3.3)②	① 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。②
第71回～第72回	3.3)③	3. う蝕予防処置
第73回～第74回	3.3)④	3) フッ化物応用によるう蝕予防
第75回	まとめ	(1) フッ化物歯面塗布法 ① 使用薬剤の種類と濃度、及びその取扱い方を説明できる。② ② フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる。②

	<p>③ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる。②</p> <p>(2)フッ化物洗口法</p> <p>② 対象年齢と洗口方法を説明できる。②</p> <p>③ フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる。②</p> <p>(3)フッ化物配合歯磨剤</p> <p>① 配合フッ化物の種類と特徴を説明できる。②</p> <p>② 年齢に応じた使用量を説明できる。②</p> <p>③ フッ化物配合歯磨剤の使用法を説明できる。②</p> <p>(4)ライフステージに応じたフッ化物応用</p> <p>① ライフステージとリスクに応じたフッ化物応用の方法を説明できる。②</p>
--	---

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科保健指導論Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	45時間			高崎校	2年次
授業方法	講義・実習		単位数	2単位	
担当教員	太田校	戸田恵理	企業等との連携		該当
	高崎校	渡木里佳	実務経験のある教員科目		
一般目標	<p>健康と病気 の概念を理解し、望ましい歯科保健行動に導き、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために必要なプロフェッショナルケア(専門家の行う世話)・セルフケア(自分でする世話)・コミュニティケア(地域で行う世話)の基本となる知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>1. 総論: 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、対象者(個人、集団)の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を学ぶ。</p> <p>2. 情報収集: 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者(個人、集団)の情報について収集方法を習得する。</p> <p>3. 口腔衛生管理: 口腔衛生管理を行うために対象者の問題点を把握し必要な知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>4. 生活習慣指導: 生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために対象者の問題点を把握し、専門的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>5. 食生活指導: ライスステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、対象者の問題点を把握し専門的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>6. 健康教育活動: 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術及び態度を習得する。</p>				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

保健とは健康を守ること、あるいは健康を育てていくことである。

保健指導では生涯通して、歯や口の健康を守っていくにはどう導くか？

健康志向にしていくにはどんなサポートができるのか？

保健行動について行動変容の知識と方法について学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標(*は実習予定項目)
第1回～第2回	はじめに	1. 総論
第3回～第4回	1.2)①	1)概要
第5回～第6回	1.2)②	2)基礎知識
第7回～第8回	1.2)③	① 行動科学の理論やモデルと行動変容を説明できる。 ②
第9回～第10回	1.3)①	② 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用のポイントを説明できる。 ②
第11回～第12回	2.1)①	③ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明できる。 ②
第13回～第14回	2.1)②	3)歯科衛生過程
第15回～第16回	2.2)①	*① 歯科衛生の基礎となる適切なコミュニケーションをとることができる。 ②
第17回～第18回	2.2)②	②
第19回～第20回	2.2)③	2. 情報収集
第21回～第22回	3.2)①	1)医療面接
第23回～第24回	3.2)②	① 医療面接の概要を説明できる。 ②
第25回～第26回	3.2)③	*② 歯科衛生実践への動機づけ面接を説明できる。 ②
第27回～第28回	3.5)⑤	2)全身の健康状態の把握
第29回～第30回	4.1)①	① 全身的な健康状態を把握するための項目を説明できる。 ③
第31回～第32回	4.1)②	*② 病歴の聴取ができる。 ③
第33回～第34回	4.2)①	③ 歯科衛生実践に必要な臨床検査項目を列挙できる。 ③
第35回～第36回	4.2)②	2)生活環境と生活背景の把握
第37回～第38回	4.3)	3)歯・口腔状態の把握
第39回～第40回	6.2)	

第 41 回～第 42 回	6.2)	3. 口腔衛生管理
第 43 回～第 44 回	6.2)	1) 基礎知識
第 45 回	まとめ	2) 指導の要点
		*① 口腔衛生状態の背景を説明できる。②
		*② 口腔衛生状態の問題点を説明できる。②
		*③ 口腔衛生改善のための介入計画が立案できる。②
		3) リスクに応じた指導法
		*⑤ 口臭に関する指導ができる。②
		4) 対象別の指導法
		4. 生活習慣指導
		1) 基礎知識
		① 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。②
		② 非感染性疾患(NCDs)の種類と特徴及び口腔との関連を説明できる。②
		2) 指導の要点
		*① 生活習慣状態の背景が説明できる。②
		*② 生活習慣状態の問題点を説明できる。②
		3) 対象別の指導法
		*① 非感染性疾患(NCDs)の症例に合わせた歯科保健指導ができる。②
		5. 食生活指導
		1) 基礎知識
		2) 指導の要点
		3) 対象別の食生活指導
		6. 健康教育活動
		1) 基礎知識
		2) 対象別健康教育
		③ 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。②
		④ 地域歯科保健事業における健康教育ができる。②
		⑤ 保育所、幼稚園(乳幼児)、認定こども園の口腔保健の実態が把握できる。②
		*⑥ 保育所、幼稚園(乳幼児)、認定こども園を対象とした健康教育ができる。②
		*⑦ 保育所、幼稚園、認定こども園の保育士、教員及び保護者を対象とした健康教育ができる。②
		⑧ 小学校、中学校、高校(児童・生徒)の口腔保健の実態が把握できる。②
		*⑨ 小学校、中学校、高校(児童・生徒)を対象とした健康教育ができる。②
		*⑩ 小学校、中学校、高校の教員及び保護者を対象とした健康教育ができる。②

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	栄養指導学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	15時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	井野文枝	企業等との連携		
	高崎校	小保方恵	実務経験のある教員科目		該当
一般目標	人間が生命を維持するために重要な栄養、食生活、栄養指導に関する基本的知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「代謝と栄養」・「歯科予防処置論・歯科保健指導論」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

ヒトのからだの血や肉を作り、からだを動かすエネルギーのもととなる栄養について学ぶ。

食物から得られる水と栄養は、人間にとって不可欠である。

栄養不足・栄養の取過ぎ・偏った食事は、健康を損ね、病気の原因にもつながる。

肥満や生活習慣病を予防するには食事に気を配ることが大切である。

栄養指導は、歯科衛生士による口腔を健康に導く歯科保健指導の中で欠くことのできない分野である。

栄養指導学では食事摂取・消化や吸収のしくみ・食品に含まれる栄養素について学び、健康な身体をつくるための栄養のとり方や食生活改善の取り組み、歯や口の健康づくりを食事面からサポートする方法を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	① 食生活と健康との関連を概説できる。
第3回～第4回	③④	② 食生活と口腔の健康との関連を説明できる。
第5回～第6回	⑤	③ 国民健康・栄養調査を概説できる。
第7回～第8回	⑥	④ 食育と食育基本法を概説できる。
第9回～第10回	⑦	⑤ 栄養・食生活についてわが国の施策を概説できる。
第11回～第12回	⑩	⑥ 食生活指針及び食事バランスガイドを説明できる。
第13回～第14回	⑩	⑦ ライフステージ別の食生活の特徴を説明できる。
第15回～第16回	⑩	⑧ 栄養指導法における食生活・食習慣の背景を説明できる。
第17回～第18回	⑧⑨	⑨ 健康を維持するための栄養情報を説明できる。
第19回～第20回	⑩⑪⑫	⑩ 低栄養と健康との関連を概説できる。
第21回～第22回	⑬⑭	⑪ 食品とう蝕の関連性を説明できる。
第23回～第24回	⑮⑯⑰⑱	⑫ 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。
第25回～第26回	⑲⑳㉑	⑬ う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。
第27回～第28回	㉒㉓	⑭ 咀嚼の働きを説明できる。
第29回～第30回	まとめ	⑮ 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連を説明できる。
		⑯ 栄養状態を把握し問題点を評価できる。
		⑰ 食支援のための介入計画が立案できる。
		⑱ 食支援に必要な歯科衛生介入ができる。
		⑲ 食生活改善の取組として口腔衛生と口腔機能の関連を説明できる。
		⑳ 食生活指導介入のための書面化(業務記録)ができる。
		㉑ 各ライフステージ別の食生活指導ができる。
		㉒ 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。
		㉓ 障害児者、要介護者の食事介助の指導ができる。
		㉔ 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科診療補助論Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	30時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	堤梢江	企業等との連携		実務経験のある教員科目
	高崎校	中川絵梨佳	該当		
一般目標	<p>さまざまなライフステージ(人の一生における各年齢の段階)における歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>1. 歯科診療補助: 歯科診療補助全般の専門的な基礎的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>2. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理: 基本的性質及び標準的な使用法を習得する。</p> <p>3. 保存/4. 補綴/5. 口腔外科・歯科麻酔/6. 矯正歯科/7. 小児歯科/8. 高齢者歯科/診療時に必要な患者対応、治療手順、薬剤・器材の使用に関する基礎的知識、技術、態度を習得する。</p> <p>9. 障害児者歯科: 治療時に必要な患者対応、摂食嚥下の検査及び訓練法を習得する。</p> <p>10. エックス線写真撮影時の診療補助: 必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。</p> <p>11. 救命救急処置: 必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。</p> <p>12. 口腔機能管理: 口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術及び態度を習得する。</p>				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」・「おしごとハンドブック」・「歯科機器」・「歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック」・「保存科アシストハンドブック」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

歯科診療の補助とは、歯科医師の指示のもとに行う直接に患者への対面で行う医療行為である。歯科診療の際に、歯や口など口腔領域に直接触れる医療行為は歯科衛生士の資格が必要となる行為である。歯科診療の補助は、歯科衛生士の業務独占であり、歯科衛生士法の第二条第二項に定められている。医療技術は進歩を重ね、幅広く難しい治療分野、かなり細かな内容も多いがひとつひとつ学んでほしい。・・・矯正治療器具・補綴治療機器・外科手術器具など写真や図説で違いを確認して知識を充実を図りたい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標(*は実習予定項目)
第1回	はじめに	1. 歯科診療補助
第2回	3.1)①	2. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理
第3回	3.1)②	3. 保存治療時の診療補助
第4回	3.1)③	1) 前準備
第5回	3.1)④	① 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。②
第6回	3.1)⑤	*② ラバーダム防湿ができる。②
第7回	3.2)	*③ 隔壁法に用いる器具の操作ができる。②
第8回	3.3)①	*④ 歯肉排除法に用いる器材の操作・取扱いができる。②
第9回	3.3)②	*⑤ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる。②
第10回	3.3)③	2) 窩洞形成
第11回	3.3)④	① 切削用器械、器具の取扱いと管理ができる。②
第12回	3.3)⑤	3) 直接修復
第13回	3.3)⑥	① コンポジットレジン修復の手順を説明できる。②
第14回	3.4)①	*② 歯面処理材料の準備ができる。②
第15回	3.4)②	*③ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。②
第16回	3.4)③	④ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。②
第17回	3.4)④	*⑤ グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる。②
第18回	3.5)	*⑥ 直接修復治療後の指導ができる。②
第19回	3.5)	4) 間接修復
第20回	3.6)	① インレー修復の手順を説明できる。②
第21回	3.7)	*② インレー修復の準備ができる。②
第22回	3.7)	*③ 合着後の余剰セメントの除去ができる。②
第23回	3.8)	*④ 間接修復治療後の指導ができる。②
第24回	3.9)	5) 歯の漂白
		① 漂白法の適応症を説明できる。②

第 25 回	4. 3)	② 漂白法の種類を説明できる。②
第 26 回	4. 3)	③ 漂白法の手順を説明できる。②
第 27 回	4. 3)	④ 漂白法の器材・薬剤の準備ができる。②
第 28 回	5. 4)	*⑤ 漂白後の術後指導ができる。②
第 29 回	5. 5)	6) 歯髄処置
第 30 回	まとめ	① 歯髄処置の手順を説明できる。②
		*② 歯髄処置の薬剤や器材の準備ができる。②
		③ 電気歯髄診断器の説明ができる。②
		7) 根管処置
		① 根管処置の薬剤や器材の取扱い説明ができる。②
		② 根管長測定器の取扱い説明ができる。②
		③ 根管充填の薬剤や器材の種類と取扱い説明ができる。②
		*④ 根管治療後の指導ができる。②
		8) 外科的歯内療法
		① 外科的歯内療法の器材の取扱い説明ができる。②
		9) 歯周外科治療
		① 歯周外科治療の手順を説明できる。②
		② 歯周外科治療の薬剤や器具の取扱い説明ができる。②
		*③ 歯周外科治療の補助の概要を説明できる。②
		*④ 歯周用パックの取扱いができる。②
		*⑤ 歯周外科処置後の指導ができる。②
		<u>4. 補綴治療時の診療補助</u>
		1) 検査
		2) 印象採得
		3) 咬合採得(顎間関係の記録)
		① 咬合採得の手順を説明できる。②
		② 咬合採得で用いる器材の準備と取扱いができる。②
		③ 咬合床作製の手順を説明できる。②
		④ 咬合床用材料の性質を説明できる。②
		⑤ ろう義歯試適の器材の説明ができる。②
		4) プロビジョナルレステーション(テンポラリークラウン、ブリッジ)③
		<u>5) 補綴装置の装着</u>
		<u>5. 口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助</u>
		1) 抜歯
		2) 小手術
		3) 止血処置
		4) 縫合
		① 縫合用器材の種類を説明できる。②
		*② 縫合用器材の準備と取扱いができる。②
		5) 麻酔
		*① 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取扱いができる。②
		② 精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取扱いができる。②
		③ 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助ができる。②
		④ 静脈の確保について概説できる。②
		<u>6. 矯正歯科治療の診療補助</u>
		<u>7. 小児歯科治療時の診療補助</u>
		<u>8. 高齢者歯科治療時の診療補助</u>
		<u>9. 障害児者歯科治療時の診療補助</u>
		<u>10. エックス線写真撮影時の診療補助</u>
		<u>11. 救命救急処置</u>
		<u>12. 口腔機能管理</u>

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	障害者歯科学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	2年次
授業時数	30時間			高崎校	2年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	下山和弘	企業等との連携		該当
	高崎校	稲川元明	実務経験のある教員科目		
一般目標	歯科衛生業務に必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療の概要、障害児者歯科治療の補助に必要な患者対応、摂食嚥下の検査及び訓練法に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

日常生活・社会生活に相当な制限を受けるものを障がい児・者という。

障がいに対してコミュニケーション方法・姿勢の保持・診療内容・保健指導・リハビリの訓練など特別な対応や配慮が必要となる。スペシャルニーズケアと呼ばれる。

スペシャルニーズケアにおけるアプローチの方法については、障がいの有無にかかわらず応用できる方法も多い。安心、安全、信頼、丁寧な診療の手助けにつなげられて生かせるように知識の充実を図ってもらえればと思う。

※「害」という漢字が「公害」や「危害」といったマイナスイメージがあることから、市町村や企業によっては自らの判断で「障がい」「障がい」と表記することもある。なお国の定める法律や文書では「障害」という字が使われている。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	① 障害の概念が説明できる。
第3回～第4回	②	② 障害児者の身体的、精神的及び心理的特徴を理解する。
第5回～第6回	③	③ 障害の種類、歯科的特徴について説明できる。
第7回～第8回	④	④ 障害児者の歯科治療と特殊性を説明できる。
第9回～第10回	⑤	⑤ 障害児者の保健・医療・福祉制度を説明できる。
第11回～第12回	⑥	⑥ 障害児者対応と歯科治療に必要な注意点を説明できる。
第13回～第14回	⑦	⑧ 治療前の導入法を説明できる。
第15回～第16回	⑧	⑨ 治療中時の患者コントロール法を説明できる。
第17回～第18回	⑨	⑩ 外来診療と訪問診療の補助を説明できる。
第19回～第20回	⑩	⑪ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。
第21回～第22回	⑪	⑫ 障害児者の口腔機能管理を説明できる。
第23回～第24回	⑫	⑬ 障害児者の摂食嚥下障害を説明できる。
第25回～第26回	⑬	
第27回～第28回	まとめ	
第29回～第30回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	臨床・臨地実習Ⅱ	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	2年次
授業時数	360時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	各実習施設の指導教員	実務経験のある教員科目	該当
一般目標	歯科衛生士の役割を理解するために、病院や診療所などの歯科診療の場、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な実践力を身につける。		
使用教材	臨地・臨床実習ノート 「歯科衛生士・歯科助手おしごとハンドブック」		
成績評価の方法・基準	各実習施設の指導教員の評価をもとに出欠状況・遅刻早退状況・実習態度・実習業務・レポートに関する理解力・実践力について総合的に評価する。 歯科衛生士国家試験受験資格に必修の所定時間に満たない場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	実習は原則として指定された臨床・臨地実習施設にて校外実習とする。 実習にあたっては、施設長、指導教員、歯科医師、歯科衛生士の指示の下に行う。 貴重な実習時間であることを自覚し、責任をもって臨むこと。 実習先は校外であり、髪型・清潔感・服装・ハキハキした挨拶・遅刻しない・健康管理・分からないことは尋ねる・敬語など社会人としてビジネスマナーも求められる。		

授業回数	授業予定	○ 到達目標
全 360 時間共通	校外実習	<p>1) 対人関係</p> <p>① 歯科医師・歯科衛生士・施設長・スタッフからの指導・指示に対応できる。</p> <p>② スタッフ(他職種を含む)と協働し、連携のとれた患者への対応ができる。</p> <p>③ プライバシーに配慮できる。</p> <p>④ 患者・対象者の守秘義務を遵守できる。</p> <p>⑤ 対象者からのニーズに対応できる。</p> <p>⑥ 対象者の状況に応じて配慮できる。</p> <p>2) 診療室・施設等の管理・運営</p> <p>① 診療室のルール・施設等のルールを遵守できる。</p> <p>② 医療安全管理・安全管理に配慮できる。</p> <p>③ 感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策ができる。</p> <p>④ 器材や機器及び薬品を管理できる。</p> <p>⑤ 患者・対象者のデータ管理ができる。</p> <p>3) 歯科衛生実践</p> <p>① 患者・対象者のニーズを判断し対応ができる。</p> <p>② 必要な情報収集・必要なスクリーニング検査・各種検査の把握ができる。</p> <p>③ 歯科衛生過程に基づき歯科衛生計画を立案できる。</p> <p>④ 歯科衛生を実践するにあたって、その必要性を科学的に説明できる。</p> <p>⑤ スタッフ(他の職種を含む)と連携して共同動作と必要な対応ができる。</p> <p>⑥ 医療チーム・保健チームの一員として、歯科衛生実践ができる。</p> <p>⑦ 指導者からの指導・指示内容を理解した歯科衛生実践ができる。</p>

歯科衛生士学科

3年

勉強に実習に2年が過ぎた。
歯科衛生学をたくさん学んできた。
専門学校で学ぶ時間も残すはあと一年。
歯科衛生士国試合格を目指しての集大成。
来年の今ごろ歯科衛生士として1年目スタート。
受験勉強は個人戦であるとともに、団体戦である。
わかることは友に教え、わからないことは共に調べて、
毎日ひとつひとつ解からないを減らし、解かるを増やそう。

勉強とは「解かる」に気づきそれがつながっていくことなのである。

やる気を出す秘訣は、とにかく1問でも問題を解いてみることに。

毎日2・3問とやり続けるうちに知らないうちに終わってる。

忘れてる1年2年の知識が徐々によみがえってくる。

医療は直接、間接の違いはあるが命に係る仕事。

勉強不足で知らなかったでは済まされない。

だから、ひとつでも多く学んでいきたい。

「解からない」ときは、そう思い切って

「ここ教えてほしい」と聞いてみて

「解らない」から「これ解る」に

変化するとうれしくなる。

1問目を始めよう。

科目名	歯科医療倫理学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	15時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	村田隆子	企業等との連携		
	高崎校	村田隆子	実務経験のある教員科目		該当
一般目標	(歯科医療倫理)倫理問題に配慮して医療、歯科医療、研究を行うために、生命と医療に関わる医療倫理の重要性を理解する。 (歯科衛生過程)歯科衛生業務遂行に必要な情報収集・評価、歯科衛生診断、歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

「倫」は「並んでいる仲間」。「理」は「筋道」。「倫理」は「人間なら従いたいすじみち・人間としての在り方」の意味。「倫理」は善し悪しを考えるなら正しく行動しようとした社会的な行動規範。「そうしたい」(例)被災地の復興支援「道徳」は人として生きていくために守るべき個人的な行動基準。「そうすべき」(例)公共の場で咳がでる時のマスク医療倫理とは、患者と向き合う際の医療人としての在り方で、ピーチャムとチルドレスによって提唱されている。「医療倫理」の4原則は、倫理的問題に直面したときに医療従事者がどう解決すべきかの指針となっている。

- ◆「患者自身の意思決定を尊重する」…自律尊重の原則
- ◆「医療の恩恵を受けて無害である」…無危害の原則
- ◆「患者に利益をもたらす人生を充実させる」…善行の原則
- ◆「患者に対して公平で誠実な対応をする」…正義の原則

歯科衛生過程はオーダーメイドな処置を「自分で計画・実施する知識と技術」となるスキルで5つのプロセスがある。

- ① 歯科衛生アセスメント…対象者の情報を収集し分類し、歯科衛生士として介入すべき問題の有無を分析する。
 - ② 歯科衛生診断…問題と原因を明確化して「原因句」に関連した「診断句」で表現してニーズの優先順位を決める。
 - ③ 歯科衛生計画…長期と短期の目標を設定。ケア計画 C-P・指導計画 E-P・観察計画 O-P の介入方法を立案。
 - ④ 歯科衛生介入…歯科衛生計画の実施。
 - ⑤ 歯科衛生評価…プロセスの評価と結果の評価をする。
 - ⑥ 書面化…言語化して記録。①～⑤のそれぞれのプロセスの内容を書き言葉で分かり易く表現する。
- これら問題解決のプロセスにおいて歯科衛生士の視点、専門性が反映していくことの大切さを学んでほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(歯科医療倫理)
第2回	②	① 生命の尊厳、患者の権利を説明できる。
第3回	③	② 保健・医療・福祉及びこれらに関連する研究や情報に関わる倫理的問題を説明できる。
第4回	④	③ 生命倫理・医の倫理に関する規範・歴史経過を概説できる。
第5回	⑤	④ 医の倫理に関する規範を概説できる。
第6回	⑥	⑤ 患者の権利を説明できる。
第7回	⑦	⑥ 終末期医療・延命治療・尊厳死に関わる自己決定権を概説できる。
第8回	⑧⑨	⑦ インフォームド・コンセント、セカンドオピニオン、EBM を説明できる。
第9回	⑩⑪	
第10回	⑫	(歯科衛生過程)
第11回	⑬	⑧ 論理的思考に基づく業務展開の意義を説明できる。
第12回	⑭	⑨ 歯科衛生過程を説明できる。
第13回	⑮	⑩ 歯科衛生アセスメントを説明できる。
第14回	⑯	⑪ 歯科衛生診断を説明できる。
第15回	まとめ	⑫ 歯科衛生計画・立案を説明できる。
		⑬ 歯科衛生介入を説明できる。
		⑭ 歯科衛生過程における評価を説明できる。
		⑮ 歯科衛生過程において書面化(記録)できる。
		⑯ 歯科衛生業務記録の意義を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科矯正学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	15時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	青山欣也	企業等との連携		該当
	高崎校	北山義隆	実務経験のある教員科目		
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状、治療法、矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤及び器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

歯並びが良くないといってもいろいろある。

- 出っ歯(上顎前突)・・・上の前歯が強く前に傾むいていたり、上の歯並び全体が前に出て噛んでいたりする。
- 受け口(下顎前突)・・・下の歯が上の歯より前に出ている噛み合わせ。
- 八重歯・・・上の糸切り歯が歯ならびから外側に飛び出している。
- 乱杭歯(叢生)・・・歯ならびがデコボコになっている。
- 開咬・・・噛んでも、前歯が噛み合わない。
- 手術が必要な顎の変形症・・・食べ物が噛み切れない、噛み合わせが反対、下アゴが出て、曲がっている など正しくない状態に対して、力を加えて正しい状態にすることを矯正(きょうせい)という。

歯の大きさとあごの骨の大きさととのバランスが合わないことをディスクレパンシー(不調和)という。

生じている不調和をその人の歯のサイズとアゴの大きさに合わせて、うまく噛み合うようにするにはどうしたらよいかを診断して、きれいな歯並びにするとともに、食べる・話すなどの口腔機能を改善するのが歯科矯正治療の分野である。

歯科矯正治療ならではの特別な器具、材料、各種の考案された矯正治療装置の形態や目的について細かな違いを確認しながら学んでほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	① 先天性疾患・顎変形症による矯正治療を説明できる。
第2回	②	② 歯の埋伏・歯数の異常による矯正治療を説明できる。
第3回	③	③ 矯正装置装着後の指導ができる。
第4回	③	④ 矯正検査記録における口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。
第5回	④	⑤ 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる。
第6回	④	⑥ 矯正用口腔模型の作製法を説明できる。
第7回	⑤	⑦ 矯正歯科用器材の取り扱いを説明できる。
第8回	⑥	⑧ ワイヤの種類・用途・取り扱いが説明できる。
第9回	⑦	⑨ ブラケットの種類・用途・取り扱いを説明できる。
第10回	⑧	⑩ 接着材の種類・用途・取り扱いを説明できる。
第11回	⑨	⑫ 矯正装置の撤去に必要な器具の種類・取り扱いを説明できる。
第12回	⑩	⑬ 帯環(バンド)の種類・取り扱いを説明できる。
第13回	⑪	⑭ 矯正装置装着時の口腔衛生・歯面清掃ができる。
第14回	⑫	⑮ 口腔筋機能療法(MFT)について説明できる。
第15回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科補綴学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	15時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	大石和彦	企業等との連携		
	高崎校	金井孝行	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	補綴治療における診療補助のために必要な検査や治療手順及び器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」 「歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

身体の欠損した部位の形態と機能を人工物で補うことを補綴という。
 歯科補綴は、歯が欠けたり抜けたりした場合に入れ歯・かぶせの歯などの人工物で補うこと。
 見た目のかたちを補うだけでなく食べる機能も回復する。
 たとえ歯を失っても綺麗な歯であったらいいなど誰でも思うもの。
 失った歯を回復する方法や材料はかなりたくさん種類がある。
 歯の被せものひとつとっても、材料や製作方法の違いでたくさん種類がある。
 大部分を失った咀嚼機能の回復はオーラルリハビリテーションとも呼ばれる。
 先進技術・材料の進歩により、より良く噛めるための各種の補綴装置の形態と目的を学んでほしい。
 各種の補綴物の構造や製作方法は複雑でなかなか理解が難しいと思うが、教科書の写真や歯医者さんのホームページなどで、細かな違いなどを調べたり、先生に聞いたり、ひとつひとつ理解を深めてほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①②	① クラウン・ブリッジ治療の特徴・概要・流れを説明できる。
第2回	③④	② クラウン・ブリッジ治療の器材を準備できる。
第3回	⑤	③ クラウン・ブリッジ治療の患者説明・指導・トラブル対応が説明できる。
第4回	⑥	④ プロビジョナルレストレーション[テンポラリークラウン、ブリッジ]の作製手順・調整方法を説明できる。
第5回	⑦	⑤ 全部床義歯補綴治療の特徴・概要・流れを説明できる。
第6回	⑧⑨	⑥ 全部床義歯補綴治療の器材を準備できる。
第7回	⑩	⑦ 全部床義歯補綴治療の患者説明・指導・トラブル対応が説明できる。
第8回	⑪	⑧ 部分床義歯補綴治療の特徴・概要・流れを説明できる。
第9回	⑫	⑨ 部分床義歯補綴治療の器材を準備できる。
第10回	⑬⑭	⑩ 部分床義歯補綴治療の患者説明・指導・トラブル対応が説明できる。
第11回	⑮⑯	⑪ 義歯の調整・ライニング・リベース・修理を概説できる。
第12回	⑰⑱	⑫ インプラント治療の特徴・概要・流れを説明できる。
第13回	⑳㉑	⑬ インプラント治療の器材を準備できる。
第14回	㉒㉓㉔	⑭ インプラント治療の患者説明・指導・トラブル対応が説明できる。
第15回	まとめ	⑮ 顎顔面補綴治療の特徴を説明できる。 ⑯ 構音・嚥下機能の補綴治療の特徴を概説できる。 ⑰ 顎関節症と歯ぎしりの治療の特徴を概説できる。 ⑱ スポーツ外傷の特徴を概説できる。 ⑳ 睡眠時無呼吸症候群で持続陽圧呼吸療法(CPAP)の口腔内装置を概説できる。 ㉑ CAD/CAMシステムによる治療の流れを概説できる。 ㉒ 器具・器材別の洗浄・消毒・滅菌・保管を実施できる。 ㉓ 補綴治療後におけるリコールとメンテナンスの重要性を説明できる。 ㉔ 技工指示書の記載事項・歯科技工士との連携を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	口腔外科学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	15時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	大木晴伸	企業等との連携		
	高崎校	井田順子	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法、治療法、口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤及び器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	大木先生：歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」・授業配布プリント 井田先生：歯科衛生士テキスト「口腔外科学」・「書き込み式学習ノート」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

外科とは「手で仕事をする」が語源。

ふつう外科というと手術をする分野である。

口の中・アゴ・顔面の病気をおもに手術によって治療するのが口腔外科である。

歯を抜く、抜歯手術をはじめ、生まれつきの奇形・交通事故・がんなどの病気を診る。

歯科口腔外科疾患は多岐にわたり、数百種類の疾患がある。

全身疾患に関連した口腔疾患や症候群も多数あるので、主要な全身症状とともに学びを深めてほしい。

手術に際して痛みを制御するのが麻酔である。麻酔には局所麻酔・全身麻酔があり、鎮静法についても学ぶ。

また、手術や麻酔処置時の合併症や救命処置対応についても学習する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	① 抜歯・口腔外科小手術に際して手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。 ② 抜歯用器材の準備と取り扱い・抜歯後の注意ができる。 ③ 各種小手術に用いる器材の準備と取り扱いができる。 ④ 小手術後の注意を説明できる。 ⑤ 止血法・止血薬の種類の説明、止血薬の取り扱いができる。 ⑥ 縫合用器材の種類を説明と器材の準備と取り扱いができる。 ⑦ 局所麻酔の種類と目的、全身的・局所的偶発症を説明できる。 ⑧ 術前・術中・術後管理におけるバイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度[SpO ₂]、意識レベルを説明できる。 ⑨ 局所麻酔法と施術時の注意点を説明できる。 ⑩ 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取り扱いができる。 ⑪ 精神鎮静法の適応症と種類、精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取り扱いができる。 ⑫ 全身麻酔の適応症・種類・器材・薬剤の準備と補助ができる。 ⑬ 歯科治療時の全身的偶発症(神経性ショック、過換気症候群、アナフィラキシーショック、低血糖発作、高血圧緊急症、脳血管障害、誤飲、誤嚥)とその対応を説明できる。
第2回	②	
第3回	③	
第4回	④⑤	
第5回	⑥⑦⑧	
第6回	⑨⑩	
第7回	⑪	
第8回	⑫	
第9回	⑬	
第10回	⑬	
第11回	⑭	
第12回	⑮	
第13回	⑯	
第14回	⑰	
第15回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科予防処置論Ⅲ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	75時間			高崎校	3年次
授業方法	講義・実習		単位数	3単位	
担当教員	太田校	米岡葉月	企業等との連携		
	高崎校	竹越由佳	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	歯・口の疾患を予防して健康状態を維持・増進させるために必要な専門的理論に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

歯や口の病気を予防することは歯科衛生士としてやりがいが見えやすい仕事のひとつである。

歯科の2大疾患である歯周病・う蝕をどうやって予防するのか？予防するための方法と技術を学ぶ。

提示された症例から何が読み取れるか？どんな対応が必要か？歯科衛生過程を実践できる基礎を深めてほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標(*は実習予定項目)
第1回～第2回	はじめに	1. 総論
第3回～第4回	2.1)②	2. 歯周病予防処置
第5回～第6回	2.3)⑤	1) 歯周病の基礎知識
第7回～第12回	2.3)⑤	② 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。③
第13回～第16回	2.3)⑥	3) スケーリング・ルートプレーニング
第17回～第18回	2.3)⑥	*⑤ エアースケーラーを操作できる。③
第19回～第20回	2.3)⑦	*⑥ 歯周ポケット内のイリゲーション(洗浄)ができる。③
第21回～第22回	2.3)⑦	*⑦ シャープニングができる。③
第23回～第26回	2.5)	4) 歯面清掃・歯面研磨
第25回～第30回	2.5)	5) SPT(歯周病安定期治療)
第31回～第36回	2.6)	① SPTの目的を説明できる。③
第37回～第40回	3.2)①	② SPTの処置内容を説明できる。③
第41回～第48回	3.2)②	③ SPT実施時の注意点を説明できる。③
第49回～第50回	3.3)(1)	6) メンテナンス
第51回～第54回	3.3)(2)	② メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。③
第55回～第56回	3.3)(6)	③ 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。③
第57回～第58回	3.3)(6)	3. う蝕予防処置
第59回～第60回	3.3)(1)	2) う蝕リスクの情報収集と評価・計画
第61回～第66回	3.3)(2)	① う蝕活動性試験を実施できる。③
第67回～第68回	3.6)	② 対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる。③
第69回～第70回	3.6)	3) フッ化物応用によるう蝕予防
第71回～第72回	3.6)	(1) フッ化物歯面塗布法
第73回～第74回	3.7)	*④ フッ化物歯面塗布を実施できる。③
第75回	まとめ	⑤ フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。③
		(2) フッ化物洗口法
		① 使用薬剤の種類、濃度及び取扱い方を説明できる。③
		6) 小窩裂溝填塞法
		① 小窩裂溝填塞材の種類と特徴を説明できる。③
		② 小窩裂溝填塞の適応歯を説明できる。③
		③ 小窩裂溝填塞の術式を説明できる。③
		*④ 小窩裂溝填塞を実施できる。③
		⑤ 小窩裂溝填塞実施上の注意点を説明できる。③
		7) メンテナンス
		① う蝕予防処置におけるメンテナンスの目的を説明できる。③
		② メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。③
		③ う蝕のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。③

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科保健指導論Ⅲ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	75時間			高崎校	3年次
授業方法	講義・実習		単位数	3単位	
担当教員	太田校	戸田恵理	企業等との連携		該当
	高崎校	渡木里佳	実務経験のある教員科目		
一般目標	<p>健康と病気の概念を理解し、望ましい歯科保健行動に導き、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために必要なプロフェッショナルケア(専門家の行う世話)・セルフケア(自分でする世話)・コミュニティケア(地域で行う世話)の基本となる知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>1. 総論: 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、対象者(個人、集団)の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を学ぶ。</p> <p>2. 情報収集: 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者(個人、集団)の情報について収集方法を習得する。</p> <p>3. 口腔衛生管理: 口腔衛生管理を行うために対象者の問題点を把握し必要な知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>4. 生活習慣指導: 生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために対象者の問題点を把握し、専門的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>5. 食生活指導: ライスステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、対象者の問題点を把握し専門的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>6. 健康教育活動: 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術及び態度を習得する。</p>				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」・授業配布プリント 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション[医歯薬出版]				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

保健とは健康を守ること、あるいは健康を育てていくことである。

私たち歯科衛生士が取り扱う口腔は、食べ物をとらえる捕食、咀嚼、唾液分泌、味覚、嚥下、おしゃべりに必要な構音など多様な機能を有している。口腔機能は「食べること」と「人と関わり」の二つの大きな役割を通してコミュニケーションを育み、人々が社会生活を営む上で欠かせない。

保健指導では生涯通して、歯や口の健康を守っていきにはどう導くか？

健康志向にする方法と技術について学ぶ。

また、対象者が抱えてる口腔に関する問題点に対応するにはどんな知識・技術・方法があるのか？

歯科衛生過程のステップを通して問題点を眺めサポートの基礎を深めてほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標(*は実習予定項目)
第1回～第2回	はじめに	1. 総論
第3回～第4回	1. 3)②	1)概要
第5回～第6回	1. 3)③	2)基礎知識
第7回～第8回	1. 3)④	3)歯科衛生過程
第9回～第10回	1. 3)⑤	*② 多面的なアセスメントと歯科衛生ニーズの把握ができる。③
第11回～第12回	1. 3)⑥	*③ 歯科衛生計画の立案と計画に基づいた歯科衛生介入ができる。③
第13回～第14回	2. 2)①	*④ インフォームド・コンセント、インフォームド・アセントができる。③
第15回～第16回	2. 2)②	*⑤ 歯科衛生介入結果の評価ができる。③
第17回～第18回	2. 2)③	*⑥ 歯科衛生過程における歯科衛生業務記録ができる。③
第19回～第20回	2. 2)④	2. 情報収集
第21回～第22回	2. 2)⑤	1)医療面接
第23回～第24回	2. 2)⑥	2)全身の健康状態の把握
第24回～第26回	2. 2)⑦	① 全身的な健康状態を把握するための項目を説明できる。③
第25回～第28回	2. 2)⑧	*② 病歴の聴取ができる。③
第29回～第30回	2. 3)	③ 歯科衛生実践に必要な臨床検査項目を列挙できる。③

第31回～第32回	2.3)	*④ 認知状態・精神状態を把握できる。③
第33回～第34回	2.3)	*⑤ 生活機能・口腔機能を把握できる。③
第35回～第36回	3.3)	⑥ 虐待により生ずる心身の変化を説明できる。③
第37回～第38回	3.3)	*⑦ 服薬の把握ができる。③
第39回～第40回	3.3)	⑧ ストレスの評価ができる。③
第41回～第42回	3.3)	2)生活環境と生活背景の把握
第43回～第44回	3.4)	*① 対象者の生活環境と生活背景を把握できる。③
第45回～第46回	3.4)	*② 対象者の生活習慣を把握できる。③
第47回～第48回	4.1)	*③ 対象者の日常生活動作を把握できる。③
第49回～第50回	4.2)	3)歯・口腔状態の把握
第51回～第52回	4.2)	*① 歯・口腔の疾患及び異常の観察と評価ができる。③
第53回～第54回	4.2)	*② 口腔清掃状態の観察とリスク評価ができる。③
第55回～第56回	4.3)	*③ 口腔機能のスクリーニングテストとリスク評価ができる。③
第57回～第58回	4.3)	④ 虐待の歯科的特徴を説明できる。③
第59回～第60回	4.3)	3. 口腔衛生管理
第61回～第62回	5.2)	1)基礎知識
第63回～第64回	5.2)	2)指導の要点
第65回～第66回	5.2)	*④ 口腔衛生改善のための介入ができる。③
第67回～第68回	5.2)	*⑤ 口腔衛生改善のための評価ができる。③
第69回～第70回	6.2)	*⑥ 口腔衛生管理について書面化(業務記録)できる。③
第71回～第72回	6.2)	3)リスクに応じた指導法
第73回～第74回	6.2)	*⑥ 口腔乾燥に関する指導ができる。③
第75回	まとめ	4)対象別の指導法
		*③ 特別配慮を要する妊産婦・全身疾患患者・周術期患者・障害児者・要介護者・大規模災害被災者に対する口腔衛生指導ができる。③
		4. 生活習慣指導
		1)基礎知識
		③ ストレスマネジメントを説明できる。③
		2)指導の要点
		*③ 生活習慣改善のための介入計画が立案できる。③
		*④ 生活習慣改善のための介入ができる。③
		*⑤ 生活習慣改善のための評価ができる。③
		*⑥ 生活習慣指導について書面化(業務記録)できる。③
		3)対象別の指導法
		*② 対象者の疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる。③
		*③ 配慮を要する対象者の生活習慣指導ができる。③
		5. 食生活指導
		1)基礎知識
		2)指導の要点
		*① 食生活・食習慣の背景を説明できる。③
		*② 栄養状態を把握し問題点を評価できる。③
		*③ 食支援のための介入計画が立案できる。③
		*④ 食支援に必要な歯科衛生介入ができる。③
		*⑤ 食生活改善の取組みとして口腔衛生と口腔機能の関連を説明できる。③
		*⑥ 食生活指導について書面化(業務記録)できる。③
		3)対象別の食生活指導
		6. 健康教育活動
		1)基礎知識
		2)対象別健康教育
		⑪ 事業所(労働者)の口腔保健の実態が把握できる。③
		*⑫ 事業所の従業者・衛生管理者を対象とした健康教育ができる。③
		*⑬ 要介護者の家族・介護者・施設職員の健康教育ができる。③

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	栄養指導学Ⅲ(生化学)		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	15時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
	太田校	三輪明	企業等との連携		
担当教員	高崎校	三輪明	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	栄養指導学Ⅲ【生化学・口腔生化学】 栄養指導の基礎となる人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体の代謝と機能に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「代謝と栄養」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

食べたものは消化・吸収され身体に取り込まれる。分解され身体の血や肉になり、エネルギーが産生される。グルコースにアミンが付くとグルコサミン、カルボン酸が付くとグルクロン酸、化学式で考えるとつながってくる。体内でのエネルギーはATP(アデノシン三リン酸)で、心臓の動きも脳で感じるのもATPが必要である。代謝(たいしゃ)とは、からだの内で起きる化学変化とエネルギー変換である。物質の代謝は同化と異化がある。同化はATPを使って栄養素から身体を作ること。異化は栄養素を分解してATPを取り出すこと。生化学は身体を作り、身体の中で起きている化学反応を説明して栄養指導や栄養学を支える学問である。「生化学」では、栄養がどんな化学構造で、どんな化学反応が起きてエネルギーを作るのかを勉強する。「口腔生化学」は、歯・歯周組織・プラークなどが物質としての相互のつながりなど化学的な面から学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①②	【生化学】 ① 生体の構成要素として細胞の役割を説明できる。 ② 生体の反応に必要な水の働きを説明できる。 ③ 生体構成成分と栄養素の種類及び作用を説明できる。 ④ 栄養素の消化と吸収を説明できる。 ⑤ 酸素の運搬と二酸化炭素の排出を説明できる。 ⑥ 細胞内での代謝(エネルギー代謝、分解、合成)を説明できる。 ⑦ エネルギー代謝を説明できる。 ⑧ 糖質の代謝を説明できる。 ⑨ 脂質の代謝を説明できる。 ⑩ タンパク質の代謝を説明できる。 ⑪ アミノ酸からタンパク質が合成される過程を説明できる。 ⑫ 主要な酵素の種類と作用を説明できる。 ⑬ 生体の恒常性(ホメオスタシス)を、血液の緩衝能と血糖値の調節で概説できる。 ⑭ 恒常性を保つ仕組みのホルモン系と自律神経系を概説できる。 【口腔生化学】 ⑮ 歯と歯周組織における結合組織の組成と機能を説明できる。 ⑯ 主な細胞外マトリックスの構造と機能、合成と分解を説明できる。 ⑰ ヒドロキシアパタイトなどを含む歯の無機成分を説明できる。 ⑱ 歯の有機成分を説明できる。 ⑲ 血清中のカルシウムとリン酸の濃度を説明できる。 ⑳ 歯と骨の石灰化の仕組みを概説できる。 ㉑ 血清カルシウム調節を説明できる。 ㉒ 歯の脱灰と再石灰化を説明できる。 ㉓ 唾液中の無機質と有機質の種類を列挙できる。 ㉔ 唾液中の無機質の作用を説明できる。 ㉕ 唾液中の有機質の作用を説明できる。 ㉖ う蝕におけるプラークの関わりを説明できる。 ㉗ 歯周疾患におけるプラークの関わりを説明できる。
第2回	③④	
第3回	⑤⑥	
第4回	⑦⑧	
第5回	⑨⑩	
第6回	⑪⑫	
第7回	⑬⑭	
第8回	⑮⑯	
第9回	⑰⑱	
第10回	⑲⑳	
第11回	㉑㉒	
第12回	㉓㉔㉕	
第13回	㉖	
第14回	㉗	
第15回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科診療補助論Ⅲ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	75時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	3単位	
担当教員	太田校	堤梢江	企業等との連携		実務経験のある教員科目
	高崎校	中川絵梨佳			
一般目標	<p>さまざまなライフステージ(人の一生における各年齢の段階)における歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>1. 歯科診療補助: 歯科診療補助全般の専門的な基礎的知識、技術及び態度を習得する。</p> <p>2. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理: 基本的性質及び標準的な使用法を習得する。</p> <p>3. 保存/4. 補綴/5. 口腔外科・歯科麻酔/6. 矯正歯科/7. 小児歯科/8. 高齢者歯科/ 診療時に必要な患者対応、治療手順、薬剤・器材の使用に関する基礎的知識、技術、態度を習得する。</p> <p>9. 障害児者歯科: 治療時に必要な患者対応、摂食嚥下の検査及び訓練法を習得する。</p> <p>10. エックス線写真撮影時の診療補助: 必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。</p> <p>11. 救命救急処置: 必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。</p> <p>12. 口腔機能管理: 口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術及び態度を習得する。</p>				
使用教材	<p>授業配布プリント・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」・「おしごとハンドブック」 「歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック」・「保存科アシストハンドブック」 ※とくに歯科衛生学シリーズ「歯科機器」や「イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」の本で 矯正器具・口腔外科器具・補綴治療器材などの各種機器を写真でよく確認しておくこと。</p>				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

歯科診療の補助とは、歯科医師の指示のもとに行う直接に患者への対面で行う医療行為である。
歯科診療の際に、歯や口など口腔領域に直接接触れる医療行為は歯科衛生士の資格が必要となる行為である。
歯科診療の補助は、歯科衛生士の業務独占であり、歯科衛生士法の第二条第二項に定められている。
医療技術は日々進歩を重ね、幅広く難しい分野。かなり細かな内容も多いがひとつひとつ学んでほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標 (*は実習予定項目)
第1回	はじめに	1. 歯科診療補助
第2回	4. 3)	2. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理
第3回	4. 4)	3. 保存治療時の診療補助
第4回	4. 5)①	4. 補綴治療時の診療補助
第5回	4. 5)②	1) 検査
第6回	4. 5)③	2) 印象採得
第7回	4. 5)④	3) 咬合採得(顎間関係の記録)
第8回	5. 1)①	4) プロビジョナルレストレーション(テンポラリークラウン、ブリッジ)
第9回	5. 1)②	① プロビジョナルレストレーション(テンポラリークラウン、ブリッジ)の作製手順を説明できる。③
第10回	5. 1)③	② プロビジョナルレストレーション(テンポラリークラウン、ブリッジ)の調整方法を説明できる。③
第11回	5. 2)①	5) 補綴装置の装着
第12回	5. 2)②	*① 床義歯装着時に用いる器材の準備ができる。③
第13回	5. 2)③	*② クラウン・ブリッジ装着時に用いる器材の準備ができる。③
第14回	5. 3)①	*③ 義歯装着後の指導ができる。③
第15回	5. 3)②	*④ インプラント装着後の指導ができる。③
第16回	5. 3)③	5. 口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助
第17回	5. 6)①	1) 抜歯
第18回	5. 6)②	① 手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。③
第19回	5. 6)③	*② 抜歯用器材の準備と取扱いができる。③
第20回	5. 6)④	*③ 抜歯後の注意を説明できる。③
第21回	5. 6)⑤	2) 小手術
第22回	5. 6)⑥	
第23回	5. 6)⑦	

第24回	6.1)①	① 手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。③
第25回	6.1)②	*② 各種小手術に用いる器材の準備と取扱いができる。③
第26回	6.1)③	③ 各種小手術後の注意を説明できる。③
第27回	6.3)①	3)止血処置
第28回	6.3)②	① 止血法を説明できる。③
第29回	6.3)③	② 止血薬の種類を説明できる。③
第30回	6.3)④	*③ 止血薬の取扱いができる。③
第31回	6.3)⑤	4)縫合
第32回	6.3)⑥	5)麻酔
第33回	6.3)⑦	6)周術期の口腔健康管理
第34回	6.3)⑧	① 周術期における口腔健康管理の目的を説明できる。③
第35回	6.3)⑨	② 周術期における歯科衛生士の役割を説明できる。③
第36回	6.3)⑩	③ 周術期口腔機能管理の流れについて概説できる。③
第37回	6.3)⑪	④ 化学療法・放射線治療法の有害事象について説明できる。③
第38回	6.3)⑫	⑤ 術前・術中・術後の歯科衛生介入に必要な患者情報を説明できる。③
第39回	6.4)①	*⑥ 周術期の口腔衛生管理及び口腔機能管理ができる。③
第40回	6.4)②	⑦ 歯科衛生介入時の留意点を説明することができる。③
第41回	7.1)①	6. 矯正歯科治療の診療補助
第42回	7.1)②	1)器具・材料
第43回	7.1)③	① 矯正歯科用器材の種類を説明できる。③
第44回	7.2)①	2)検査記録
第45回	8.1)①	① 口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。③
第46回	8.1)②	② 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる。③
第47回	8.1)③	③ 矯正用口腔模型の作製法を説明できる。③
第48回	8.1)④	3)装置の装着
第49回	9.1)①	*① 歯面清掃ができる。③
第50回	9.1)②	② 接着材の種類と用途を説明できる。③
第51回	9.1)③	*③ 接着材の取扱いができる。③
第52回	9.1)④	④ 帯環(バンド)の種類を説明できる。③
第53回	9.1)⑤	*⑤ 帯環(バンド)の取扱いができる。③
第54回	9.1)⑥	⑥ ワイヤの種類と用途を説明できる。③
第55回	9.1)⑦	*⑦ ワイヤの取扱いができる。③
第56回	9.1)⑧	⑧ ブラケットの種類と用途を説明できる。③
第57回	11.1)①	*⑨ ブラケットの取扱いができる。③
第58回	11.1)②	⑩ 結紮の方法を説明できる。③
第59回	11.1)③	⑪ デイボンディングの手順が説明できる。③
第60回	11.2)①	*⑫ 矯正装置装着後の指導ができる。③
第61回	11.2)②	4)装置の撤去
第62回	11.2)③	① 撤去に必要な器具の種類を説明できる。③
第63回	11.2)④	*② 撤去に必要な器具の取扱いができる。③
第64回	11.2)⑤	7. 小児歯科治療時の診療補助
第65回～第75回	まとめ	1)小児の歯科治療 *① 小児の状態把握と対応ができる。③ *② 治療に必要な器材・薬剤の準備ができる。③ *③ ラバーダム防湿ができる。③ 2)妊産婦の歯科治療 ①妊産婦の状態把握と対応ができる。③ 8. 高齢者歯科治療時の診療補助 1)高齢者の歯科治療 *① 高齢者の状態把握と対応ができる。③ ② 外来診療と訪問診療の補助を概要できる。③ ③ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。③ ④ 口腔衛生管理の概要を説明できる。③ 9. 障害児者歯科治療時の診療補助

		<p>1)障害児者の歯科治療</p> <ul style="list-style-type: none"> *① 障害児者の状態把握と対応ができる。③ ② 治療前の導入法を説明できる。③ ③ 治療中の体動の調整法を説明できる。③ ④ 歯科治療における小児の行動療法について概説できる。③ ⑤ 外来診療と訪問診療の補助を概説できる。③ ⑥ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。③ ⑦ 口腔衛生管理の概要が説明できる。③ *⑧ 摂食嚥下障害への対応ができる。③ <p>10. エックス線写真撮影時の診療補助</p> <p>11. 救命救急処置</p> <p>1)全身管理とモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> *① バイタルサインの測定ができる。③ *② 意識レベルの把握ができる。③ *③ 血圧、脈拍、心機能、呼吸のモニタリングができる。③ <p>2)救命救急処置</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一次救命処置の手順を説明できる。③ *② 一次救命処置に用いる器材の準備ができる。③ ③ 二次救命処置の手順を説明できる。③ ④ 二次救命処置に用いる器材の準備ができる。③ *⑤ AED の取扱いができる。③ ⑥ 全身的偶発症への対応ができる。③ <p>12. 口腔機能管理</p> <p>1)基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 口腔機能管理の目的を概説できる。 ③ 口腔機能リハビリテーションを概説できる。 ④ 口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を説明できる。 ⑤ チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携を説明できる。 <p>2)評価</p> <ul style="list-style-type: none"> *① 口腔機能の現状を把握するための評価ができる。 *② 対象者の摂食嚥下状態の評価・検査ができる。 ③ 対象者の歯科治療の要否を概説できる。 <p>3)機能障害別の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> *① 口腔機能訓練ができる。 *② 食事指導・支援や摂食介助ができる。 ③ 嚥下障害・構音障害への対応ができる。 <p>4)対象別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> *① ライフステージに応じた口腔機能管理と指導ができる。 *② 配慮を要する人への口腔機能管理と指導ができる。 ③ 緩和ケア・ターミナルケアを説明できる。
--	--	--

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	基礎介護技術		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	35時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	1単位	
担当教員	太田校	渡邊英明・戸田恵理・専任講師	企業等との連携		
	高崎校	渡邊英明・専任講師	実務経験のある教員科目	該当	
一般目標	専門科目歯科診療補助論の領域として基礎介護技術を学ぶ。基礎介護技術・介護予防に関する基本的な知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	授業配布プリント「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯科診療補助論」				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて、実習を行う。				

人口構成が65歳以上比率14%超で高齢社会、21%超で超高齢社会、日本は29%で超高齢社会である。0歳時の生きられる期間である「平均寿命」は女性87歳・男性81歳である。健康で日常生活が制限されないとする「健康寿命」は女性75歳・男性72歳である。平均寿命から健康寿命を引き算すると、支援が必要な要介護・不健康期間で女性12年・男性9年である。

●介護は、要介護者(介護される人)に残された能力を最大限に生かしていくことが大切。要介護者(介護される人)の気持ちに寄り添いながら、その人が「生きがい」を感じられる支援をするのが何より良いことである。

●「支援の大原則」は要介護者(介護される人)お一人お一人の「できること」と「支援を要すること」をしっかりと見極めること。介護者(介護する人)の目線や考えで画一的に全てを代行に行うのではない。不健康期間の回避には予防が一番。要介護にならないための介護予防の鍵は「口腔健康管理」が握っている。摂食嚥下障害がある方への口腔ケアは、口腔内を清潔にする口腔衛生管理だけではない。口腔内に適度な刺激することで感覚や機能を取り戻すリハビリテーションでもある口腔機能管理も欠かせない。「口腔健康管理の専門家である歯科衛生士」として期待に応えられるように学んでほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	基礎介護技術 ① 介護技術の基礎について概説できる。 ② 要介護者の心と体の仕組みについて概説できる。 ③ 介護におけるコミュニケーション技術について概説できる。 ④ 認知症について理解し、対応方法について概説できる。 ⑤ 障害について理解し、生活支援技術について概説できる。 ⑥ 介護時の安全確保・住宅改修・福祉用具について概説できる。 口腔機能管理 1) 基礎知識 ② 口腔機能管理の目的を概説できる。③ ③ 口腔機能リハビリテーションを概説できる。③ ④ 口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を説明できる。③ ⑤ チーム医療の関連職種と歯科衛生士との連携を説明できる。③ 2) 評価 *① 口腔機能の現状を把握するための評価ができる。③ *② 対象者の摂食嚥下状態の評価・検査ができる。③ ③ 対象者の歯科治療の要否を概説できる。③ 3) 機能障害別の対応 *① 口腔機能訓練ができる。③ *② 食事指導・支援や摂食介助ができる。③ ③ 嚥下障害・構音障害への対応ができる。③ 4) 対象別指導 *① ライフステージに応じた口腔機能管理と指導ができる。③ *② 配慮を要する人への口腔機能管理と指導ができる。③ ③ 緩和ケア・ターミナルケアを説明できる。③
第3回～第4回	①②	
第5回～第6回	①②	
第7回～第8回	①②	
第9回～第10回	①②	
第11回～第12回	①②	
第13回～第14回	①②	
第15回～第17回	①②	
第18回～第20回	③④	
第21回～第23回	⑤⑥	
第24回～第27回	⑦⑧	
第28回～第30回	⑨⑩	
第31回～第32回	⑪⑫	
第33回～第34回	⑬⑭	
第35回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	臨床・臨地実習Ⅲ	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	3年次
授業時数	495時間	単位数	11単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	各実習施設の指導教官	実務経験のある教員科目	該当
一般目標	歯科衛生士の役割を理解するために、病院や診療所などの歯科診療の場、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な実践力を身につける。		
使用教材	臨地・臨床実習ノート 新人歯科衛生士・ポケットマニュアル 2年次購入済		
成績評価の方法・基準	各実習施設の指導教官の評価をもとに出欠状況・遅刻早退状況・実習態度・実習業務・レポートに関する理解力・実践力について総合的に評価する。 歯科衛生士国家試験受験資格に必修の所定時間に満たない場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	実習は原則として指定された臨床・臨地実習施設にて校外実習とする。 実習にあたっては、施設長、指導教官、歯科医師、歯科衛生士の指示の下に行う。 貴重な実習時間であることを自覚し、責任をもって臨むこと。 実習先は校外であり、髪型・清潔感・服装・ハキハキした挨拶・遅刻しない・健康管理・分からないことは尋ねる・敬語など社会人としてビジネスマナーも求められる。		

授業回数	授業予定	○ 到達目標
全 495 時間共通	校外実習	<p>1) 対人関係</p> <p>① 歯科医師・歯科衛生士・施設長・スタッフからの指導・指示に対応できる。</p> <p>② スタッフ(他職種を含む)と協働し、連携のとれた患者への対応ができる。</p> <p>③ プライバシーに配慮できる。</p> <p>④ 患者・対象者の守秘義務を遵守できる。</p> <p>⑤ 対象者からのニーズに対応できる。</p> <p>⑥ 対象者の状況に応じて配慮できる。</p> <p>2) 診療室・施設等の管理・運営</p> <p>① 診療室のルール・施設等のルールを遵守できる。</p> <p>② 医療安全管理・安全管理に配慮できる。</p> <p>③ 感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策ができる。</p> <p>④ 器材や機器及び薬品を管理できる。</p> <p>⑤ 患者・対象者のデータ管理ができる。</p> <p>3) 歯科衛生実践</p> <p>① 患者・対象者のニーズを判断し対応ができる。</p> <p>② 必要な情報収集・必要なスクリーニング検査・各種検査の把握ができる。</p> <p>③ 歯科衛生過程に基づき歯科衛生計画を立案できる。</p> <p>④ 歯科衛生を実践するにあたって、その必要性を科学的に説明できる。</p> <p>⑤ スタッフ(他の職種を含む)と連携して共同動作と必要な対応ができる。</p> <p>⑥ 医療チーム・保健チームの一員として、歯科衛生実践ができる。</p> <p>⑦ 指導者からの指導・指示内容を理解した歯科衛生実践ができる。</p> <p>⑧ 現場に応じた業務記録を記述できる。</p> <p>⑨ 患者・対象者に応じた口腔健康管理ができる。</p> <p>⑩ 集団を対象に健康教育が実践できる。</p> <p>⑪ カンファレンスで適切に発言できる。</p>

科目名	高齢者歯科学(関連医学)		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	30時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	下山和弘	企業等との連携		
	高崎校	紋谷光徳	実務経験のある教員科目		該当
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。 高齢者歯科治療の補助のために必要な患者対応及び治療手順、薬剤及び器材の使用法に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」・授業配布プリント				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

日本では昭和45(1970)年に高齢化社会7%を越え、平成19(2007)年に21%超えの超高齢社会となった。令和4(2022)年の総人口1億2500万人。
65歳以上が高齢者で約3.5人に1人、3600万人で29%。
70歳以上が約4.4人に1人、2870万人で23%。
75歳以上は後期高齢者で約6.5人に1人。75歳以上は1930万人で15.5%。
80歳以上は約10人に1人、1260万人で10%。
令和47(2065)年には、約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上と推計されている。
高齢になれば持病も増えるし、眼も耳も遠くなるし、足腰も弱る。
腎臓も心臓も免疫も内分泌も血流も二十歳(はたち)と同じなわけではない。
感覚も鈍るし物忘れや認知症も増えてくる。
高齢者の場合、持病のある人、体力の落ちてる人など、特別な配慮が必要となってくる。
多くの配慮が必要なスペシャルなニーズに応える知識や技術を学んでほしい。

授業回数	授業予定	○到達目標
第1回～第2回	①	① 人口の超高齢化による社会環境の変化を説明できる。
第3回～第4回	②	② 高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。
第5回～第6回	③	③ 全身及び口腔の加齢と老化を説明できる。
第7回～第8回	④⑤	④ サルコペニアとフレイルを説明できる。
第9回～第10回	⑥	⑤ 高齢者の生活機能を低下させる全身疾患を説明できる。
第11回～第12回	⑦⑧	⑥ 高齢者の歯科治療時に注意すべき全身疾患を説明できる。
第13回～第14回	⑨	⑦ 高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる。
第15回～第16回	⑩⑪	⑧ 歯科訪問診療の意義と目的を説明できる。
第17回～第18回	⑫⑬	⑨ 歯科高齢者の口腔衛生管理と口腔機能管理を説明できる。
第19回～第20回	⑭⑮	⑩ 高齢者の摂食嚥下障害の原因と症状を説明できる。
第21回～第22回	⑯⑰	⑪ 高齢者の摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。
第23回～第24回	⑱	⑫ 口腔機能低下症の評価法とその対応について説明できる。
第25回～第26回	⑲	⑬ 高齢者の終末期ケアを説明できる。
第27回～第28回	⑳㉑	⑭ 高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔衛生管理を説明できる。
第29回～第30回	まとめ	⑮ 高齢者の状態把握と対応ができる。 ⑯ 外来診療と訪問診療の補助を説明できる。 ⑰ 高齢者治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。 ⑱ 口腔衛生管理の概要を説明できる。 ⑲ 咀嚼機能検査、摂食嚥下機能検査の意義を説明できる。 ⑳ 舌運動・舌圧検査、唾液検査の意義を説明できる。 ㉑ 構音機能検査、味覚検査、口臭検査の意義を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	卒業研究		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次	太田校	3年次
授業時数	30時間			高崎校	3年次
授業方法	講義		単位数	2単位	
担当教員	太田校	渡邊英明・専任講師	企業等との連携		
	高崎校	渡邊英明・専任講師	実務経験のある教員科目 該当		
一般目標	<p>【研究の取り組み】問題発見・問題解決を基本とした歯科衛生学に関する研究をするための基本的な内容を学び、研究へ取り組むことにより、テーマ設定から論文作成、発表までの手法を習得する。また、歯科衛生士としての研究活動の必要性を理解し、科学的思考能力に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>【プレゼンテーション】聞き手の立場になり、相手に行動してもらうための技術をプレゼンテーションという。必要な情報、意思の伝達を行い、集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を習得する。</p>				
使用教材	授業配布プリント ※USBメモリーを準備すること(1GBギガバイト以上なら十分に足りる)。				
成績評価の方法・基準	研究論文作成、スライド作成、発表会プレゼンテーション、取組状況等により総合評価する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて、演習を行う。 父兄の皆さん・講師の先生方・在校生に対してホールにて研究発表会を行う。				

卒業後、歯科衛生業務にあたり「考える歯科衛生士」の視点が求められる。

勤務先のクリニックや施設内での症例発表、保育園や学校・保健福祉センターなど地域での健康教育、歯科衛生士会での研究発表など、自分で調べて、まとめて、発表して、情報発信する機会がある。

歯科衛生士として問題点を見つけだし、掘り下げて研究する基本的な手順と方法を学び実践する。

たんに教科書やインターネットでの調べ学習をまとめるのではなくて、必ず比較的簡単な実験やアンケート等の調査を学生全員が異なるものを行うこと。実験や調査からの結果を図表等に見やすく表わし、得られた結果に対して、予想と違ったのか、予想通りだったのか、など自分自身の考えや感想をまとめて書き記す。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	はじめに	【研究の取り組み】
第3回～第4回	①	① 歯科衛生実践のために研究が必要であることを理解できる。
第5回～第6回	①	② 歯科衛生実践時の問題発見とその解決手法を理解できる。
第7回～第8回	①	③ 歯科衛生に関する文献や統計資料の検索と解釈ができる。
第9回～第10回	②	④ 研究に関する倫理的配慮の必要性が理解できる。
第11回～第12回	②	⑤ テーマ検討から研究論文を作成できる。
第13回～第14回	②	➢ はじめに・目的(調べようと思った動機・本やネットで調べたこと)
第15回～第16回	③	➢ 対象と方法(何を調べるか・どんなふうの実験するか)
第17回～第18回	③⑦	➢ 結果(自分でやったデータを分析してまとめる。それらを図表にする)
第19回～第20回	④⑩	➢ 考察(方法と結果に対する自分の感想、考え、主張、今後の展望を書く)
第21回～第22回	④⑧	➢ まとめ・結論(分かったことを2～3行で箇条書きする。省略しても良い)
第23回～第24回	⑤⑨	➢ 参考文献等(方法や考察に引用した本の名称・調べたHP)
第25回～第26回	⑤⑩	【プレゼンテーション】
第27回～第28回	⑥⑫	⑥ 口演発表用のスライドを作成することができる。
第29回～第30回	まとめ	⑦ 発表用読み原稿の作成ができる。(1分あたり250文字～300文字)
		⑧ 課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。
		⑨ グループディスカッションで得られた意見を統合して発表できる。
		⑩ 質問に対して的確な応答ができる。
		⑪ 他者のプレゼンテーションに対して優れた点と改良点を指摘できる。
		⑫ 効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。
		※スライドは10枚程度作成する。 (パワーポイントのスライド10枚で約2MB程度)

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

9 実務経験のある教員による授業科目一覧 太田校

学科名(歯科衛生士学科)

科目名	担当教員	実務経験内容等	ページ
心理学	塚越祐子	カウンセラー	14
外国語Ⅰ・Ⅱ	中央外語学院講師	英語講師	15/46
生物学	三輪明	薬剤師	13
化学	三輪明	薬剤師	46
解剖学・口腔解剖学	大河原重雄	医師・大学名誉教授	16
生理学	清水信雄	歯科医師	19
歯牙解剖学	宗村裕之	歯科技工士	20
病理学	勝部憲一	医師・大学教授	21
微生物学	渡邊英明	歯科医師	23
一般薬理学	三輪明	薬剤師	24
歯科薬理学	三輪明	薬剤師	25
口腔衛生学Ⅰ・Ⅱ	渡邊英明	歯科医師	26/48
口腔衛生学Ⅱ(歯科統計学)	戸田英樹	歯科医師	49
衛生学・公衆衛生学Ⅰ(環境保健)	渡邊英明	歯科医師	50
衛生学・公衆衛生学Ⅱ(地域保健)	戸田恵理	歯科衛生士	51
衛生行政・社会福祉	渡邊英明	歯科医師	52
歯科衛生士概論	村田隆子	歯科衛生士	27
歯科医療倫理学	村田隆子	歯科衛生士	70
歯科臨床概論	備前島俊行	歯科医師	28
歯科放射線学	亀山正	歯科医師	30
保存修復学	濱野英也	歯科医師	53
歯内療法学	白石友子	歯科医師	54
歯周治療学Ⅰ・Ⅱ	竹内康雄	歯科医師・大学講師	29/55
歯科補綴学Ⅰ	仁木孝行	歯科医師	56
歯科補綴学Ⅱ	大石和彦	歯科医師	72
口腔外科学Ⅰ・Ⅱ	大木晴伸	歯科医師	57/73
小児歯科学	小山敦	歯科医師	58
歯科矯正学Ⅰ・Ⅱ	青山欣也	歯科医師	59/71
障害者歯科学	下山和弘	歯科医師・大学名誉教授	67
関連医学・高齢者歯科学	下山和弘	歯科医師・大学名誉教授	83
基礎介護技術	渡邊英明	歯科医師	81
基礎介護技術	戸田恵理	歯科衛生士	81
歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	米岡葉月	歯科衛生士	31/60/74
歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	戸田恵理	歯科衛生士	32/62/75
歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	堤梢江	歯科衛生士	35/65/78
歯科材料学	堤梢江	歯科衛生士	38
栄養指導学Ⅰ・Ⅱ	井野文枝	管理栄養士	34/64
栄養指導学Ⅲ(生化学)	三輪明	薬剤師	77
看護学	木村友美子	看護師	39
臨床検査学	健康づくり財団講師	臨床検査技師	40
秘書概論(和裁)	吉田洋子	和裁専門学校講師	41
秘書概論(和裁)	荻野美恵子	和裁専門学校講師	41
秘書概論(経済記事)	岩田和人	ビジネス実務講師	41
コミュニケーション論	岩田和人	ビジネス実務講師	42
コミュニケーション論	専任講師	歯科衛生士	42
ビジネス実務(ビジネスマナー)	岩田和人	ビジネス実務講師	43
卒業研究	渡邊英明	歯科医師	84
卒業研究	専任講師	歯科衛生士	84

実務経験のある教員による授業科目一覧 高崎校
 学科名(歯科衛生士学科)

科目名	担当教員	実務経験内容等	ページ
心理学	塚越祐子	カウンセラー	14
外国語Ⅰ・Ⅱ	中央外語学院講師	英語講師	15/46
生物学	三輪明	薬剤師	13
化学	三輪明	薬剤師	46
解剖学・口腔解剖学	大河原重雄	医師・大学名誉教授	16
生理学	渡邊英明	歯科医師	19
歯牙解剖学	萩原輝雄	歯科技工士	20
病理学	勝部憲一	医師・大学教授	21
微生物学	渡邊英明	歯科医師	23
一般薬理学	三輪明	薬剤師	24
歯科薬理学	三輪明	薬剤師	25
口腔衛生学Ⅰ・Ⅱ	小保方恵	歯科衛生士	26/48
口腔衛生学Ⅱ(歯科統計学)	渡邊英明	歯科医師	49
衛生学・公衆衛生学Ⅰ(環境保健)	武藤政美	農学博士	50
衛生学・公衆衛生学Ⅱ(地域保健)	小保方恵	歯科衛生士	51
衛生行政・社会福祉	設楽昌博	歯科医師	52
歯科衛生士概論	村田隆子	歯科衛生士	27
歯科医療倫理学	村田隆子	歯科衛生士	70
歯科臨床概論	黒田真右	歯科医師	28
歯科臨床概論	渡邊英明	歯科医師	28
歯科放射線学	小野徹	歯科医師	30
保存修復学	笠野 素一郎	歯科医師	53
歯内療法学	清水英之	歯科医師	54
歯周治療学Ⅰ・Ⅱ	高井貞浩	歯科医師	29/55
歯科補綴学Ⅰ・Ⅱ	金井孝行	歯科技工士	55/70
口腔外科学Ⅰ・Ⅱ	井田順子	歯科医師	56/72
小児歯科学	相馬美恵	歯科医師	58
小児歯科学	柳澤友子	歯科医師	58
歯科矯正学Ⅰ・Ⅱ	北山義隆	歯科医師	59/71
障害者歯科学	稲川元明	歯科医師	67
関連医学・高齢者歯科学	紋谷光徳	歯科医師	83
基礎介護技術	渡邊英明	歯科医師	81
歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	竹越由佳	歯科衛生士	31/60/74
歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	渡木里佳	歯科衛生士	32/62/75
歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	中川絵梨佳	歯科衛生士	35/65/78
歯科材料学	中川絵梨佳	歯科衛生士	38
栄養指導学Ⅰ・Ⅱ	小保方恵	歯科衛生士	34/64
栄養指導学Ⅲ(生化学)	三輪明	薬剤師	77
看護学	茂原加代子	看護師	39
臨床検査学	健康づくり財団講師	臨床検査技師	40
秘書概論(和裁)	高橋範久	和裁専門学校講師	41
秘書概論(経済記事)	中村高広	ビジネス実務講師	41
コミュニケーション論	中村高広	ビジネス実務講師	42
コミュニケーション論	専任講師	歯科衛生士	42
ビジネス実務(ビジネスマナー)	中村高広	ビジネス実務講師	43
卒業研究	渡邊英明	歯科医師	84
卒業研究	専任講師	歯科衛生士	84

教科書・参考書一覧と関連する科目

<1年>

書籍名	関連する科目
歯科衛生士のための歯科臨床概論	歯科臨床概論/歯周治療学ほか臨床科目
歯科衛生学総論	歯科衛生学概論/歯科医療倫理学
生物学	生物学/解剖学/生理学/栄養・生化学
ぜんぶわかる人体解剖図	解剖学/生理学
イラストでわかる歯科医学の基礎	解剖学/歯牙解剖学/生理学/病理学/微生物学/栄養・生化学/薬理学
歯科衛生士書き込み式学習ノート	解剖学・口腔解剖学ほか専門基礎科目
口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	歯牙解剖学/口腔解剖学/口腔生理学
薬理学	一般薬理学/歯科薬理学
栄養と代謝	栄養指導学/生化学/口腔衛生学
歯周病学	歯周治療学
歯科予防処置論・歯科保健指導論	歯科予防処置論/歯科保健指導論
歯科診療補助論	歯科診療補助論
歯科機器	診療補助論/臨床科目
イラストと写真でわかる歯科材料の基礎	歯科材料学/診療補助論/臨床科目
歯科放射線学	歯科放射線学/臨床検査/臨床科目
よくわかる歯科放射線	
臨床検査	臨床検査学/歯科診療補助論
心理学	心理学/コミュニケーション論/保健指導論
歯科衛生士のための看護学大意	看護学/臨床検査/コミュニケーション論
保健生態学	口腔衛生学/衛生学・公衆衛生学
保存科アシストハンドブック	歯周治療学/歯科診療補助論
社会人常識マナー検定テキスト2・3級	ビジネス実務(ビジネスマナー)
経済記事の読み方検定テキスト	秘書概論(経済記事)
デンタルクリニック英会話	外国語Ⅰ・Ⅱ
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション	歯科保健指導/小児歯科/高齢者歯科
歯科衛生士おしごとハンドブック	歯科診療補助論/歯周病学

<2年>

書籍名	関連する科目
化学	化学/栄養指導学/生化学
障害者歯科学	障害者歯科学/歯科診療補助論
小児歯科	小児歯科学/歯科診療補助論
歯科補綴学	歯科補綴学/歯科診療補助論
口腔外科学・歯科麻酔学	口腔外科学/歯科麻酔学 歯科診療補助論
口腔外科学	
歯科衛生士書き込み式学習ノート	口腔外科学ほか臨床科目
歯科矯正学	歯科矯正学/歯科診療補助論
保存修復学・歯内療法学	歯内療法学/保存修復学/歯科診療補助論
保健生態学	口腔衛生学/衛生学・公衆衛生学
保健・医療・福祉の制度	衛生行政・社会福祉
公衆衛生がみえる	公衆衛生学/歯科統計学/衛生行政
保存科アシストハンドブック	保存修復学/歯内療法学/歯周治療学
補綴科アシストハンドブック	歯科補綴学/歯科診療補助論
歯科衛生士おしごとハンドブック	歯科診療補助論/臨床科目

<3年>

書籍名	関連する科目
高齢者歯科学	高齢者歯科学
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション	高齢者歯科学/基礎介護技術
歯科衛生士おしごとハンドブック	歯科診療補助論/臨床歯科医学
検査値の読み方ポケット事典	歯科保健指導/臨床歯科医学

※太田校・高崎校で同じ科目であっても担当講師により異なる教科書の場合がある。

< 国家試験対策問題集 >

書籍名	問題集の特色
< 主要3教科の問題集 > 主要3科プラス専門分野問題集	予防処置・保健指導・診療補助のセンスを磨く 主要3科 800 問の基礎固めと臨床 270 問収載
< アップルの問題集 > (毎年6月発行) 徹底分析・年度別国試対策問題集	総合力をチェックするための直近 5 年分を全収載 受験前に5回転やってマスターすべき必須の一冊
< コンプリート DH の問題集 > (毎年7月頃発行) 科目別国家試験解説	直近7年 1540 問収載・正解へのアプローチあり 優しい解説で科目別に過去問を勉強できる問題集
国試の麗人Ⅱ [DHS] (毎年10月頃発行)	過去問選択肢を分類して解説・知識まとめに活用

国試受験生としての勉強

- ① 国家試験は例年 3 月第 1 日曜日に実施。出題は 220 問。60% (132 点) 以上で合格通知が届く。
- ② 国試は1年2年日頃の勉強がベースなので期末試験で再試験にならないことが国試対策につながる。
その理由は、国試出題範囲のうち、1年次で約50%、2年次で約80%まで勉強が進むからだ。
- ③ 1年2年次に国試過去問の宿題が時折出るが、それらをきっちり解説も読み、こなすことも国試対策。
- ④ 3年夏以降、本格的に国試勉強を始めて、受験当日までの6か月で点数は平均36点上がる。
つまり3年の8月時点で 96点あれば、半年で36点伸びたとして132点でギリギリ合格に届きそうだ。
しかし自己採点結果に±8点程度の変動を見込んで自己採点で140点以上を取っておきたい。
- ⑤ 模試でいつも150点以上取れるまで手を抜かない。早い時期に132点超えても勉強は毎日6時間する。
- ⑥ どう勉強に取り組んでいくか? 「要点」を書いておく。

心得1は、「何がなんでも受かりたい気持ち」・・・面倒くさいとか本気じゃないとか思わないことがポイント。

心得2は、「毎日勉強する」・・・とりあえず一問でもはじめてみること。とにかくやってみることが「やる気」の素となる。

心得3は、「先生の指示に素直に従う」・・・まずは宿題や目の前にある課題にマジで取り組むことから始めよう。

心得4は、「変なプライドは捨てて、解からないことは必ず聞くこと」・・・聴けることが点数を伸ばす。

中身1は、「何をやるか」。過去問220問の880全選択肢がどうして正しいか誤りかを完全に説明できるようにする。

- < 説明例 >
- a. この選択肢はこうだから違う。×
 - b. その次の選択肢もあぁじゃないから違う。×
 - c. その次は、この特徴が一致するからコレ! ○
 - d. その次もこうで違うからやっぱり答えは一つ前の選択肢。×・・・だから答えはc.

中身2は、「できたかできなかったかの証しを残す」・・・やったら問題番号の横に○×の印をいくつも付け続ける。

中身3は、「読んで解かってまとめる」・・・書く勉強にしても「解からない用語を調べてまとめる」、それを「覚えるのが勉強」である。問題集の解説や教科書の説明を「中身を理解することなく写す」は「書く作業」で「解かる」ではない。

中身4は、「アウトプット」。解かってるかどうかの確認のために口頭試問を受ける。友人とでも先生とでもよい。

中身5は、過去問に出てることは苦手科目でも捨てない。苦手分野は勉強にすぐく時間が掛かるが繰り返しやる。

3年生での各月はじめに取っておきたい点数

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
安心目標	108	114	120	126	132	138	144	150
普通目標	98	104	110	116	122	128	134	140
最低目標	90	96	102	108	114	120	126	132
やばいパターン これを乗り越えるための 最低勉強時間量	78 2時間	80 4時間	84 6時間	90 8時間	98 10時間	108 12時間	120 12時間	132 12時間

国試(午前110問・午後 110 問)の科目・配点・問題番号

分野	配点	科目・内容	問題番号
基礎医学	30点	解剖学・生理学・生化学・病理学・微生物学・薬理学	問 1～15
社会医学	30点	口腔衛生学・衛生学・公衆衛生学・衛生行政・歯科統計	問 16～30
歯科衛生士概論	7点	歯科衛生過程・医療倫理・歯科衛生士業務・多職種連携など	問 31～37
歯科臨床概論	7点	臨床検査・全身管理・歯科放射線学など	
臨床歯科医学	50点	修復・歯内・歯周・補綴・口外・矯正・小児・高齢者・障害児者歯科	問 38～62
歯科予防処置論	30点	歯科衛生診断・フッ化物・検査・スクレーリング・ルートプレーニング・歯面研磨・歯面清掃・う蝕活動性試験・シーラントなど	問 63～77
歯科保健指導論	26点	行動科学・医療面接・口衛管理・生活習慣・食生活・健康教育など	問 78～90
歯科診療補助論	40点	修復・歯内・歯周・補綴・口外・矯正・小児・高齢者・障害者診療の診療補助と器材の取扱い、口腔機能評価、口腔機能・摂食嚥下訓練	問 91～ 110
	220点		

学習の段階と学びの姿勢について

学習には①「知識」②「技術」③「態度」の3つの領域がある。

- ①知識とは、新しく覚えること、分かること、理解すること。この段階の学習が「知識」である。
 - ②技術とは、知識を使えること、知識を基に評価や指示できること。この段階の学習が「技術」である。
 - ③態度とは、身に付いた知識や技術が生かせる、問題意識を持てること。この段階の学習が「態度」である。
- ①知っている段階→②知識を使える技術の段階→③知識・技術が生かせる段階へと学習を深めたい。

授業の受け方

- とにかく眠らないで聞く。もし寝ちゃうなら毎日の生活を見直し、夜間にきっちり睡眠をとれるよう改善。
- 1コマ50分授業を1時間と数える。つまり10分ぶんは自主学習も含んで1時間なのである。
毎日4～6コマの授業だから10分×コマ数で少なくとも毎日1時間程度の復習が欠かせない。
- 1年2年の勉強をその日にやらないで3年に後回しにして、あとでその時間を取り返すのは難しい。
- 国試は22科目。仮に1週間に1科目を完成できたとしても22週、つまり約6か月かかることになる。
つまり1年2年の勉強不足のしわ寄せを3年夏以降の6か月で学び直すのは時間的に間に合わない。
- 必ず期末試験の勉強は家でやってくるクセを習慣にすること。これが国試一発合格への近道(*^_^*)
- 授業時間はほかの科目の試験勉強の時間ではない。授業中を期末試験の勉強や宿題をすることに費やして、その授業の中身をほとんど聞いていない学生もある。その日の授業を聞かないで、3年でやればいいやと思ってても時間的に取り戻すのは難しい。授業時間の過ごした方をチェンジした方がよい。

再試験について

期末試験で60点以上得点できない場合は再試験となる。

再試験をぎりぎり合格したとしても、絶対的な勉強不足で国家試験で合格点につなげていかない。

国試で合格点以上に達するには、再試験で80点以上取れるレベルまで十分に勉強をやり直しておくこと。

予防・診療・保健の主要3科目について

歯科衛生士免許に託されたプロ業務は、業務独占の歯科予防処置と歯科診療補助、名称独占の歯科保健指導。現在の歯科衛生士の働く場所は90%が歯科診療所で、診療補助が多く、次いで予防処置で、保健指導は少めが現状であろう。しかし現在の勤務実態とは関係なく、どの分野も歯科衛生士にとって重要な業務である。歯科衛生士国試受験コースの学生にとって、予防の勉強も、診療の勉強も、保健の勉強も、どの分野も勉強量はものすごく多い。どの分野も歯科衛生士という国家資格に託された大切な業務なので、好きな勉強、嫌いな勉強があろうが、3分野をかたよらないように整理しながら学んでほしい。国試220点で主要3教科96点出題で72点は稼ぎたい。

(付)体験学習 <全学年>

科目名	体験学習(歩行ラリー)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年次
授業時数	8時間	単位数	体験学習 45 時間で 1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	体験を通して「事実の本質」を見出す能力を養う知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	予め設定されたコースを二人一組でルールにのっとり、コマ地図にある自然物や造形物を目標に指示された経路・時間でスタートからゴールまで歩くことができる。		
使用教材	コマ地図・筆記用具・帽子・タオル・歩きやすい靴		
成績評価の方法・基準	出席状況・ゴール到着・参加マナー・到着時間などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	当日は朝食を済ませ、交通安全、水分補給など安全と健康管理に留意すること。		

科目名	体験学習(国内研修)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年次
授業時数	9時間	単位数	体験学習 45 時間で 1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	研修を通して友人との新たな関係性を構築して今後の学習に生かし、関連業種の企業見学を通して学習に必要なアイデアを得ることに関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	友人との新たな関係性を構築できる。見学・演習・実習を実施することができる。		
使用教材	配布資料・筆記用具		
成績評価の方法・基準	出席状況・研修先での体験学習・研修レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	交通安全など安全面・健康管理に配慮して参加すること。		

科目名	体験学習(戴帽式)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年・2年次
授業時数	6時間	単位数	体験学習 45 時間で 1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	臨床実習前に学生一人一人にナースキャップ等を授与し、歯科衛生士に対する意識を高め、その責任の重さを自覚し、医療人の在り方に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	歯科衛生士の職業と真摯に対峙できる。周囲の人々へ気遣いすることができる。		
使用教材	身だしなみ		
成績評価の方法・基準	出席状況・参加マナー・レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	身だしなみに配慮して厳粛な気持ちで参加すること。		

科目名	体験学習(スポーツフェスティバル)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年・2年・3年次
授業時数	9時間	単位数	体験学習 45 時間で 1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	スポーツを通じて、勝敗を競い、交友を深めるための知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	各種目に参加すること、各チームを応援すること、各系の役割を全うすること等を通じて、スポーツを楽しみ、親睦の輪を広げることができる。		
使用教材	運動ができる服装・履きなれたスポーツシューズ・タオル・水筒		
成績評価の方法・基準	出席状況・選手として参加状況などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	しっかり準備運動をして、安全に配慮して、十分に水分補給をすること。		

科目名	体験学習(学園祭)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年・2年・3年次
授業時数	9時間	単位数	体験学習 45 時間で 1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	学習の成果発表、模擬店運営などの企画運営に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	クラス一丸となってアイデアを出し、クラス全員が役割分担して学園祭を運営することができる。		
使用教材	自主制作研究発表作品・模擬店制作		
成績評価の方法・基準	出席状況・クラス貢献・レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	館内安全・交通安全・食品衛生など安全管理に配慮して参加する。		

科目名	体験学習(卒業研究発表会)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年・2年・3年次
授業時数	6時間	単位数	体験学習 45 時間で 1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	研究発表の聴講を通じ、歯科衛生分野に関する視野を広げ、思考力を伸ばし、多角的な視点から課題解決に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	歯科衛生分野に関する視野を広げて多角的な視点から課題解決することができる。		
使用教材	配布資料・筆記用具		
成績評価の方法・基準	出席状況・身だしなみ・レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	身だしなみに配慮して新たな問題発見のために好奇心を持って参加すること。		

科目名	体験学習(患者実習)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	2年次
授業時数	4時間	単位数	体験学習 45 時間で 1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習実施教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	臨床に必要な基本的な歯科衛生業務に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	医療安全、対象者への声掛け・受容的共感的態度、公私の区別、実習上のルール等に配慮して歯科衛生業務(医療面接・予防処置・保健指導・診療補助)が実施できる。		
使用教材	実習衣・治療用具セット		
成績評価の方法・基準	出席状況・実習への取り組み・実習報告書提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	参加協力いただく家族等には敬意と感謝の気持ちをもって真剣に取り組むこと。 身だしなみ(髪・化粧・爪など)、アイロン済みの清潔な実習衣を整えて臨むこと。 実習内容を十分に予習しておく。不十分な準備の場合は実習を中止させる。		

科目名	体験学習(就職総決起大会)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	3年次
授業時数	3時間	単位数	体験学習 45 時間で 1 単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	来たる就職活動に臨む学生に対して、就職指導部の先生方からの経験談やアドバイスを伝え、本格的な就職活動に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	学園標語「思いやりの心、感謝の心、奉仕の心」を再確認して、就職活動に必要な心構えを身につけることができる。		
使用教材	配布資料・筆記用具		
成績評価の方法・基準	出席状況・身だしなみ・レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	身だしなみに配慮して新たな問題発見のための好奇心を持って参加すること。		

科目名	体験学習(学術講演会)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年・2年・3年次
授業時数	6時間	単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	注目される先端医療・自然科学・人文科学の分野で活躍する研究者・講師の講演を通して、自ら医療人としての研鑽に資する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	歯科衛生分野に関する視野を広げて多角的な視点から学習を深めて、医療人として幅広い教養を身につけることができる。		
使用教材	配布資料・筆記用具		
成績評価の方法・基準	出席状況・受講態度・レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	身だしなみに配慮して、必要なメモを取りながら受講すること。		

科目名	体験学習(SDGsゲーム)	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年次
授業時数	8時間	単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	すべての人が平和と豊かさを享受できるように、貧困に終止符を打ち、地球を保護することを目指す普遍的な行動への問題解決に繋がる知識を修得し、技術、態度を身につける。		
到達目標	SDGs(持続可能な開発目標)に向けて、自分たちにできることは何か、課題を整理し、解決方法を考え、掲げられた17の目標をブレインストーミングやカードゲームを通して理解できる。		
使用教材	カード・模造紙・付箋紙・筆記用具		
成績評価の方法・基準	出席状況・グループワークで見出した提案・結果発表などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	明日にも解決すべき自らの問題と考えて真摯に取り組むこと。		

※体験学習の実施可否については各年度の社会情勢・学校スケジュールにより変更になる場合がある。

(付)コアカリキュラム2022改訂版<全国歯科衛生士教育協議会の資料より抜粋・引用>

歯科衛生学教育コア・カリキュラム2022年度改訂版 作成の背景と考え方

コア・カリキュラムとは、米国のハーバード大学において4年間の教養人養成カリキュラムを多様な学問分野「文学と芸術、科学、歴史研究、社会分析、外国文化、道徳理論」に種類分け、これらを基本のコアとし、専攻分野を除く各コアをバランス良く履修することにより、各コアでの学問の方法を身につけることを目標にしたことから始まる。以後、米国では種々な分野の教育プログラムにコア・カリキュラムという用語を用いるようになった。

現在では、ある教育目標を達成するための中心(コア)となる教育項目とその内容(カリキュラム)を示し、科目というよりは、定められた期間内に何をどこまで学ぶかという教育目標を示すことである。

歯科保健医療に関する国民のニーズが多様化し拡大する中で、良質な歯科保健医療サービスを提供していくためには、歯科衛生士数を充足し、資質の向上を図ることがきわめて重要である。

また、社会から求められている患者とのコミュニケーションや安全性の確保などの学習内容を付加することも急務である。生涯にわたり自ら課題を探索し、問題を解決していく能力を身につけられるような学生主体の学習方法に積極的に転換することも必要である。

歯科衛生学教育コア・カリキュラムの基本理念

生命科学や科学技術を基盤とした医学・歯学の進歩で、歯科衛生学の情報量は著しく増加し医療分野の専門化と技術の高度化が進んでいる。限られた教育課程の中で、膨大な知識や技術等を完全に修得することは不可能であるが、著しく膨大化した教育内容を精選し、歯科衛生士としての基本的な資質と能力を養成するために卒業までに学生が身に付けておくべき必須の実践能力(知識・技能・態度)の到達目標をわかりやすく提示したものである。

全国歯科衛生士教育協議会で各委員から挙げられた「歯科衛生士に求められる基本的な資質」

- 歯科医療の高度化と社会環境の変化に対応することのできる歯科衛生士
- 幅広い見識と豊かな人間性を有する歯科衛生士
- 高い倫理観を持つ歯科衛生士
- 資質向上に寄与することのできる歯科衛生士
- 多職種連携のできる歯科衛生士
- EBMに基づいた科学的な判断のできる歯科衛生士
- 学びの成果を集大成する意味で、講義や演習・実習で学んだことをもとに自分自身で研究テーマを設定し、研究を進め、一定の形式で論文にまとめて発表する「卒業研究」等は教育の一環として考慮する価値がある。

歯科衛生学教育コア・カリキュラムの表示方法

歯科衛生士になるために能力を培うことが重要であり、知識と理解の獲得はそのための手段である。基本的な知識と理解は「何かを説明できる」という形で記述し、基本的な能力は「何かを行うことができる」という形で記述する。

到達目標において、知識では、「…を説明できる」を用いる。そこまで求めないものは「…を概説できる」とした。また、技能については、「…を実施できる」は、文字どおりある行為などを実施できるレベルを要求し、「…を説明できる」となっている行為などは、実施できなくても、内容を理解しているレベルでよいとなる。歯科医師でなければできない行為などは「…を説明できる」とした。

基礎分野	A.科学的思考の基盤 B.人間と生活
専門基礎分野	A.人体の構造と機能 B.・口腔の構造と機能 C.疾病の成り立ち及び回復過程の促進 D.歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
専門分野	A.歯科衛生士概論 B.臨床歯科医学 C.歯科予防処置論 D.歯科保健指導論 E.歯科診療補助論 F.臨地・臨床実習

基礎分野

基礎分野は、専門基礎分野と専門分野を理解するために身につけておくべき基本的な事項である。

<科目名と学年を「・・・科目名・学年」で追記した>

A. 科学的思考の基盤

1. 生命現象の科学(生物学・化学)

【一般目標】:生体の構造を知るために、細胞の構造、働き及び生命現象に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1)細胞の構造と機能・・・生物学 1年

- ① 真核細胞の基本的構造と機能を説明できる。
- ② 原核細胞の基本的構造と機能を概説できる。
- ③ 細胞周期と細胞分裂を概説できる。

2)細胞代謝・・・生物学 1年

- ① 酵素の構造、機能及び代謝調節を説明できる。
- ② 細胞呼吸とエネルギー産生を説明できる。

3)遺伝子と遺伝・・・生物学 1年

- ① 遺伝子及び染色体の構造を説明できる。
- ② 減数分裂における染色体の挙動を説明できる。
- ③ デオキシリボ核酸(DNA)の複製と修復の機序を説明できる。
- ④ 転写と翻訳の過程を説明できる。
- ⑤ 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。
- ⑥ 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる

4)化学反応と化合物・・・化学 2年

- ① 化学反応を概説できる。
- ② 有機化合物の特徴を説明できる。
- ③ 無機化合物の特徴を説明できる。

5)生命を構成する基本物質・・・化学 2年

- ① アミノ酸とタンパク質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる。
- ② 糖質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる。
- ③ 脂質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる。
- ④ 核酸の構造と機能を説明できる。

B. 人間と生活

1. 生命倫理・医の倫理(生命倫理学)

・・・歯科医療倫理学 3年

【一般目標】:倫理問題に配慮して保健・医療・福祉とこれらに関連する研究を行うために、生命と保健・医療・福祉に関わる倫理の重要性を理解する。

【到達目標】

- ① 生命の尊厳を説明できる。
- ② 保健・医療・福祉及びこれらに関連する研究や情報に関わる倫理的問題を説明できる。
- ③ 生命倫理・医の倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
- ④ 医の倫理に関する規範を概説できる。
- ⑤ 患者の権利を説明できる。
- ⑥ 終末期医療に関わる患者の自己決定権を概説できる。
- ⑦ インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオン及びEBMを説明できる。

2. 外国語・・・外国語 1年 2年

【一般目標】:歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。

【到達目標】

1)読む

- ① 易しい外国語で書かれた文章を読んで内容を説明できる。
- ② 歯科衛生学に関連する外国語の専門用語のうち代表的なものを列挙できる。

2)書く

- ① 短い日本語を文法にかなった外国語に訳すことができる。
- ② 自己紹介文や手紙文などを外国語で書くことができる。
- ③ 自然科学各分野における基本的単位や数値及び現象の外国語表現を列挙できる。

3)聞く・話す

- ① 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。
- ② 外国語による基本的な日常会話ができる。

3. 情報リテラシー

・・・ビジネス実務 1年・卒業研究 3年

【一般目標】:情報の授受に効果的なコンピューターの利用法を理解し必要なデータや情報を有効活用するために、インターネットを利用した情報の収集や開示などに関する基本的知識・技能・態度を習得する。

【到達目標】

- ① コンピューターを構成する基本的装置を列挙できる。

- ② ワープロソフトや表計算ソフト及びプレゼンテーションソフトを用いることができる。
- ③ ソフトウェア使用上のルールとマナーを説明できる。
- ④ 電子メール及び添付ファイルの送信と受信及び転送ができる。
- ⑤ インターネットのブラウザ検索ソフトを用いてホームページを閲覧できる。
- ⑥ インターネットを利用した授業に参加できる。
- ⑦ ネットワークセキュリティと使用上のマナーを概説できる。

4. プレゼンテーション…卒業研究3年

【一般目標】:必要な情報や意思の伝達を行い集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションの基本的知識と技能及び態度を習得する。

【到達目標】

- ① 課題に対する自分の意見を決められた時間内と字数で発表できる。
- ② グループディスカッションで得られた意見を統合して発表できる。
- ③ 質問に対して的確な応答ができる。
- ④ 他者のプレゼンテーションの優れた点と改良点を指摘できる。
- ⑤ 効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。

5. 人の行動と心理(心理学)…心理学1年

【一般目標】:良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。

【到達目標】

- ① 行動と知覚・学習・記憶・知能・感情・思考及びパーソナリティとの関係を概説できる。
- ② 動機づけを概説できる。
- ③ 欲求とフラストレーション・葛藤の関連を概説できる。
- ④ 人生や日常生活におけるストレスを概説できる。
- ⑤ こころの健康に対する要因と支援方法を概説できる。
- ⑥ ライフサイクルにおけるこころの発達の特徴と要因を概説できる。
- ⑦ パーソナリティの特徴を概説できる。
- ⑧ 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる。
- ⑨ 文化や慣習によるコミュニケーション方法を列挙できる。
- ⑩ 話し手と聞き手の役割を理解し、適切なコミュニケーションができる。
- ⑪ 対人関係にかかわる心理的要因と行動を概説できる。
- ⑫ 知能の経年的変化を概説できる。
- ⑬ 集団における人間関係を概説できる。

専門基礎分野

A. 人体の構造と機能(解剖学・生理学)

…解剖学・組織発生学・生理学1年

1. 解剖・組織・生理

【一般目標】:人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、

組織・発生に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 身体の部位と方向用語

- ① 身体の部位と区分を解剖学的な名称で表現できる。
- ② 身体の方角用語を用いることができる。
- ③ 体位を含む姿勢を列挙できる。

2) 細胞・組織

- ① 細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能を説明できる。
- ② 細胞の増殖と分化の機序を概説できる。
- ③ 細胞死の種類と機序を概説できる。
- ④ 上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。
- ⑤ 腺の構造と分泌機構を説明できる。
- ⑥ 支持(結合)組織を分類し、構成する細胞と細胞間質を説明できる。
- ⑦ 結合組織を分類し、組織構造を説明できる。
- ⑧ 軟骨を分類し、組織構造を説明できる。
- ⑨ 筋組織の構造と機能を説明できる。
- ⑩ 神経組織の構造と機能を説明できる。

3) 人体の発生

- ① 核酸、染色体、遺伝子及びゲノムを概説できる。
- ② 受精と着床の過程を説明できる。
- ③ 胚葉の形成を概説できる。
- ④ 胎児の発育を概説できる。

4) 器官と器官系の構造と機能

(1) 循環器系と血液

- ① 動脈、静脈及び毛細血管の構造と役割を説明できる。
- ② 肺循環と体循環を説明できる。
- ③ リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる。
- ④ 心臓の構造と機能を概説できる(心筋の特徴、刺激伝導系及び心電図を含む)。
- ⑤ 血圧の調節機構を概説できる。
- ⑥ 血液の構成要素と機能を説明できる。
- ⑦ 血液型と輸血を概説できる。
- ⑧ 止血、線溶系及び出血傾向を概説できる。
- ⑨ 造血器官を概説できる。

(2) 呼吸器系

- ① 呼吸器の構造と機能を概説できる。
- ② 換気、ガス交換及び血液ガスの運搬を概説できる。
- ③ 呼吸の調節を概説できる。

(3) 運動器系

- ① 骨の基本構造と連結様式を概説できる。
- ② 骨の形成・吸収・改造現象(リモデリング)を概説できる。
- ③ 筋の種類と特徴を説明できる。
- ④ 骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる。

(4) 神経系

- ① 神経系の概略を説明できる(ニューロンを含む)。
- ② 中枢神経系の基本構造と機能を概説できる。
- ③ 末梢神経系の分類、基本構造、機能及び各神経の特徴を説明できる。
- ④ 興奮の伝導を概説できる(シナプス伝達を含む)。
- ⑤ 反射と随意運動を概説できる。

(5) 感覚器系

- ① 感覚器の構造と機能を概説できる。
- ② 体性感覚、内臓感覚及び特殊感覚を説明できる。

(6) 消化器系

- ① 消化器の基本構造と機能を概説できる(食道・肝臓・胆嚢・膵臓を含む)。
- ② 胃における消化を概説できる。
- ③ 腸における消化と吸収を概説できる。
- ④ 排便の仕組みを概説できる。

(7) 泌尿器系

- ① 泌尿器系の構造を概説できる。
- ② 尿の生成と体液の調節を概説できる。
- ③ 排尿の仕組みを概説できる。

(8) 内分泌系

- ① 内分泌器の基本構造とホルモンを概説できる。
- ② ホルモンの働きを概説できる。

(9) 生殖器系

- ① 生殖器系を概説できる。
- ② 生殖機能を概説できる。

(10) 体表と体温

- ① 皮膚と粘膜、及び付属器を概説できる。
- ② 体温の調節と変動を概説できる。

(11) 加齢・老化

- ① 加齢と老化を説明できる。
- ② 人体の老化の特性と機序を説明できる。
- ③ 老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。

2. 人体の代謝と機能(生物学・生化学)

…生物学1年、栄養指導学(I・II)1年2年、生化学3年

【一般目標】:人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体の構成成分、代謝及び機能に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 人体の構成成分

- ① 細胞の機能を説明できる。
- ② 人体の構成成分の構造と種類を説明できる。

2) 人体における化学反応

- ① 栄養素の種類及び作用を説明できる。
- ② 栄養素の消化と吸収を説明できる。
- ③ 酸素の運搬と二酸化炭素の排出を説明できる。

3) エネルギーの代謝

- ① エネルギー代謝を説明できる。

4) 物質の代謝

- ① タンパク質の代謝を説明できる。
- ② 糖質の代謝を説明できる。
- ③ 脂質の代謝を説明できる。
- ④ タンパク質が合成される過程を説明できる。

5) 酵素の種類と作用

- ① 主要な酵素の種類と作用を説明できる。

6) 生体における恒常性の維持

- ① 生体の恒常性(ホメオスタシス)を、血液の緩衝能と血糖値の調節で概説できる。
- ② 恒常性を保つ仕組みのホルモン系と自律神経系を概説できる。

3. 栄養・食生活(栄養学)・・・栄養指導学(I・II)1年2年

【一般目標】:人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 栄養と健康

- ① 栄養・栄養素の働きについて概説できる。
- ② 健康の維持と増進に必要な栄養を説明できる。
- ③ 現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を列挙できる。
- ④ 栄養素の種類とその消化と吸収の基本を説明できる。

2) 食事摂取基準

- ① 食事摂取基準を説明できる。
- ② エネルギー必要量を説明できる。
- ③ 脂肪エネルギー比率を説明できる。
- ④ 基礎代謝を説明できる。

3) 栄養素の働き

- ① 糖質、タンパク質及び脂質の生体での役割を概説できる。
- ② ビタミンの種類と働きを概説できる。
- ③ ミネラル(無機質)の種類と働きを概説できる。
- ④ 水の生体での役割を概説できる。
- ⑤ 食物繊維の生体での役割を概説できる。

4) 食品と健康

- ① 食品の成分と分類及び食品成分表を説明できる。
- ② 食品群の種類と分類を説明できる。
- ③ 保健機能食品を説明できる。
- ④ 食品添加物を説明できる。
- ⑤ 食品の物性とその働きを説明できる。

5) 食生活と健康

- ① 食生活と健康との関連を概説できる。
- ② 食生活と口腔の健康との関連を説明できる。
- ③ 国民健康・栄養調査を概説できる。
- ④ 食育と食育基本法を概説できる。
- ⑤ 食生活指針及び食事バランスガイドを説明できる。
- ⑥ ライフステージ別の食生活の特徴を説明できる。
- ⑦ 低栄養と健康との関連を概説できる。

B. 歯・口腔の構造と機能(口腔解剖・生理学)

…口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学・歯牙解剖学 1年

1. 歯・口腔の解剖・組織・生理

【一般目標】:顔面、口腔及びその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 頭頸部の基本的な構造と機能

- ① 顔面ならびに口腔の範囲を説明できる。
- ② 顔面ならびに口腔の各部位の名称を列挙できる。
- ③ 顔面ならびに口腔の発生を概説できる。
- ④ 顔面ならびに口腔の加齢変化を概説できる。
- ⑤ 顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる。
- ⑥ 頭頸部の筋の構成と機能を概説できる。
- ⑦ 頭頸部の脈管を概説できる。
- ⑧ 頭頸部の神経を概説できる。
- ⑨ 三叉神経と顔面神経の走行と線維構成を概説できる。
- ⑩ 咽頭の構造を説明できる。
- ⑪ 喉頭の構造を説明できる。
- ⑫ 顎関節の構造と機能を概説できる。
- ⑬ 鼻腔と副鼻腔の構造を概説できる。
- ⑭ 下顎の運動を概説できる。
- ⑮ 咀嚼の意義を説明できる。
- ⑯ 摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。
- ⑰ 口腔粘膜の分類と特徴を部位ごとに説明できる。
- ⑱ 舌の構造と機能を説明できる。
- ⑲ 味覚器の構造と味覚を説明できる。
- ⑳ 唾液腺の位置と構造を説明できる。
- ㉑ 唾液の性状と役割を説明できる。
- ㉒ 吸啜と嘔吐を概説できる。
- ㉓ 発声・構音器官としての口腔を概説できる。

2) 歯と歯周組織の構造と機能

- ① 歯と歯周組織の発生を概説できる。
- ② 歯の萌出と交換を概説できる。
- ③ 歯種別の形態と特徴を説明できる(歯式を含む)。
- ④ 永久歯と比較した乳歯の特徴が説明できる。
- ⑤ 歯の硬組織の組織学的構造と機能を説明できる。
- ⑥ 歯髓の組織学的構造と機能を説明できる。
- ⑦ 歯周組織の組織学的構造と機能を説明できる。
- ⑧ 歯列と咬合を概説できる。

- ⑨ 歯と口腔粘膜の感覚を概説できる。
- ⑩ 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。

2. 口腔の代謝と機能(口腔生化学)

…生化学(栄養指導学Ⅲ)3年

【一般目標】:口腔における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、口腔における物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 歯と歯周組織の生化学

- ① 結合組織の組成と機能を説明できる。
- ② 主な細胞外マトリックスの構造と機能、合成と分解を説明できる。
- ③ ヒドロキシアパタイトなどを含む歯の無機成分を説明できる。
- ④ 歯の有機成分を説明できる。

2) 硬組織の生化学

- ① 血清中のカルシウムとリン酸の濃度を説明できる。
- ② 歯と骨の石灰化の仕組みを概説できる。
- ③ 血清カルシウム調節を説明できる。
- ④ 歯の脱灰と再石灰化を説明できる。

3) 唾液の生化学

- ① 唾液中の無機質と有機質の種類を列挙できる。
- ② 唾液中の無機質の作用を説明できる。
- ③ 唾液中の有機質の作用を説明できる。

C. 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

1. 病因と病態(病理学分野)…病理学 1年

【一般目標】:口腔領域に発生する疾病の発生機序及び病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 細胞・組織の傷害

- ① 細胞・組織の変性、萎縮、細胞死を概説できる。
- ② 壊死(ネクロシス)とアポトーシスの違いを説明できる。
- ③ 代謝障害を概説できる。

2) 増殖と修復

- ① 肥大、増生、化生、再生を概説できる。
- ② 創傷の治癒過程を説明できる。
- ③ 異物の処理を説明できる(器質化を含む)。
- ④ 肉芽組織とその構成成分を説明できる。

3) 循環障害

- ① 虚血、充血、うっ血の違いを説明できる。
- ② 出血の原因、種類、転帰を説明できる。
- ③ 血栓、塞栓の形成機序、転帰を概説できる。
- ④ 梗塞の成因、転帰を概説できる。
- ⑤ 浮腫の原因、症状、転帰を説明できる。
- ⑥ 一次性ショックと二次性ショックの違いを説明できる。

4) 炎症

- ① 炎症の定義を説明できる。
- ② 炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。
- ③ 炎症を分類できる。
- ④ 滲出性炎とその経時的変化を概説できる。
- ⑤ 増殖性炎、肉芽腫性炎とその経時的変化を概説できる。
- ⑥ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の違いを説明できる。

5) 免疫異常と移植→微生物学(感染と免疫)

- ① 免疫異常を概説できる。
- ② 移植免疫を概説できる。

6) 腫瘍

- ① 腫瘍の定義を説明できる。
- ② 腫瘍の病因と進展を概説できる。
- ③ 腫瘍の局所での増殖、浸潤、再発、転移を概説できる。
- ④ 腫瘍を分類できる。
- ⑤ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる。
- ⑥ 前癌病変を概説できる。

7) 口腔領域の疾患

- ① 歯の发育障害の種類と病態を概説できる。
- ② 歯の損傷と色の異常を概説できる。
- ③ デンタルプラーク、歯石の形成とその為害性を説明できる。
- ④ う蝕の病因と病態を説明できる。
- ⑤ う蝕を組織学的に分類し、その特徴を説明できる。
- ⑥ 酸蝕症の病因や病態を説明できる。
- ⑦ 歯頸部知覚過敏症の病因や病態を説明できる。
- ⑧ 歯髄疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑨ 歯髄炎を分類し、その特徴を説明できる。
- ⑩ 根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑪ 根尖性歯周炎を分類し、その特徴を説明できる。
- ⑫ 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑬ 歯周疾患を分類し、その特徴を説明できる。
- ⑭ 抜歯創の治療過程を説明できる。
- ⑮ 口腔粘膜疾患の種類と特徴を概説できる。
- ⑯ 口腔領域の嚢胞を概説できる(歯源性嚢胞を含む)。
- ⑰ 口腔領域の腫瘍を概説できる(歯源性腫瘍を含む)。
- ⑱ 唾液腺疾患を概説できる。

2. 感染と免疫(微生物学分野)・・・微生物学 1 年

【一般目標】: 口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 感染

- ① 感染と発症を説明できる。
- ② 微生物の感染機構と病原性を概説できる。
- ③ 宿主の抵抗性を概説できる。

- ④ 感染の種類と経路をあげ、概説できる。
- ⑤ 細菌、ウイルスその他微生物の形態学的特徴と基本的性状を概説できる(プリオン含む)。
- ⑥ 滅菌・消毒の意義と原理を説明できる。
- ⑦ 院内感染の原因と予防法を説明できる。
- ⑧ 化学療法の目的と原理を説明できる。
- ⑨ 微生物の培養と観察法を概説できる。

2) 免疫

- ① 自然免疫と獲得免疫を説明できる。
- ② 液性免疫と細胞性免疫を説明できる。
- ③ 免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。
- ④ 抗原抗体反応を説明できる。
- ⑤ ワクチンを説明できる。
- ⑥ アレルギーを概説できる。

3) 口腔微生物

- ① 微生物と口腔環境の関わりを説明できる。
- ② 口腔常在微生物を概説できる。
- ③ バイオフィームとしてのデンタルプラーク形成機序を説明できる。
- ④ バイオフィーム感染症を概説できる。
- ⑤ う蝕原因菌を概説できる。
- ⑥ 歯周病原菌を概説できる。

3. 疾病の回復を促進する薬(薬理学分野)

・・・薬理学・歯科薬理学 1 年

【一般目標】: 薬物の性質、薬理作用、作用機序及び副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 医薬品等の分類

- ① 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(医薬品医療機器等法)を概説できる。
- ② 日本薬局方を概説できる。
- ③ 医薬品(和漢薬を含む)、医薬部外品、化粧品を分類して説明できる。
- ④ 毒薬、劇薬及び麻薬などの表示と保管を説明できる。

2) 医療と薬物

- ① 薬物療法(原因療法、対症療法)を説明できる。
- ② 薬理作用の基本形式と分類を説明できる。

3) 身体と薬物

- ① 薬物の作用機序を説明できる。
- ② 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。
- ③ 薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)を説明できる。
- ④ 薬理作用を規定する要因(用量、作用、感受性)を説明できる。
- ⑤ 薬物の併用による相互作用(協力作用、拮抗作用)を説明できる。
- ⑥ 薬物の連用の影響(薬物耐性、蓄積及び薬物依存)を説明できる。

る。

- ⑦ 妊産婦・小児・高齢者への薬物投与の特徴を説明できる。
- ⑧ 薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
- ⑨ 医療安全管理と対策を概説できる。

4) 薬物の取り扱い

- ① 処方せん(箋)の記載事項を概説できる。
- ② 薬物の保存方法を説明できる。
- ③ 薬物の剤形を説明できる。

5) 中枢神経系と薬物

- ① 主な中枢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

6) 末梢神経系と薬物

- ① 主な末梢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② 主な局所麻酔薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

7) 痛みと薬物

- ① 主な鎮痛薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

8) 抗炎症薬

- ① 炎症のメカニズムを概説できる。
- ② 主な抗炎症薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

9) 呼吸器・消化器・循環器系と薬物

- ① 呼吸器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② 消化器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ③ 循環器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

10) 血液と薬物

- ① 血液凝固の過程を概説できる。
- ② 主な止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

11) 感染症と薬物

- ① 感染症を概説できる。
- ② 主な抗感染薬と消毒薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

12) 免疫と薬物

- ① 主な免疫抑制薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

13) 代謝性疾患と薬物

- ① 糖尿病治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② 骨粗鬆症治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

- ③ 脂質異常症治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

14) 悪性腫瘍と薬物

- ① 主な抗悪性腫瘍薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

15) 歯・歯髄疾患と薬物

- ① 歯・歯髄疾患の治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

16) 歯周疾患と薬物

- ① 歯周治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② 歯周疾患の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

17) 服薬指導

- ① 服薬に関する一般的事項を説明できる。
- ② 対象者別の服薬指導を説明できる。

D. 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

1. 健康を左右する環境(保健生態学:衛生学)

…公衆衛生学Ⅰ(環境保健)2年

【一般目標】:個人と集団に対する健康障害を予防するために、健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1) 総論

- ① 健康の定義と国民の権利を説明できる。
- ② 健康づくりの理念を説明できる。
- ③ 社会環境(QOL・ノーマライゼーション・国際生活機能分類(ICF)・ソーシャルキャピタル)の理念を説明できる。
- ④ 第一次予防、第二次予防及び第三次予防を説明できる。
- ⑤ 健康とライフスタイルの関係を説明できる。

2) 疫学

- ① 疫学の定義を説明できる。
- ② 疾病や異常の発生要因(因子)を列挙できる。
- ③ 健康・疾病・異常・流行を表す指標を列挙できる。
- ④ 疫学研究の方法を説明できる。
- ⑤ 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる。
- ⑥ スクリーニング検査の概念と指標を説明できる。

3) 人口

- ① わが国と世界における人口の現状と推移を概説できる。
- ② 人口統計における静態統計と動態統計を説明できる。
- ③ 人口構造を人口ピラミッドや各種指標を用いて説明できる。
- ④ 生命表の概要を理解して日本人の平均寿命の動向を説明

できる。

4)健康と環境

- ① 人間と環境の関係を説明できる。
- ② 健康と環境の関係を説明できる。
- ③ 地球環境の変化とその対応を説明できる。
- ④ 公害問題とその原因物質を列挙できる。
- ⑤ 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。
- ⑥ 持続可能な開発目標(SDGs)と健康の関係を概説できる。

5)感染症

- ① 感染症の概念と感染成立の三要因を説明できる。
- ② 感染予防・流行防止の概念と対策を説明できる。
- ③ 感染症の分類とその内容を説明できる。
- ④ 主な感染症とその動向を説明できる。

6)食品と健康

- ① わが国の食中毒の発生状況を説明できる。
- ② 食中毒の分類と特徴を説明できる。
- ③ 食品の安全性確保のための方策を列挙できる。
- ④ 食に関するわが国の政策を概説できる。

2. 歯・口腔の健康と予防(保健生態学:口腔衛生学)

…口腔衛生学 1年(総論) 2年(各論)

【一般目標】:歯科疾患を予防するために、歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1)総論

- ① 口腔の健康の定義を説明できる。
- ② 口腔と全身の健康の関係を説明できる。
- ③ 歯・口腔の健康を保持・増進する手段を概説できる。
- ④ 歯・口腔の形成及び発育・発達とその異常と変化を説明できる。
- ⑤ 歯・口腔の機能を説明できる。
- ⑥ 唾液の作用を説明できる。
- ⑦ 歯・口腔の付着物と沈着物を説明できる。

2)口腔清掃

- ① 口腔清掃の意義を説明できる。
- ② 口腔清掃法の種類を列挙できる。
- ③ 口腔清掃用具の種類と特徴を説明できる。
- ④ 不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を列挙できる。
- ⑤ 歯磨剤の種類と組成及びその配合目的を説明できる。
- ⑥ 洗口剤の種類と組成及びその配合目的を説明できる。

3)歯科疾患の疫学

- ① う蝕の疫学的特性を概説できる。
- ② 歯周病の疫学的特性を概説できる。
- ③ その他の歯科疾患の疫学的特性を概説できる。

4)う蝕の予防

- ① う蝕の発生と進行のメカニズムを説明できる。
- ② う蝕の発生要因(宿主・口腔細菌叢・食事性基質)を説明できる。
- ③ う蝕の社会経済的要因について概説できる。
- ④ う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。
- ⑤ リスクに応じたう蝕予防法を列挙できる。
- ⑥ う蝕の第一次予防と第二次予防及び第三次予防を説明できる。

5)フッ化物によるう蝕予防

- ① 人間生態系におけるフッ化物の位置づけを説明できる。
- ② 生体におけるフッ化物の代謝を説明できる。
- ③ フッ化物の毒性を理解し、緊急時の対処法を説明できる。
- ④ フッ化物応用によるう蝕予防法を列挙できる。
- ⑤ フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明できる。

6)歯周病の予防

- ① 歯周病の種類と発生のメカニズムを説明できる。
- ② 歯周病の炎症の広がりや症状を説明できる。
- ③ 歯周病のリスクファクターを列挙できる。
- ④ 歯周病と全身の関係を説明できる。
- ⑤ 歯周病予防の第一次予防と第二次予防及び第三次予防を説明できる。

7)その他の疾患・異常の予防

- ① 口内炎の要因と予防を説明できる。
- ② 口腔癌の要因と予防を説明できる。
- ③ 不正咬合の要因と予防を説明できる。
- ④ 顎関節症の要因と予防を説明できる。
- ⑤ 歯の着色・変色の要因と予防を説明できる。
- ⑥ 口臭の要因と予防を説明できる。
- ⑦ 口腔乾燥症の要因と予防を説明できる。
- ⑧ 歯の損耗(Tooth wear)の要因と予防を説明できる。
- ⑨ 歯・口腔の外傷の要因と予防を説明できる。
- ⑩ 口腔機能低下症の要因と予防を説明できる。

3. 健康に関わる地域の役割

(保健生態学:地域保健学、公衆衛生学)

…公衆衛生学Ⅱ(地域保健) 2年

【一般目標】:地域集団に対する疾病を予防するために、生活と健康に関わる社会の仕組みと、地域社会における保健対策を理解し、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を習得する。

【到達目標】

1)地域保健・公衆衛生総論

- ① 地域保健の意義と概念を概説できる。
- ② ヘルスプロモーションやハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチなどの地域保健活動の概念を概説できる。
- ③ 地域保健を担う組織とその役割を概説できる。

- ④ 地域保健活動の基本的な進め方を概説できる。
- ⑤ 口腔保健の地域特性を説明できる。
- ⑥ 地域口腔保健活動の進め方を説明できる。
- ⑦ わが国の保健医療計画を説明できる。
- ⑧ わが国の健康づくり対策の変遷と現状を説明できる。
- ⑨ わが国の口腔の健康づくり対策の変遷と現状を説明できる。

2) 母子保健

- ① 母子保健の意義を説明できる。
- ② 母子保健の対象者を挙げて説明できる。
- ③ わが国の母子歯科保健活動と対策を概説できる。
- ④ 母子健康手帳の口腔保健関係欄を説明できる。
- ⑤ 1歳6か月児・3歳児歯科健康診査と保健指導の内容を説明できる。
- ⑥ 妊産婦・乳幼児歯科健康診査と保健指導の内容を説明できる。

3) 学校保健

- ① 学校保健の意義を説明できる。
- ② 学校保健の対象者を挙げて説明できる。
- ③ 学校保健統計調査の結果を説明できる。
- ④ 学校保健を担う組織とその役割を概説できる。
- ⑤ 学校保健の領域構造を概説できる。
- ⑥ 学校における健康診断を概説できる。
- ⑦ 学校歯科健康診断の検査と、事後措置の内容を説明できる。
- ⑧ わが国の学校保健安全活動と対策について説明できる。

4) 成人保健

- ① 成人保健の意義を説明できる。
- ② 成人保健活動と対策を説明できる。

5) 産業保健

- ① 産業保健の意義を説明できる。
- ② 職業性疾患の要因を挙げて説明できる。
- ③ 産業保健における安全衛生管理体制を説明できる。
- ④ 産業保健活動と対策を説明できる。
- ⑤ 職場における健康診断の種類と事後措置を説明できる。
- ⑥ 職業性歯科疾病と特殊健康診断を説明できる。
- ⑦ トータルヘルスプロモーションプラン(THP)を概説できる。

6) 高齢者保健

- ① 高齢者保健の意義を説明できる。
- ② わが国の高齢者の保健福祉活動と対策を説明できる。
- ③ 介護保険制度を概説できる。
- ④ 介護保険制度と歯科衛生士の関わりを説明できる。
- ⑤ 要介護者の保健福祉対策(新オレンジプランを含む)を説明できる。
- ⑥ 地域包括ケアシステム(地域における保健・医療・福祉・介護の連携)を概説できる。

7) 障害者保健

- ① 障害者保健の意義を説明できる。
- ② 障害者の歯科保健の問題を概説できる。
- ③ わが国の障害者保健福祉活動と対策を説明できる。

8) 精神保健

- ① 精神保健の意義を説明できる。
- ② 精神障害者の歯科保健の問題を概説できる。
- ③ わが国の精神保健活動と対策を概説できる。

9) 災害時の保健医療活動

- ① 大規模災害時の保健医療対策を概説できる。
- ② 被災地での歯科保健活動を概説できる。

10) 国際保健

- ① 国際保健を担う国際機関の種類と活動を概説できる。
- ② 国際協力と国際交流を説明できる。
- ③ 世界の健康水準と口腔保健の現状を概説できる。
- ④ 世界の口腔保健従事者を説明できる。
- ⑤ 世界及びわが国の歯科保健医療活動を概説できる。
- ⑥ 開発途上国への歯科保健医療協力を概説できる。

4. 歯科衛生士と法律・制度(医事法制・社会歯科学)

…衛生行政・社会福祉 2年

【一般目標】:適切な歯科衛生を行うために、日本の保健・医療・福祉の制度と医事法制を理解し、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。

1) 医療と社会環境

- ① 日本の医療制度を概説できる。
- ② 国民医療費など医療経済の動向を説明できる。
- ③ 医療施設・医療従事者の現況を説明できる。
- ④ 歯科衛生士・歯科医師・歯科技工士の業務を説明できる。

2) 歯科衛生士と法律

- ① 歯科衛生士法の成り立ちと目的を説明できる。
- ② 歯科衛生士法による歯科衛生士業務を説明できる。
- ③ 歯科衛生士法による歯科衛生士の義務・責務を説明できる。
- ⑤ 歯科医師法及び歯科技工士法による歯科医師ならびに歯科技工士の義務と責務を説明できる。
- ⑥ 医療法の成り立ちと目的を説明できる。
- ⑦ 医療法による遵守事項を説明できる。

3) 医療関係職種

- ① 歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を列挙できる。
- ② 保健師助産師看護師法の概要と診療の補助を概説できる。
- ③ 診療放射線技師と言語聴覚士の業務の概略を概説できる。
- ④ 医師法と薬剤師法の概略を概説できる。

4) その他の関係法規

- ① 業事に関係する衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。

② 地域保健に関係する衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。

5) 社会保障と社会福祉

- ① わが国の社会保障制度の種類を列挙できる。
- ② 社会保険の種類とその特徴を説明できる。
- ③ 医療保険の種類とその仕組みを説明できる。
- ④ 介護保険制度の仕組みを概説できる。
- ⑤ わが国の社会福祉制度を説明できる。

5. 保健情報と衛生統計…歯科統計学 2 年

【一般目標】：個人及び集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。

【到達目標】

1) 保健情報と保健統計

- ① データと情報の違いを説明できる。
- ② 根拠に基づいた医療 (EBM (evidence-based medicine)) を説明できる。
- ③ 国家保健統計 (歯科疾患実態調査等) を説明できる。

2) 歯科疾患の疫学

- ① う蝕の疫学を概説できる。
- ② 歯周病の疫学を概説できる。
- ③ その他の歯科疾患の疫学を概説できる。

3) 歯科疾患の指標

- ① 歯科疾患の指標を列挙できる。
- ② う蝕の指標を説明できる。
- ③ 歯周病の指標を説明できる。
- ④ 口腔清掃状態の指標を説明できる。
- ⑤ 口腔機能の指標を説明できる。
- ⑥ 歯のフッ素症の指標を説明できる。
- ⑦ 不正咬合の指標を説明できる。

4) 保健情報の分析手順

- ① 保健情報の収集方法を説明できる。
- ② 保健調査の基本を説明できる。
- ③ 質問紙作成法の基本を説明できる。
- ④ 母集団と標本を説明できる。
- ⑤ 標本抽出法を説明できる。

5) 保健統計の方法

- ① データの特徴を説明できる。
- ② データの代表値や散布度を選択できる。
- ③ データの分析法を選択できる。
- ④ 交絡因子を説明できる。

6) 保健情報の分析演習

- ① 検定の流れを説明できる。
- ② 標本平均値の差の検定を説明できる。

③ カイ二乗検定を説明できる。

④ 図表の種類と特徴を列挙できる。

⑤ 図表作成の基本事項を列挙できる。

⑥ 図表を作成できる。

7) 情報の保護と倫理

- ① 情報の特性を概説できる。
- ② 情報を得る手順を列挙できる。
- ③ 個人情報の扱い (個人情報保護) を説明できる。
- ④ インターネットと情報モラルを概説できる。

専門分野

A. 歯科衛生学総論 (歯科衛生士概論)

1. 歯科衛生学総論…歯科衛生士概論 1 年

【一般目標】：人びとの健康づくりを支援するために、口腔健康管理を担う専門職としての基本的態度を理解し、関連する知識・技術・態度を身につけるために論理的な思考の基礎を習得する。

【到達目標】

- ① 歯科衛生学を概説できる。
- ② 口腔健康管理の意義を説明できる。
- ③ 歯科衛生士法を説明できる。
- ④ クリティカルシンキングの意義を説明できる。
- ⑤ 健康づくりを支援する歯科衛生士の役割を説明できる。
- ⑥ 患者の権利と医療の責務を説明できる。
- ⑦ インフォームド・コンセントを説明できる。
- ⑧ 歯科衛生士の倫理綱領を概説できる。
- ⑨ 歯科衛生士の専門性 (プロフェッショナリズム) を概説できる。
- ⑩ コミュニケーションスキルの必要性を説明できる。

2. 歯科衛生実践の進め方

…歯科衛生士概論 1 年、歯科医療倫理学 3 年

【一般目標】：対象者の歯科衛生ニーズにあった支援をするために、論理的な思考を基に、問題発見及び解決するための過程を把握し、歯科衛生実践に必要な医療安全管理の概要を理解する。

【到達目標】

1) 歯科衛生過程

- ① 歯科衛生実践を進めるための理論を説明できる。
- ② 歯科衛生過程の構成要素とその意味を説明できる。
- ③ 歯科衛生アセスメントを説明できる。
- ④ 歯科衛生診断を説明できる。
- ⑤ 歯科衛生計画を説明できる。
- ⑥ 歯科衛生介入を説明できる。
- ⑦ 歯科衛生過程における評価を説明できる。
- ⑧ 歯科衛生業務記録と情報提供文書の意義を説明できる。

2) 医療安全管理

- ① 医療事故の発生要因と防止策を説明できる。
- ② 感染予防対策の必要性と方略を説明できる。
- ③ 医療安全管理における歯科衛生士の役割を説明できる。

3) 保健・医療・福祉におけるチームアプローチ

- ① チーム医療の定義と必要性を説明できる。
- ② 保健・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる。
- ③ 地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を説明できる。

B. 臨床歯科医学

1. 臨床歯科総論

…歯科臨床概論 1年、歯科放射線学 1年、臨床検査学 1年

【一般目標】:患者の全身状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断及び歯科衛生業務に必要な検査(口腔内検査、顎口腔機能検査、画像検査)及び全身の一般臨床検査の意義と関連を理解する。

1) 全身疾患と歯科治療

【到達目標】

- ① 医療情報収集の意義を説明できる。
- ② 医療面接の方法及び照会状の目的を説明できる。
- ③ 歯科治療にあたり留意すべき主な全身疾患と偶発症の予防を説明できる。
- ④ バイタルサインのモニタリングを説明できる。

2) 口腔内検査・顎口腔機能検査

【到達目標】

- ① 歯・歯髄・歯周組織の検査に必要な器具・検査の意義を説明できる。
- ② 歯列・咬合、下顎運動、筋機能、咀嚼機能検査の意義を説明できる。
- ③ 舌運動・舌圧検査、唾液検査、摂食嚥下機能検査の意義を説明できる。
- ④ 構音機能検査、味覚検査、口臭検査、微生物学的検査、病理学的検査の意義を説明できる。

3) 画像検査(歯科放射線学)

【到達目標】

- ① 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。
- ② エックス線画像の形成原理を概説できる。
- ③ 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる。
- ④ 口内法ならびにパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。
- ⑤ 口内法エックス線写真とパノラマエックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる。
- ⑥ う蝕と歯周病及び顎骨に生じる病変(嚢胞、腫瘍、炎症等)のエックス線学的所見を概説できる。
- ⑦ 超音波検査、CT(CBCT)及びMRIの原理と特徴を概説できる。
- ⑧ 嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査の所見を概説できる。

4) 一般臨床検査(臨床検査学)

【到達目標】

- ① 一般臨床検査の目的を説明できる。

- ② 検査の倫理と安全性を説明できる。
- ③ 生体検査及び検体検査の種類と意義を説明できる。

2. 歯・歯髄組織の疾患と治療(保存修復学・歯内療法学)

…保存修復学・歯内療法学 2年

【一般目標】:歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法及び治療法を理解する。

【到達目標】

- ① 歯の硬組織疾患の種類と成因、予防法、処置法を説明できる。
- ② う蝕治療の流れ、また前準備の概要を説明できる。
- ③ 窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。
- ④ 修復処置に使用する器材の概要を説明できる。
- ⑤ 修復法の種類(直接修復・間接修復)と特徴を説明できる。
- ⑥ 歯の切削器械・器具の種類と特徴を説明できる。
- ⑦ 歯の変色の原因と処置法(歯の漂白)を説明できる。
- ⑧ Minimal Intervention Dentistry (MID)の意義を説明できる。
- ⑨ 象牙質知覚過敏症の症状と原因、処置法を説明できる。
- ⑩ 修復処置後の不快事項とメンテナンス、及び補修修復について説明できる。
- ⑪ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の成因、分類と症状・検査法を説明できる。
- ⑫ 歯髄の保存療法(覆髄法)を説明できる。
- ⑬ 歯髄の除去療法を説明できる。
- ⑭ 根尖性歯周組織疾患(感染根管)を説明できる。
- ⑮ 根管治療に用いる器材の使用法を説明できる。
- ⑯ 根管充填法を説明できる。
- ⑰ 根未完成歯の処置法を説明できる。
- ⑱ 外科的歯内療法の種類・適応症及び処置法を説明できる。
- ⑲ 外傷歯の治療法を説明できる。
- ⑳ 歯内療法における偶発事故とその防止策を説明できる。

3. 歯周組織の疾患と治療(歯周病学)…歯周治療学 1年 2年

【一般目標】:歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法及び治療法を理解する。

【到達目標】

- ① 歯周病の種類と症状を説明できる。
- ② 歯周治療の流れを説明できる。
- ③ 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。
- ④ 歯周基本治療の術式と適応症を説明できる。
- ⑤ 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。
- ⑥ 口腔機能回復治療の概要を説明できる。
- ⑦ 歯周治療後の再評価ができる。
- ⑧ 歯周治療後のメンテナンス(SPT)を説明できる。

4. 咀嚼障害・咬合異常(歯科補綴学)…歯科補綴学 2年 3年

【一般目標】:歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。

【到達目標】

- ① 現在歯や欠損部位の歯列・咬合の位置、下顎運動とその機能及び加齢による変化を説明できる。
- ② 補綴装置の種類と適応を説明できる。
- ③ 補綴治療に用いられる器材を説明できる。
- ④ 補綴装置の支持装置と把持装置及び維持装置を説明できる。
- ⑤ 義歯の調整・リライニング・リベース・修理を概説できる。
- ⑥ ブリッジの特徴と構成を説明できる。
- ⑦ 支台装置とポンティックの選択と特徴を概説できる。
- ⑧ プロビジョナルレストレーション(テンポラリークラウン・ブリッジ)を概説できる。
- ⑨ 補綴治療の流れを概説できる。
- ⑩ 補綴装置製作のための印象採得に用いる材料と取扱い方を説明できる。
- ⑪ 補綴装置製作のための咬合採得に用いる材料と取扱い方を説明できる。
- ⑫ CAD/CAMシステムによる治療の流れを概説できる。
- ⑬ インプラント義歯の特徴と構成を説明できる。
- ⑭ 補綴処置後におけるリコールとメンテナンスの重要性を説明できる。

5. 顎口腔領域の疾患と治療(口腔外科学) …口腔外科学 2年 3年

【一般目標】: 歯科衛生業務を行うために必要な、顎口腔領域に生じる各種疾患の特徴や症状、診断法及び治療法を理解する。

【到達目標】

- ① 顎口腔領域に生じる各種疾患を分類できる。
- ② 先天異常(口唇・口蓋裂など)と発育異常(顎変形症など)の症状と治療法を概説できる。
- ③ 歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折及び軟組織損傷の症状と治療法を概説できる。
- ④ 各種口腔粘膜疾患の種類と症状及び治療法を概説できる。
- ⑤ 歯槽部、顎骨及び周囲組織の炎症(菌性感染)の原因、感染経路と症状及び治療法を概説できる。
- ⑥ 顎骨及び口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状及び治療法を概説できる。
- ⑦ 顎口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状及び治療法を概説できる。
- ⑧ 顎関節疾患(脱臼、顎関節症、顎関節強直症など)の症状と治療法を概説できる。
- ⑨ 唾液腺疾患(唾液腺炎、流行性耳下腺炎、唾石症、唾液腺腫瘍)の症状と治療法を概説できる。
- ⑩ 顎口腔領域の神経疾患(三叉神経痛、三叉神経麻痺、顔面神経麻痺、舌痛症、オーラルディスキネジアなど)の症状を概説できる。
- ⑪ 口腔に症状を現す血液疾患(貧血、白血病、血友病、特発性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固亢進症候群[DIC]など)の特徴を概説できる。
- ⑫ 口腔(歯科)心身症(舌痛症、歯科治療恐怖症など)の特徴を概説できる。
- ⑬ 抜歯・口腔外科小手術(消炎手術、止血処置、歯槽骨整形術、根尖切除術、嚢胞摘出術・嚢胞開窓術、骨折手術、口腔インプラン

ト手術)の手順を説明できる。

- ⑭ 抜歯の適応と禁忌を概説できる。
- ⑮ 抜歯・口腔外科小手術の術中・術後の局所的偶発症及び術後の注意を説明できる。
- ⑯ 顎口腔領域の周術期(放射線治療、化学療法を含む)の口腔健康管理を説明できる。

6. 歯科麻酔と全身管理(歯科麻酔学)…口腔外科学 3年

【一般目標】: 歯科衛生業務を行うために必要な全身管理ならびに局所麻酔、精神鎮静法及び全身麻酔を理解する。

【到達目標】

- ① 局所麻酔の種類と目的ならびに全身的・局所的偶発症を説明できる。
- ② バイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度[SpO₂]、意識レベルを説明できる。
- ③ 局所麻酔法と施術時の注意点を説明できる。
- ④ 歯科治療時の全身的偶発症(神経性ショック、過換気症候群、アナフィラキシーショック、低血糖発作、高血圧緊急症、脳血管障害、誤飲・誤嚥)とその対応を説明できる。
- ⑤ 精神鎮静法の適応症と種類を説明できる。
- ⑥ 全身麻酔の適応症と種類を概説できる。

7. 小児の理解と歯科治療(小児歯科学)…小児歯科学 2年

【一般目標】: 歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。

【到達目標】

- ① 小児の身体発育と精神発達を説明できる。
- ② 歯列及び咬合の発育と口腔機能の発達を説明できる。
- ③ 小児の行動の特徴や情動の変化と歯科的対応について説明できる。
- ④ 乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴と予防法を説明できる。
- ⑤ 小児の歯周病について説明できる。
- ⑥ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる。
- ⑦ 小児の口腔外科的疾患と処置法を説明できる。
- ⑧ 小児の歯の外傷の種類と処置法を説明できる。
- ⑨ 咬合誘導の概念ならびに保険装置の種類、適応症及び留意点を説明できる。
- ⑩ 口腔機能発達不全症の評価法と対応について説明できる。

8. 不正咬合と治療(矯正歯科学)…歯科矯正学 2年 3年

【一般目標】: 歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状及び矯正治療を理解する。

【到達目標】

- ① 顎顔面及び歯・歯列の成長発育とその評価法を説明できる。
- ② 正常咬合の成立条件と種類を説明できる。
- ③ 不正咬合の種類を説明し、その原因を列挙できる。
- ④ 不正咬合による障害を説明できる。
- ⑤ 矯正歯科治療の検査と治療の流れを説明できる。
- ⑥ 矯正力と歯の移動様式及び固定、保定について説明できる。

- ⑦ 矯正装置の種類と使用目的を説明できる。
- ⑧ 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。
- ⑨ 矯正治療前、治療中及び保定期間における口腔健康管理及び口腔筋機能療法を説明できる。

9. 高齢者の理解と歯科治療(高齢者歯科学)

…高齢者歯科学 3年

【一般目標】: 歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。

【到達目標】

- ① 人口の超高齢化による社会環境の変化を説明できる。
- ② 高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。
- ③ 全身及び口腔の加齢と老化を説明できる。
- ④ サルコペニアとフレイルを説明できる。
- ⑤ 高齢者の生活機能を低下させる全身疾患を説明できる。
- ⑥ 高齢者の歯科治療時に注意すべき全身疾患を説明できる。
- ⑦ 高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる。
- ⑧ 歯科訪問診療を説明できる。
- ⑨ 高齢者の摂食嚥下障害の原因と症状を説明できる。
- ⑩ 口腔機能低下症の評価法とその対応について説明できる。
- ⑪ 高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる。

10. 障害児者の理解と歯科治療(障害者歯科学)

…障害者歯科学 2年

【一般目標】: 歯科衛生業務を行うために必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。

【到達目標】

- ① 障害者の概念が説明できる。
- ② 障害児者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。
- ③ 障害児者の保健・医療・福祉制度を説明できる。
- ④ 障害の種類・歯科的特徴について説明できる。
- ⑤ 障害児者の歯科治療と特殊性について説明できる。
- ⑥ 障害児者の対応と歯科治療に必要な注意点を説明できる。
- ⑦ 障害児者の口腔衛生管理を説明できる。
- ⑧ 障害児者の摂食嚥下障害と口腔機能管理を説明できる。

C. 歯科予防処置論(*は実習が望ましい項目)

…学習する学年を①・②・③と表記

【一般目標】: 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術及び態度を習得する。

1. 総論

【一般目標】: 歯科予防処置についての専門知識と技術、及び態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要について学ぶ。

【到達目標】

1) 概要

- ① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。①
- ② 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。②
- ③ 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。②
- ④ 歯周病予防を概説できる。①

- ⑤ う蝕予防を概説できる。①

2) 対象者の把握

- ① 歯科予防処置を実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる。②

3) 歯・口腔の健康状態の把握

- ① 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる。①
- ② 歯・口腔の健康状態を把握するための項目を列挙できる。①
- ③ デンタルプラークの形成過程と成分を説明できる。②
- ④ 歯石の形成過程と成分を説明できる。①
- ⑤ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる。②
- ⑥ 歯周病の原因と分類、進行及び予防方法を説明できる。①

4) プラークコントロール

- ① 歯周病予防とプラークコントロールの関係について説明できる。②
- ② う蝕予防とプラークコントロールの関係について説明できる。②

2. 歯周病予防処置

【一般目標】: 歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、及び態度を習得する。

【到達目標】

1) 歯周病の基礎知識

- ① 歯周病と生活習慣の関連を説明できる。①
- ② 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。③

2) 歯周病リスクの情報収集と評価・計画

- ① 口腔内写真・エックス線画像から歯周組織の状態を説明できる。①
- ② プロープの種類と操作方法を説明できる。②
- ③ 歯周病に関連する指標を説明できる。②
- ④ 歯・歯肉・口腔の検査ができる。①
- ⑤ 診査の結果を説明できる。①
- ⑥ 対象者の情報を分析し、歯周病予防計画を立案できる。①

3) スケーリング・ルートプレーニング

- ① スケーラーの種類と使用目的を説明できる。①
- *② シックルタイプスケーラーを操作できる。①
- *③ キュレットタイプスケーラーを操作できる。②
- *④ 超音波スケーラーを操作できる。②
- *⑤ エアースケーラーを操作できる。③
- *⑥ 歯周ポケット内のイリゲーション(洗浄)ができる。③
- *⑦ シャープニングができる。③

4) 歯面清掃・歯面研磨

- ① 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる。②
- ② 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる。②
- ③ 歯面研磨剤の種類と用途を説明できる。②
- *④ 歯面清掃ができる。②

*⑤ 歯面研磨ができる。②

5) SPT(歯周病安定期治療)

- ① SPTの目的を説明できる。③
- ② SPTの処置内容を説明できる。③
- ③ SPT実施時の注意点を説明できる。③

6)メインテナンス

- ① 歯周病におけるメインテナンスの目的を説明できる。②
- ② メインテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。③
- ③ 歯周病のリスクとメインテナンスの必要性を説明できる。③

3. う蝕予防処置

【一般目標】:う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、及び態度を習得する。

【到達目標】

1)基礎知識

- ① う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明できる。①
- ② う蝕と全身疾患の関連を説明できる。①
- ③ う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性、及び便宜性を説明できる。①
- ④ う蝕活動性試験の種類と方法及び判定基準を説明できる。①

2)う蝕リスクの情報収集と評価・計画

- ① う蝕活動性試験を実施できる。③
- ② 対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる。③

3)フッ化物応用によるう蝕予防

(1)フッ化物歯面塗布法

- ① 使用薬剤の種類と濃度、及びその取扱い方を説明できる。②
- ② フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる。②
- ③ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる。②
- *④ フッ化物歯面塗布を実施できる。③
- ⑤ フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。③

(2)フッ化物洗口法

- ① 使用薬剤の種類、濃度及び取扱い方を説明できる。③
- ② 対象年齢と洗口方法を説明できる。②
- ③ フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる。②

(3)フッ化物配合歯磨剤

- ① 配合フッ化物の種類と特徴を説明できる。②
- ② 年齢に応じた使用量を説明できる。②
- ③ フッ化物配合歯磨剤の使用法を説明できる。②

(4)ライフステージに応じたフッ化物応用

- ① ライフステージとリスクに応じたフッ化物応用の方法を説明できる。②

6)小窩裂溝充填塞法

- ① 小窩裂溝充填塞材の種類と特徴を説明できる。③
- ② 小窩裂溝充填塞の適応歯を説明できる。③
- ③ 小窩裂溝充填塞の術式を説明できる。③
- *④ 小窩裂溝充填塞を実施できる。③
- ⑤ 小窩裂溝充填塞実施上の注意点を説明できる。③

7)メインテナンス

- ① う蝕予防処置におけるメインテナンスの目的を説明できる。③
- ② メインテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。③
- ③ う蝕のリスクとメインテナンスの必要性を説明できる。③

D. 歯科保健指導論(*は実習が望ましい項目)

…学習する学年を①・②・③と表記

【一般目標】:健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術及び態度を習得する。

1. 総論

【一般目標】:歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、対象者(個人、集団)の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を学ぶ。

【到達目標】

1)概要

- ① 歯科保健指導の定義と特性を説明できる。①

2)基礎知識

- ① 行動科学の理論やモデルと行動変容を説明できる。②
- ② 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用のポイントを説明できる。②
- ③ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明できる。②

3)歯科衛生過程

- *① 歯科衛生の基礎となる適切なコミュニケーションをとることができる。②
- *② 多面的なアセスメントと歯科衛生ニーズの把握ができる。③
- *③ 歯科衛生計画の立案と計画に基づいた歯科衛生介入ができる。③
- *④ インフォームド・コンセント、インフォームド・アセントができる。③
- *⑤ 歯科衛生介入結果の評価ができる。③
- *⑥ 歯科衛生過程における歯科衛生業務記録ができる。③

2. 情報収集

【一般目標】:歯科保健指導の遂行に必要な、対象者(個人、集団)の情報について収集方法を習得する。

【到達目標】

1)医療面接

- ① 医療面接の概要を説明できる。②

*② 歯科衛生実践への動機づけ面接を説明できる。②

2) 全身の健康状態の把握

① 全体的な健康状態を把握するための項目を説明できる。③

*② 病歴の聴取ができる。③

③ 歯科衛生実践に必要な臨床検査項目を列挙できる。③

*④ 認知状態・精神状態を把握できる。③

*⑤ 生活機能・口腔機能を把握できる。③

⑥ 虐待により生ずる心身の変化を説明できる。③

*⑦ 服薬の把握ができる。③

⑧ ストレスの評価ができる。③

2) 生活環境と生活背景の把握

*① 対象者の生活環境と生活背景を把握できる。③

*② 対象者の生活習慣を把握できる。③

*③ 対象者の日常生活動作を把握できる。③

3) 歯・口腔状態の把握

*① 歯・口腔の疾患及び異常の観察と評価ができる。③

*② 口腔清掃状態の観察とリスク評価ができる。③

*③ 口腔機能のスクリーニングテストとリスク評価ができる。③

④ 虐待の歯科的特徴を説明できる。③

3. 口腔衛生管理

【一般目標】：口腔衛生管理を行うために対象者の問題点を把握し必要な知識、技術及び態度を習得する。

【到達目標】

1) 基礎知識

① 口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。

①

② 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。①

③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。①

2) 指導の要点

*① 口腔衛生状態の背景を説明できる②

*② 口腔衛生状態の問題点を説明できる。②

*③ 口腔衛生改善のための介入計画が立案できる。②

*④ 口腔衛生改善のための介入ができる。③

*⑤ 口腔衛生改善のための評価ができる。③

*⑥ 口腔衛生管理について書面化(業務記録)できる。③

3) リスクに応じた指導法

*① う蝕のリスクに応じた口腔衛生指導ができる。①

*② 歯周病のリスクに応じた口腔衛生指導ができる。①

*③ 不正咬合に応じた口腔衛生指導ができる。①

*④ 義歯装着に応じた口腔衛生指導ができる。①

*⑤ 口臭に関する指導ができる。②

*⑥ 口腔乾燥に関する指導ができる。③

4) 対象別の指導法

① 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健

行動を説明できる。①

*② 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。①

*③ 特別配慮を要する妊産婦・全身疾患患者・周術期患者・障害児者・要介護者・大規模災害被災者に対する口腔衛生指導ができる。

③

4. 生活習慣指導

【一般目標】：生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために対象者の問題点を把握し、専門的知識、技術及び態度を習得する。

【到達目標】

1) 基礎知識

① 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。②

② 非感染性疾患(NCDs)の種類と特徴及び口腔との関連を説明できる。②

③ ストレスマネジメントを説明できる。③

2) 指導の要点

*① 生活習慣状態の背景が説明できる②

*② 生活習慣状態の問題点を説明できる。②

*③ 生活習慣改善のための介入計画が立案できる。③

*④ 生活習慣改善のための介入ができる。③

*⑤ 生活習慣改善のための評価ができる。③

*⑥ 生活習慣指導について書面化(業務記録)できる。③

3) 対象別の指導法

*① 非感染性疾患(NCDs)の症例に合わせた歯科保健指導ができる。②

*② 対象者の疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる。③

*③ 配慮を要する対象者の生活習慣指導ができる。③

④ 禁煙支援ができる。①

5. 食生活指導

【一般目標】：ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、対象者の問題点を把握し専門的知識、技術及び態度を習得する。

【到達目標】

1) 基礎知識

① 食品とう蝕の関連性を説明できる。①

② 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。①

③ う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。①

④ 咀嚼の働きを説明できる。①

⑤ 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連を説明できる。①

2) 指導の要点

*① 食生活・食習慣の背景を説明できる。③

*② 栄養状態を把握し問題点を評価できる。③

*③ 食支援のための介入計画が立案できる。③

- *④ 食支援に必要な歯科衛生介入ができる。③
- *⑤ 食生活改善の取組みとして口腔衛生と口腔機能の関連を説明できる。③
- *⑥ 食生活指導について書面化(業務記録)できる。③

3)対象別の食生活指導

- *① 各ライフステージ別の食生活指導ができる。①
- *② 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。①
- *③ 全身疾患患者・障害児者、要介護者、周術期患者等の食事介助の指導ができる。①
- ④ 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。①

6. 健康教育活動

【一般目標】:健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術及び態度を習得する。

【到達目標】

1)基礎知識

- ① 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。①
- ② 健康教育に必要な情報を収集できる。①
- ③ 健康教育の計画立案ができる。①
- ④ 健康教育の内容を説明できる。①
- ⑤ 健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。①
- ⑥ 健康教育活動の方法を説明できる。①
- ⑦ 健康教育の評価を説明できる。①

2)対象別健康教育

- ① 集団・組織・地域の実態が把握できる。①
- ② 対象者の特性と口腔保健ニーズの把握ができる。①
- ③ 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。②
- ④ 地域歯科保健事業における健康教育ができる。②
- ⑤ 保育所、幼稚園(乳幼児)、認定こども園の口腔保健の実態が把握できる。②
- *⑥ 保育所、幼稚園(乳幼児)、認定こども園を対象とした健康教育ができる。②
- *⑦ 保育所、幼稚園、認定こども園の保育士、教員及び保護者を対象とした健康教育ができる。②
- ⑧ 小学校、中学校、高校(児童・生徒)の口腔保健の実態が把握できる。②
- *⑨ 小学校、中学校、高校(児童・生徒)を対象とした健康教育ができる。②
- *⑩ 小学校、中学校、高校の教員及び保護者を対象とした健康教育ができる。②
- ⑪ 事業所(労働者)の口腔保健の実態が把握できる。③
- *⑫ 事業所の従業者・衛生管理者を対象とした健康教育ができる。③
- *⑬ 要介護者の家族・介護者・施設職員の健康教育ができる。③

E. 歯科診療補助論(*は実習が望ましい項目)

…学習する学年を①・②・③と表記

【一般目標】:さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応す

るために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術及び態度を習得する。

1. 歯科診療補助

【一般目標】:専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術及び態度を習得する。

【到達目標】

1)概要

- ① 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを説明できる。①
- ② 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を説明できる。①
- ③ チーム歯科医療の必要性を説明できる。①
- ④ 歯科訪問診療のための保健・医療・福祉のシステムを概説できる。①

2)情報収集

- ① 医療面接で全身及び口腔の自覚症状を(主観的情報)を読み取ることができる。①
- ② 全身疾患の症状を読み取ることができる。①
- ③ 生体検査の方法と結果を読み取ることができる。①
- ④ 血液検査の結果を読み取ることができる。①
- *⑤ モニター検査の結果を読みとることができる。①
- ⑥ 心身の成長・発達の状態を把握できる。①
- ⑦ 服薬の状態を把握できる。①
- ⑧ 歯科治療に必要な検査で他覚症状(客観的情報)を読み取ることができる。①

3)患者への対応

- *① 全身疾患を考慮した対応ができる(身体機能含む)。①
- *② 高齢者に配慮した対応ができる。①
- *③ 妊産婦に配慮した対応ができる。①
- *④ 通院困難者に配慮した対応ができる。①
- *⑤ 障害に配慮した対応ができる。①
- *⑥ 感染症に配慮した対応ができる。①

4)診療時の共同動作

- *① フォーハンドシステムの基本動作ができる。①
- *② 診療に応じた共同動作ができる。①
- *③ 診療に応じたバキューム操作ができる。①

5)診療設備の管理

- ① 診療設備が整えられる。①
- ② エアーコンプレッサーの管理ができる。①
- *③ 歯科用ユニットの管理ができる。①
- *④ 口腔外バキュームの管理ができる。①
- *⑤ エックス線撮影装置の管理ができる。①
- *⑥ 酸素吸入器の管理ができる。①
- *⑦ レーザー装置の管理ができる。①
- *⑧ 薬品、歯科材料の管理ができる。①

6)医療安全管理

- *① 感染に応じた対応ができる。①

*② スタンダードプレコージョンができる。①

*③ 医療廃棄物の取扱いができる。①

*④ 偶発事故に適切な対応ができる。①

7)消毒・滅菌

① 消毒・滅菌・洗浄を説明できる。①

② 消毒薬、各種滅菌器械・器具を説明できる。①

*③ 消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作・取扱いができる。①

*④ 消毒薬、各種滅菌器械・器具の管理ができる。①

2. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理

…歯科材料学 1年

【一般目標】：歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質及び標準的な使用法を習得する。

【到達目標】

1) 模型用材料

① 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる。①

*② 模型用材料の取扱いができる。①

2) 合着・接着・仮着用材料

① 合着・接着・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる。①

*② 各種合着・接着・仮着用材料の取扱いができる。①

3) 印象用材料

① 印象材の種類と基本的性質を説明できる。①

*② 各種印象材を練和できる。①

*③ 概形印象の採得ができる。①

4) 歯冠修復用材料

① 歯冠修復材の種類と基本的性質を説明できる。①

*② 歯冠修復材の取扱いができる。①

5) 仮封用材料

① 仮封材の種類と基本的性質を説明できる。①

*② 仮封材の取扱いができる。①

6) その他の材料

① ワックスの基本的性質を説明できる。①

② 義歯用材料の基本的性質を説明できる。①

③ インプラント用材料の使用目的を説明できる。①

3. 保存治療時の診療補助

…臨床科目：保存修復学・歯内療法学・歯周治療学 2年

【一般目標】：保存治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する。

【到達目標】

1) 前準備

① 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。②

*② ラバーダム防湿ができる。②

*③ 隔壁法に用いる器具の操作ができる。②

*④ 歯肉排除法に用いる器材の操作・取扱いができる。②

*⑤ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる。②

2) 窩洞形成

① 切削用器械、器具の取扱いと管理ができる。②

3) 直接修復

① コンポジットレジン修復の手順を説明できる。②

*② 歯面処理材料の準備ができる。②

*③ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。②

④ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。②

*⑤ グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる。

②

*⑥ 直接修復治療後の指導ができる。②

4) 間接修復

① インレー修復の手順を説明できる。②

*② インレー修復の準備ができる。②

*③ 合着後の余剰セメントの除去ができる。②

*④ 間接修復治療後の指導ができる。②

5) 歯の漂白

① 漂白法の適応症を説明できる。②

② 漂白法の種類を説明できる。②

③ 漂白法の手順を説明できる。②

④ 漂白法の器材・薬剤の準備ができる。②

*⑤ 漂白後の術後指導ができる。②

6) 歯髄処置

① 歯髄処置の手順を説明できる。②

*② 歯髄処置の薬剤や器材の準備ができる。②

③ 電気歯髄診断器の説明ができる。②

7) 根管処置

① 根管処置の薬剤や器材の取扱い説明ができる。②

② 根管長測定器の取扱い説明ができる。②

③ 根管充填の薬剤や器材の種類と取扱い説明ができる。②

*④ 根管治療後の指導ができる。②

8) 外科的歯内療法

① 外科的歯内療法器材の取扱い説明ができる。②

9) 歯周外科治療

① 歯周外科治療の手順を説明できる。②

② 歯周外科治療の薬剤や器具の取扱い説明ができる。②

*③ 歯周外科治療の補助の概要を説明できる。②

*④ 歯周用パックの取扱いができる。②

*⑤ 歯周外科処置後の指導ができる。②

4. 補綴治療時の診療補助

…臨床科目：歯科補綴学 2年3年

【一般目標】補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順及び器材の使用法を習得する。

【到達目標】

1) 検査

- ① 補綴治療に必要な各種検査を説明できる。①
- ② 補綴治療に用いる各種検査器材の準備ができる。①

2) 印象採得

- ① 印象採得の手順を説明できる。①
- ② 印象採得で用いる器材の準備と取扱いができる。①

3) 咬合採得(顎間関係の記録)

- ① 咬合採得の手順を説明できる。②
- ② 咬合採得で用いる器材の準備と取扱いができる。②
- ③ 咬合床作製の手順を説明できる。②
- ④ 咬合床用材料の性質を説明できる。②
- ⑤ ろう義歯試適の器材の説明ができる。②

4) プロビジョナルレストレーション(テンポラリークラウン、ブリッジ)

- ① プロビジョナルレストレーション(テンポラリークラウン、ブリッジ)の作製手順を説明できる。③
- ② プロビジョナルレストレーション(テンポラリークラウン、ブリッジ)の調整方法を説明できる。③

5) 補綴装置の装着

- *① 床義歯装着時に用いる器材の準備ができる。③
- *② クラウン・ブリッジ装着時に用いる器材の準備ができる。③
- *③ 義歯装着後の指導ができる。③
- *④ インプラント装着後の指導ができる。③

5. 口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助

…臨床科目：口腔外科学 2年3年

【一般目標】口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する。

【到達目標】

1) 抜歯

- ① 手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。③
- *② 抜歯用器材の準備と取扱いができる。③
- *③ 抜歯後の注意を説明できる。③

2) 小手術

- ① 手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。③
- *② 各種小手術に用いる器材の準備と取扱いができる。③
- ③ 各種小手術後の注意を説明できる。③

3) 止血処置

- ① 止血法を説明できる。③
- ② 止血薬の種類を説明できる。③
- *③ 止血薬の取扱いができる。③

4) 縫合

- ① 縫合用器材の種類を説明できる。②
- *② 縫合用器材の準備と取扱いができる。②

5) 麻酔

- *① 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取扱いができる。②
- ② 精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取扱いができる。②
- ③ 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助ができる。②
- ④ 静脈の確保について概説できる。②

6) 周術期の口腔健康管理

- ① 周術期における口腔健康管理の目的を説明できる。③
- ② 周術期における歯科衛生士の役割を説明できる。③
- ③ 周術期口腔機能管理の流れについて概説できる。③
- ④ 化学療法・放射線治療法の有害事象について説明できる。③
- ⑤ 術前・術中・術後の歯科衛生介入に必要な患者情報を説明できる。③
- *⑥ 周術期の口腔衛生管理及び口腔機能管理ができる。③
- ⑦ 歯科衛生介入時の留意点を説明することができる。③

6. 矯正歯科治療の診療補助

…臨床科目：歯科矯正学 2年3年

【一般目標】矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する。

【到達目標】

1) 器具・材料

- ① 矯正歯科用器材の種類を説明できる。③

2) 検査記録

- ① 口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。③
- ② 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる。③
- ③ 矯正用口腔模型の作製法を説明できる。③

3) 装置の装着

- *① 歯面清掃ができる。③
- ② 接着材の種類と用途を説明できる。③
- *③ 接着材の取扱いができる。③
- ④ 帯環(バンド)の種類を説明できる。③
- *⑤ 帯環(バンド)の取扱いができる。③
- ⑥ ワイヤの種類と用途を説明できる。③
- *⑦ ワイヤの取扱いができる。③
- ⑧ ブラケットの種類と用途を説明できる。③
- *⑨ ブラケットの取扱いができる。③
- ⑩ 結紮の方法を説明できる。③
- ⑪ デイボンディングの手順が説明できる。③
- *⑫ 矯正装置装着後の指導ができる。③

4) 装置の撤去

- ① 撤去に必要な器具の種類を説明できる。③

*② 撤去に必要な器具の取扱いができる。③

7. 小児歯科治療時の診療補助

…臨床科目:小児歯科学 2年

【一般目標】:小児歯科治療の補助のために必要な患者対応及び治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する。

【到達目標】

1) 小児の歯科治療

- *① 小児の状態把握と対応ができる。③
- *② 治療に必要な器材・薬剤の準備ができる。③
- *③ ラバーダム防湿ができる。③

2) 妊産婦の歯科治療

- ① 妊産婦の状態把握と対応ができる。③

8. 高齢者歯科治療時の診療補助

…臨床科目:高齢者歯科学 3年

【一般目標】:高齢者歯科治療の補助のために必要な患者対応及び治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する。

【到達目標】

1) 高齢者の歯科治療

- *① 高齢者の状態把握と対応ができる。③
- ② 外来診療と訪問診療の補助を概要できる。③
- ③ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。③
- ④ 口腔衛生管理の概要を説明できる。③

9. 障害児者歯科治療時の診療補助

…臨床科目:障害者歯科学 2年

【一般目標】:障害児者歯科治療の補助のために必要な患者対応、摂食嚥下の検査及び訓練法を習得する。

【到達目標】

1) 障害児者の歯科治療

- *① 障害児者の状態把握と対応ができる。③
- ② 治療前の導入法を説明できる。③
- ③ 治療中の体動の調整法を説明できる。③
- ④ 歯科治療における小児の行動療法について概説できる。③
- ⑤ 外来診療と訪問診療の補助を概説できる。③
- ⑥ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。③
- ⑦ 口腔衛生管理の概要が説明できる。③
- *⑧ 摂食嚥下障害への対応ができる。③

10. エックス線写真撮影時の診療補助

…臨床科目:歯科放射線学 1年

【一般目標】:エックス線写真撮影時の補助のために必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。

【到達目標】

1) 撮影装置と取扱い

- *① エックス線撮影装置の準備ができる。①
- ② 歯科用・パノラマ用撮影装置・デジタル画像システムの取扱いを説明できる。①

2) 口内法撮影

- *① 頭部の固定ができる。①
- *② 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。①
- *③ パノラマエックス線撮影の準備ができる。①

3) 写真の処理と管理

- *① 写真の処理ができる。①
- *② 写真の画像管理ができる。①

4) 放射線の人体への影響と防護

- ① 放射線の人体への影響を説明できる。①
- *② 放射線防護の準備ができる。①
- *③ 患者や術者の放射線防護ができる。①
- *④ 被曝量の測定準備ができる。①

11. 救命救急処置

【一般目標】:救命救急処置のために必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。

【到達目標】

1) 全身管理とモニタリング

- *① バイタルサインの測定ができる。③
- *② 意識レベルの把握ができる。③
- *③ 血圧、脈拍、心機能、呼吸のモニタリングができる。③

2) 救命救急処置

- ① 一次救命処置の手順を説明できる。③
- *② 一次救命処置に用いる器材の準備ができる。③
- ③ 二次救命処置の手順を説明できる。③
- ④ 二次救命処置に用いる器材の準備ができる。③
- *⑤ AEDの取扱いができる。③
- ⑥ 全身的偶発症への対応ができる。③

12. 口腔機能管理(歯科保健指導論から移動)

…臨床科目:障害者歯科・高齢者歯科と保健指導・基礎介護技術

【一般目標】:口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術及び態度を習得する。

【到達目標】

1) 基礎知識

- ① 人体の加齢と老化の特性と機序及び寿命を概説できる。①
- ② 口腔機能管理の目的を概説できる。③
- ③ 口腔機能リハビリテーションを概説できる。③
- ④ 口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を説明できる。③
- ⑤ チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携のあり方を説明できる。③

2) 評価

- *① 口腔機能の現状を把握するための評価ができる。③
- *② 対象者の摂食嚥下状態の評価・検査ができる。③

③ 対象者の歯科治療の要否を概説できる。③

3)機能障害別の対応

*① 口腔機能訓練ができる。③

*② 食事指導・支援や摂食介助ができる。③

③ 嚥下障害・構音障害への対応ができる。③

4)対象別指導

*① ライフステージに応じた口腔機能管理と指導ができる。

*② 配慮を要する人への口腔機能管理と指導ができる。

③ 緩和ケア・ターミナルケアを説明できる。

F. 臨地実習(臨地・臨床実習)

(*は実習が望ましい項目)

1. 歯科臨床の場での歯科衛生実践

【一般目標】: 歯科衛生士の役割を理解するために、病院や診療所などの歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な実践力を身につける。

【到達目標】

1) 対人関係

① 歯科医師からの指導・指示に対応できる。

② スタッフ(他の職種を含む)と協働し、連携のとれた患者への対応ができる。

③ プライバシーに配慮できる。

④ 患者の守秘義務を遵守できる。

2) 診療室の管理

① 診療室のルールを遵守できる。

② 医療安全管理に配慮できる。

③ 感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策ができる。

④ 器材や機器及び薬品を管理できる。

⑤ 患者のデータ管理ができる。

3) 歯科衛生実践

*① 患者のニーズを判断し対応ができる。

*② 歯科衛生過程に基づき歯科衛生計画を立案できる。

*③ 必要なスクリーニング検査及び各種検査を把握して歯科衛生実践ができる。

*④ 歯科衛生を実践するにあたって、その必要性を科学的に説明できる。

*⑤ 必要な情報を収集し、歯科衛生実践ができる。

*⑥ 患者に応じた口腔健康管理ができる。

*⑦ スタッフ(他の職種を含む)と連携して共同動作と必要な対応ができる。

*⑧ 医療チームの一員として、歯科衛生実践ができる。

*⑨ 業務記録を記述できる。

*⑩ カンファレンスで適切に発言できる。

2. 地域保健活動等の場での歯科衛生実践

【一般目標】: 歯科衛生士の役割を理解するために、地域保健活動などの場(保育所・幼稚園・認定こども園・学校及び地域保健・福祉施設)を通して歯科衛生士として必要な実践力を身につける。

【到達目標】

1) 対人関係

① 対象者からのニーズに対応できる。

② 対象者の状況に応じて配慮できる。

③ プライバシーに配慮できる。

④ 対象者の守秘義務を遵守できる。

⑤ スタッフ(他の職種を含む)と協働し、連携のとれた対象者への対応ができる。

2) 施設等の管理(運営)

*① 施設等のルールを遵守できる。

*② 安全管理に配慮できる。

*③ 感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策ができる。

*④ 器材や機器及び薬品を管理できる。

*⑤ 対象者のデータ管理ができる。

3) 歯科衛生実践

*① 対象者のニーズを判断し対応ができる。

*② 指導者からの指導・指示内容を理解した歯科衛生実践ができる。

*③ スタッフ(他の職種を含む)と連携して必要な対応ができる。

*④ 保健チームの一員として、歯科衛生実践ができる。

*⑤ 対象者に応じた口腔健康管理ができる。

*⑥ 集団を対象に健康教育が実践できる

*⑦ 現場に応じた業務記録を記述できる。

*⑧ カンファレンスで適切に発言できる。

G. 歯科衛生学研究

【一般目標】: 保健・医療・福祉に携わる者のアイデンティティーである、歯科衛生学研究への理解や実践を通じて、対象者及び集団に対して適切な歯科衛生を提供するための問題発見・問題解決の手段を学修する。

【到達目標】

① 歯科衛生実践のために研究が必要であることを理解できる。

② 歯科衛生実践時の問題発見とその解決手法を理解できる。

③ 歯科衛生に関する文献や統計資料の検索と解釈ができる。

④ 研究に関する倫理的配慮の必要性が理解できる。

編集後記

1. 口腔の健康が、国民保健の向上に寄与することから、口腔衛生・歯科保健の専門家として歯科衛生士への社会的要請が高まっている。具体的な業務は、患者からの情報収集、各種検査、スケーリング、PMTC、SRP、歯科診療補助といった施術に関連するものと、患者教育、口腔衛生指導、栄養指導、各種説明、意思決定といったモチベーションアップ、コミュニケーションスキルに関連するものに分類される。これら遂行のためには、知識と技術のみならず「考える歯科衛生士」としての態度が求められており、歯科臨床から行動科学まで学習分野は幅広いものとなっている。
2. 「考える歯科衛生士」として、具体的には妊娠・出産・乳幼児期からの食育、歯科保健教育、定期的な歯科予防処置の実践、企業や学校等での歯科保健推進、高齢者の地域包括ケアシステムにおける口腔ケア、がん・心臓・脳・人工関節手術など周術期における口腔ケア、口腔機能改善や食生活改善ための評価と支援、歯科医療と口腔健康管理を切れ目なく支える地域医療体制の充実、加齢に伴う全身疾患や認知症への対応力、歯科衛生業務における文書作成、保健・医療・介護・福祉・地域との多職種連携における情報伝達・情報共有など多岐にわたる。
3. 超高齢社会による人口構造の変化、保健医療の技術革新を背景にして、歯科衛生士教育の学習内容は年々増加し、十数年前と比べて国家試験の出題分野も拡大して難易度もかなり上昇している。
4. 各科目到達目標は、歯科衛生士教育協議会コアカリキュラム 2022 年改訂版を参考とした。
5. 歯科衛生士を目指す学生として過ごす約1000日間、おおよそ一千項目の到達目標があるが、日々の勉強をコツコツと積み重ねて、自ら課題を探求し、問題を解決していく能力を身につけてほしい。
6. 数多くの科目がある中で、どの学年で何を学び、予防・診療・保健の主要3教科との関連等が俯瞰できれば、講師及び学生にとって教育や学習の便を図れると考えて、コアカリキュラム2022年改訂版を巻末に掲載したので、ご活用いただければと思う。
7. 一層の教育充実を図るため、太田校と高崎校の両校教職員が共同で編集にあたった。
8. 尚、実施にあたり止むを得ない事情によりシラバスの内容に多少の変更が生じることがある。

講義概要 (シラバス)

令和5年4月1日発行

発行

学校法人 有坂中央学園
中央医療歯科専門学校太田校
中央医療歯科専門学校高崎校

編集

中央医療歯科専門学校太田校 シラバス編集委員会
太田市東本町 41-12 電話 0276-25-8833
中央医療歯科専門学校高崎校 シラバス編集委員会
高崎市双葉町 2-8 電話 027-310-5088